

人権についての市民意識調査
結果報告書

令和7(2025)年3月

尼崎市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書を見る際の注意事項	1
5. 標本誤差	2
6. 回答者属性	3
II 調査結果	4
1. 人権全般について	4
(1)人権についての意識	4
(2)関心を持っている人権問題	6
(3)人権全般について	8
(4)相談機関の周知状況	14
(5)自身の人権侵害の経験	16
(6)受けた人権侵害の内容	17
(7)人権侵害を受けた際の対応	19
2. 人権問題について	21
(1)性別役割や男らしさ・女らしさについて	21
(2)子どもの人権について	25
(3)高齢者や障がいのある人の人権について	32
(4)性的マイノリティの人権について	39
(5)外国籍住民の人権について	46
(6)外国籍住民と共に暮らすことについて	54
(7)身の周りにいる人の状況	56
(8)様々な人権問題について	59
3. 結婚について	69
(1)結婚相手として重視する条件	69
(2)結婚の意思	72
4. 部落差別(同和問題)について	76
(1)部落差別(同和問題)の有無の認識	76
(2)部落差別(同和問題)を初めて知ったきっかけ	81
(3)家、マンションなど住宅を選ぶ際の考え	83

5. 人権問題についての学習経験	84
(1)人権問題についての学習経験	84
6. 人権問題の啓発活動について	88
(1)人権啓発活動への接触状況	88
(2)人権啓発活動に参加した感想	94
(3)人権啓発活動に参加した(読んだ)ことがない理由	97
7. 人権に関する法律などの認知状況について	99
(1)人権に関する法律・条例などの認知状況	99
(2)人権に関する用語の認知状況	106
(3)人権や差別についてのご意見	108
Ⅲ 多変量解析結果	117
Ⅳ スコア分析結果	125
Ⅴ 調査結果からみえてきたもの	132
Ⅵ 調査票	137

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、令和3(2021)年度に策定した尼崎市人権文化いきづくまちづくり計画に基づき、今後の人権教育・啓発施策を進めるうえでの基礎資料として活用することを目的とし、実施しました。

2. 調査の設計

調査対象	調査期間	調査方法
18歳以上の住民3,000人を 住民基本台帳登録者の中から 無作為抽出	令和6(2024)年10月3日～18日	郵送配布・郵送及びWEB回収 ※10月10日にお礼状兼 督促状を配布

※調査対象について、これまでの意識調査では若年層の回収率が低く、年齢別に比較を行った場合30歳未満からの有効回収数が少ないため、統計的に信頼できる比較分析が難しくなることがありました。そこで、今回の調査では30歳未満からの有効回収数を増やすために、尼崎市の性別・年齢別構成を反映して抽出した標本数2,500人(標準サンプル)に加えて、18～19歳300人、20～29歳200人を追加サンプルとして抽出し、合計3,000人を対象としました。

3. 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000件	871件※	29.0%※

※…標準サンプルのみの場合は有効回収数794件、有効回収率26.5%

4. 報告書を見る際の注意事項

- 調査結果を総数、男女別で示す際は、標準サンプルの794件を対象とし、年齢別に関しては追加サンプルを加えた871件を対象としています。また、設問間のクロス集計に関しては追加サンプルを含めていません。
- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示しています。
- 回答結果の割合「%」は、有効回答数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が「100.0%」にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が「100.0%」を超える場合があります。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図上の「MA%」という表記は複数回答(Multiple Answer の略)の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答(Limited Answer の略)の意味です。
- 回答者数(n)が少数となる場合は参考までに数値を見るにとどめ、結果の利用には注意が必要です。
- クロス集計(性別、年齢別)については、検定の結果1%水準で有意差が見られた項目に「**」、5%水準で有意差が見られた項目に「*」を表記しています。

※「設問間クロス」は5%水準で有意差が見られた結果のみ掲載し、各行の最大値に網掛けしています。

5. 標本誤差

一般的に標本調査においては、信頼度 95%のレベルでの結果を評価することが妥当とされており、信頼度 95%における標本誤差は次の式で算出されます。主な標本誤差については下表の通りです。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

信頼度 95%:同一の調査を 100 回実施した場合、うち 95 回はこの誤差の範囲におさまるということ

N:母集団数(令和6(2024)年9月1日現在の 18 歳以上の住民基本台帳登録者数 395,996 人)

n:標本数(本調査では回答総数=794)

P:測定値(回答の比率)

		P(%) n	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
			95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	50%
全体		794	1.5	2.1	2.5	2.8	3.0	3.2	3.3	3.4	3.5	3.5
性別	男性	304	2.4	3.4	4.0	4.5	4.9	5.1	5.4	5.5	5.6	5.6
	女性	469	2.0	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.5	4.5
	その他	1	42.7	58.8	70.0	78.4	84.9	89.8	93.5	96.0	97.5	98.0
	回答しない	16	10.7	14.7	17.5	19.6	21.2	22.5	23.4	24.0	24.4	24.5
年齢別	10 歳代	62	5.4	7.5	8.9	10.0	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	20 歳代	85	4.6	6.4	7.6	8.5	9.2	9.7	10.1	10.4	10.6	10.6
	30 歳代	85	4.6	6.4	7.6	8.5	9.2	9.7	10.1	10.4	10.6	10.6
	40 歳代	113	4.0	5.5	6.6	7.4	8.0	8.4	8.8	9.0	9.2	9.2
	50 歳代	144	3.6	4.9	5.8	6.5	7.1	7.5	7.8	8.0	8.1	8.2
	60 歳代	134	3.7	5.1	6.0	6.8	7.3	7.8	8.1	8.3	8.4	8.5
	70 歳代	168	3.3	4.5	5.4	6.0	6.5	6.9	7.2	7.4	7.5	7.6
	80 歳以上	74	5.0	6.8	8.1	9.1	9.9	10.4	10.9	11.2	11.3	11.4

※「年齢別」のみ追加サンプルを含んだ状態で算出

この表は、例えば問3の『差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある』の結果をみると、「どちらかといえばそう思う」は 15.0%であり、表中の標本誤差において“全体”の最も近い値(15%)は「2.5」となっている。すなわち、母集団を対象にこの調査を行えば、「どちらかといえばそう思う」と回答する人が 15.0%の前後 2.5%の区間内(12.5~17.5%)にあることが95%の確率で期待されることを意味している。ただし、今回の調査の回収率が 29.0%(標準サンプルのみの場合 26.5%)にとどまっていることは、十分に注意する必要がある。

6. 回答者属性

■性別 (上段：%、下段：人)

回答者数	男性	女性	その他	回答しない	無回答
100.0	38.3	59.1	0.1	2.0	0.5
794	304	469	1	16	4

■年齢 (上段：%、下段：人)

回答者数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
100.0	1.8	7.3	10.7	14.2	18.1	16.9	21.2	9.3	0.5
794	14	58	85	113	144	134	168	74	4

■年齢(追加サンプルを含む) (上段：%、下段：人)

回答者数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
100.0	7.1	9.8	9.8	13.0	16.5	15.4	19.3	8.5	0.7
871	62	85	85	113	144	134	168	74	6

■抽出種別 (上段：%、下段：人)

回答者数	標準サンプル (10歳代～80歳以上)	追加サンプル (10歳代～20歳代)	無回答
100.0	91.2	8.7	0.1
871	794	76	1

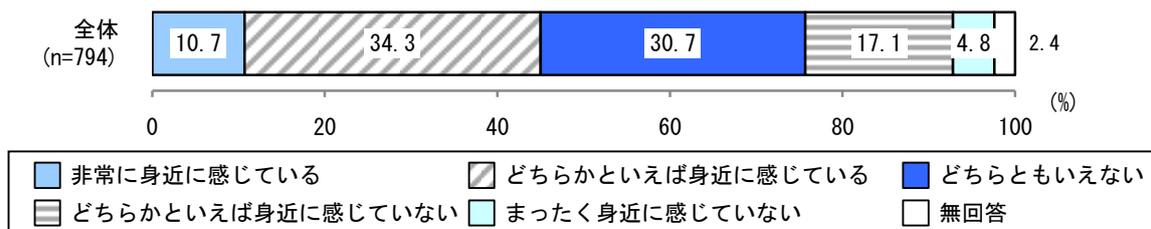
※「■抽出種別」の「無回答」は、標準サンプル・追加サンプルの区別がつかないデータを指す

II 調査結果

1. 人権全般について

(1)人権についての意識

問1 あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じられますか。あなたのお気持ちに最も近いものに○をおつけください。<○は1つだけ>



人権についての意識は、「どちらかといえば身近に感じている」が 34.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 30.7%、「どちらかといえば身近に感じていない」が 17.1%となっている。『身近に感じている』（「非常に身近に感じている」+「どちらかといえば身近に感じている」）は 45.0%、一方『身近に感じていない』（「どちらかといえば身近に感じていない」+「まったく身近に感じていない」）は 21.9%となっている。

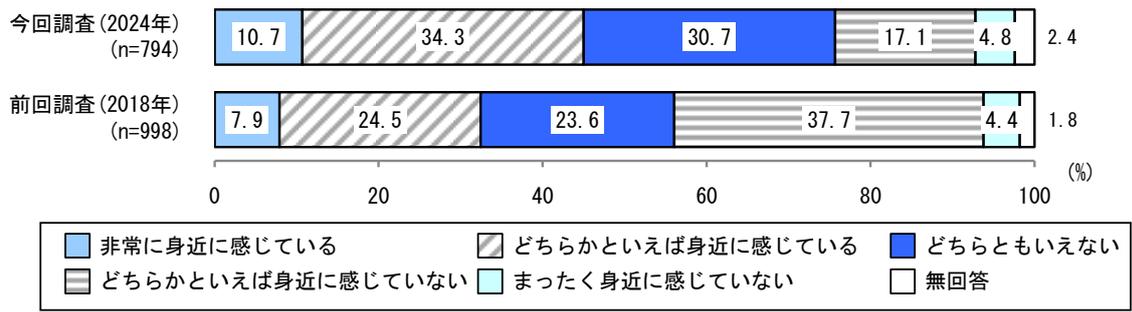
■性別・年齢別

区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的検定
			非常に身近に感じている	どちらかといえば身近に感じている	どちらともいえない	どちらかといえば身近に感じていない	まったく身近に感じていない	無回答	
性別	男性	304	11.2	34.5	26.0	18.8	6.3	3.3	
	女性	469	10.0	34.3	34.1	16.2	3.8	1.5	
年齢別	10歳代	62	6.5	45.2	29.0	17.7	1.6	-	
	20歳代	85	15.3	34.1	25.9	23.5	1.2	-	
	30歳代	85	5.9	34.1	34.1	21.2	3.5	1.2	
	40歳代	113	9.7	28.3	35.4	19.5	5.3	1.8	
	50歳代	144	10.4	31.9	33.3	17.4	4.9	2.1	
	60歳代	134	9.7	39.6	28.4	17.2	3.0	2.2	
	70歳代	168	11.3	32.1	31.0	13.1	8.3	4.2	
80歳以上	74	13.5	44.6	20.3	12.2	5.4	4.1		

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみても、大きな差はみられない。

【経年比較】

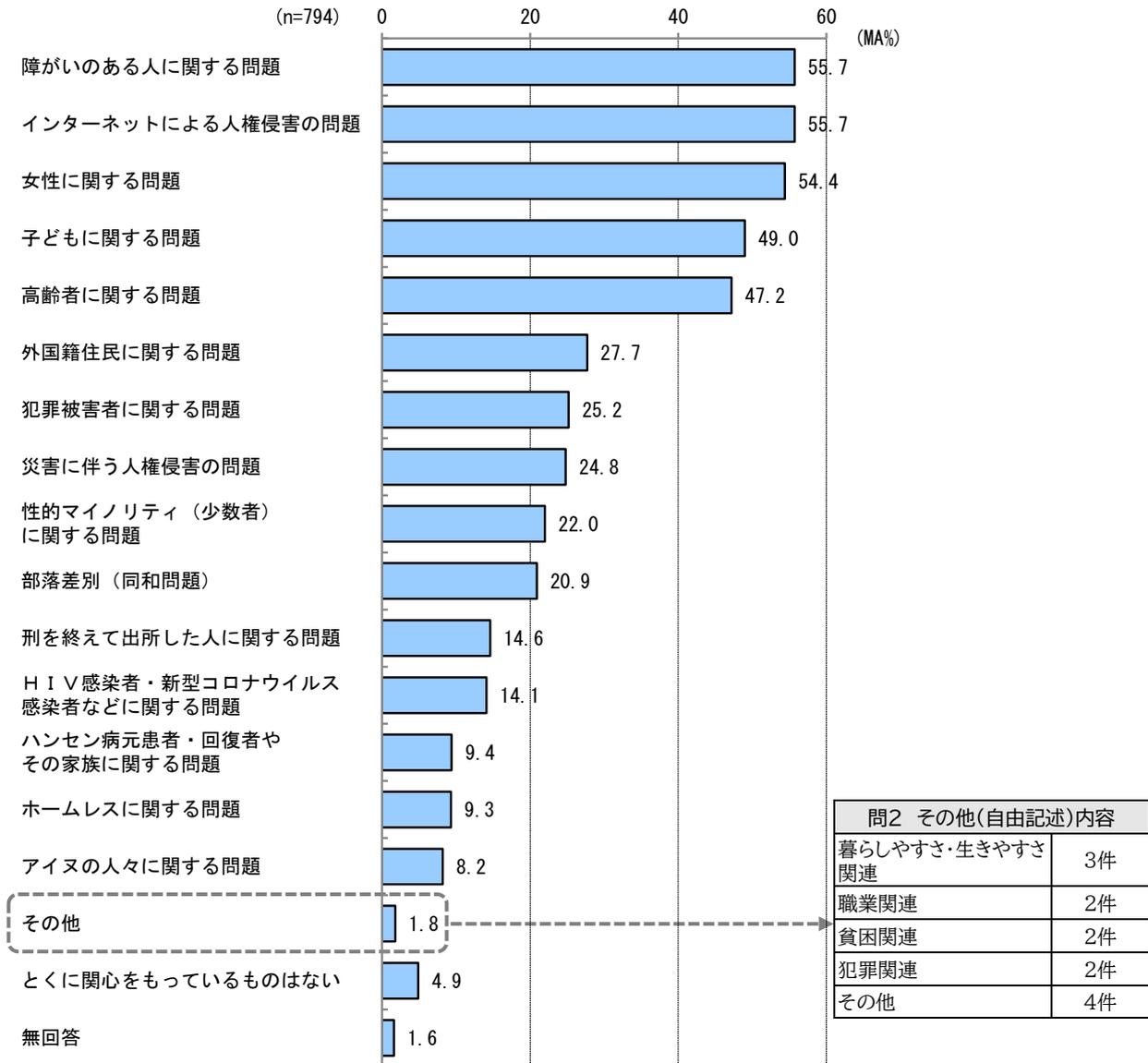


※前回調査では、選択肢が「かなり身近に感じている」「あまり身近に感じていない」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「どちらかといえば身近に感じていない」が 17.1%と前回調査より 20.6 ポイント低くなっている。

(2)関心を持っている人権問題

問 2 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題がありますが、あなたが、関心を持っているもの全部に○をおつけください。<○はいくつでも>



関心を持っている人権問題は、「障がいのある人に関する問題」「インターネットによる人権侵害の問題」「女性に関する問題」が過半数を占めている。また、「子どもに関する問題」「高齢者に関する問題」が4割台で高くなっている。

「その他」は計 14 件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の1件を除くと、計 13 件となっている。内容は、「独身者に関する問題」、「職業差別」、「子どもの虐待、ヤングケアラー、貧困、性搾取」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

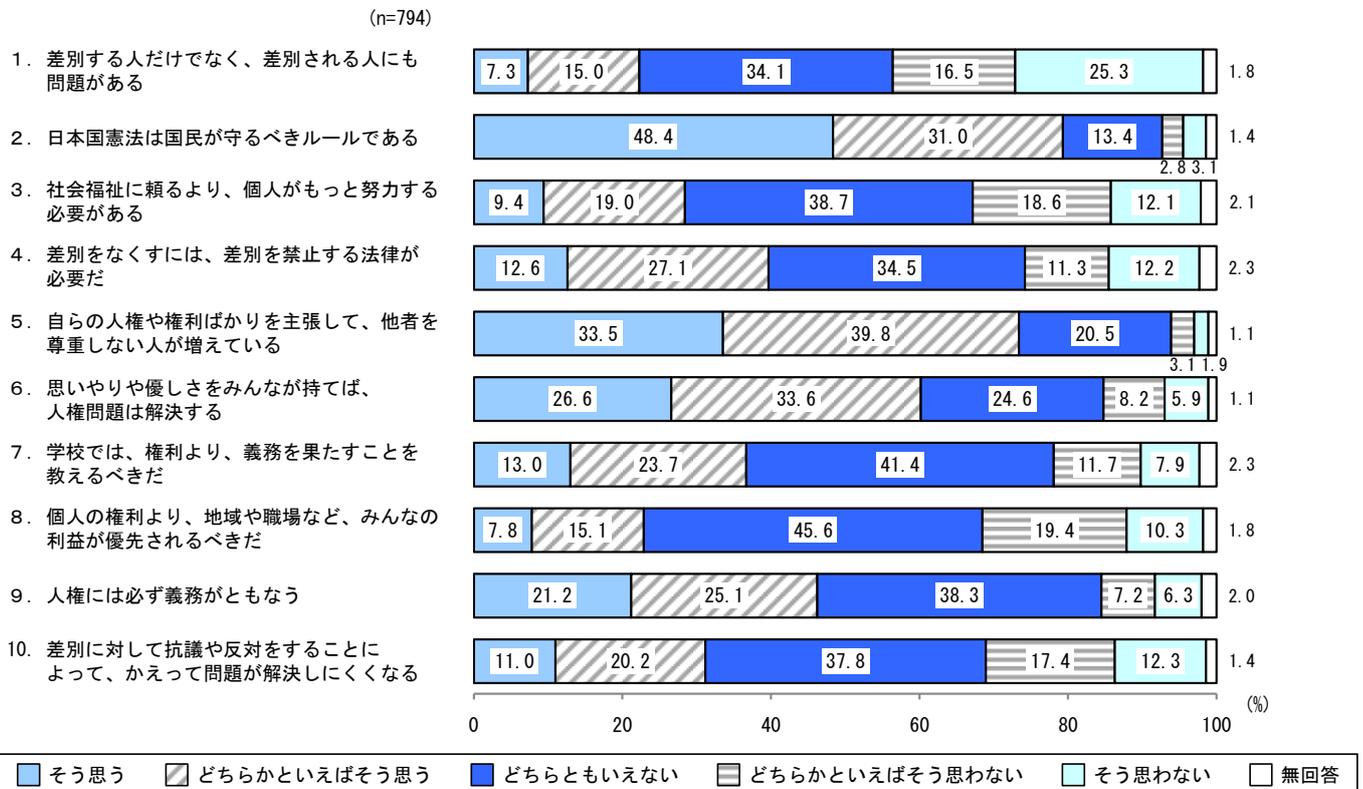
区分	回答者数(件)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	外国籍住民に関する問題	部落差別(同和問題)	アイヌの人々に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	犯罪被害者に関する問題	HIV感染者・新型コロナウイルス感染者などに関する問題	ハンセン病元患者・回復者やその家族に関する問題	インターネットによる人権侵害の問題	ホームレスに関する問題	性的マイノリティ(少数者)に関する問題	災害に伴う人権侵害の問題	その他	とくに関心をもっているものはない	無回答	
性別	男性	304	40.5	43.8	44.7	55.6	31.9	26.6	9.2	14.1	26.0	11.2	9.9	56.9	10.5	16.1	24.0	1.6	4.6	1.3
	女性	469	64.0	52.5	49.3	55.9	24.9	17.3	7.0	14.7	24.5	16.0	9.0	55.7	8.5	25.4	25.6	1.7	4.7	1.5
年齢別	10歳代	62	38.7	56.5	25.8	38.7	30.6	6.5	3.2	8.1	14.5	4.8	1.6	46.8	8.1	24.2	11.3	-	12.9	-
	20歳代	85	57.6	56.5	28.2	48.2	32.9	9.4	3.5	9.4	16.5	8.2	-	56.5	3.5	36.5	15.3	-	4.7	-
	30歳代	85	61.2	61.2	30.6	43.5	23.5	9.4	3.5	12.9	17.6	7.1	-	63.5	10.6	30.6	24.7	-	1.2	-
	40歳代	113	61.1	53.1	31.0	56.6	28.3	23.9	6.2	13.3	21.2	9.7	6.2	57.5	5.3	32.7	18.6	1.8	6.2	1.8
	50歳代	144	59.0	50.0	43.8	52.1	31.9	19.4	11.1	13.2	26.4	14.6	9.0	61.1	11.1	19.4	27.1	2.1	2.1	2.1
	60歳代	134	53.7	41.8	53.0	61.9	25.4	25.4	6.7	12.7	24.6	11.9	10.4	61.2	7.5	17.9	25.4	2.2	6.0	1.5
	70歳代	168	50.0	47.0	64.9	63.1	26.2	26.8	10.7	18.5	32.7	22.6	16.7	51.8	11.9	16.7	32.1	2.4	6.0	3.0
	80歳以上	74	40.5	43.2	68.9	60.8	31.1	25.7	10.8	18.9	29.7	20.3	17.6	36.5	14.9	8.1	27.0	2.7	5.4	-
統計的検定	性別	**	*			*	**			*	**	**	**		**	**				
	年齢別	**		**	**		**			*	**	**	**		**	**				

性別にみると、女性で「女性に関する問題」が64.0%で23.5ポイント、「性的マイノリティ(少数者)に関する問題」が25.4%で9.3ポイント、「子どもに関する問題」が52.5%で8.7ポイント男性より高くなっている。また、男性で「部落差別(同和問題)」「外国籍住民に関する問題」が女性より5ポイント以上高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「高齢者に関する問題」が68.9%と最も高く、20歳代以下より40ポイント以上高くなっている。

(3)人権全般について

問 3 人権についていろいろな考え方が 있습니다。次のことについてあなたはご思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「2.日本国憲法は国民が守るべきルールである」が79.4%と最も高く、次いで「5.自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている」が73.3%、「6.思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」が60.2%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「1.差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」が41.8%と最も高く、次いで「3.社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」が30.7%、「8.個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ」「10.差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」がともに29.7%となっている。

■性別・年齢別

1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある

2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである

区分		単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	10.2	18.4	33.2	16.1	20.4	1.6	*
	女性	469	5.8	12.8	34.5	17.3	27.7	1.9	
年齢別	10歳代	62	1.6	12.9	37.1	14.5	33.9	-	**
	20歳代	85	7.1	12.9	22.4	16.5	41.2	-	
	30歳代	85	2.4	11.8	37.6	21.2	27.1	-	
	40歳代	113	1.8	11.5	33.6	14.2	38.1	0.9	
	50歳代	144	4.2	16.0	38.9	15.3	24.3	1.4	
	60歳代	134	9.7	11.2	34.3	23.1	21.6	-	
	70歳代	168	10.1	17.3	35.7	13.1	19.6	4.2	
	80歳以上	74	18.9	24.3	27.0	13.5	12.2	4.1	

区分		単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	58.2	24.3	9.9	3.0	2.6	2.0	**
	女性	469	42.6	35.4	15.1	2.8	3.2	0.9	
年齢別	10歳代	62	53.2	35.5	9.7	1.6	-	-	**
	20歳代	85	44.7	42.4	5.9	3.5	3.5	-	
	30歳代	85	41.2	40.0	12.9	2.4	3.5	-	
	40歳代	113	44.2	27.4	18.6	1.8	7.1	0.9	
	50歳代	144	40.3	34.0	18.8	4.2	2.1	0.7	
	60歳代	134	47.8	32.8	12.7	2.2	3.7	0.7	
	70歳代	168	58.3	25.6	8.9	2.4	1.8	3.0	
	80歳以上	74	63.5	17.6	10.8	4.1	1.4	2.7	

3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある

4. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ

区分		単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	14.1	19.7	36.8	17.8	9.5	2.0	**
	女性	469	6.6	18.6	39.9	19.2	13.4	2.3	
年齢別	10歳代	62	6.5	29.0	38.7	19.4	3.2	3.2	**
	20歳代	85	8.2	22.4	25.9	27.1	16.5	-	
	30歳代	85	2.4	22.4	36.5	28.2	9.4	1.2	
	40歳代	113	9.7	10.6	46.0	17.7	15.9	-	
	50歳代	144	7.6	21.5	41.7	16.7	11.8	0.7	
	60歳代	134	9.0	12.7	47.0	15.7	14.2	1.5	
	70歳代	168	8.3	25.0	36.3	16.7	8.9	4.8	
	80歳以上	74	25.7	20.3	24.3	12.2	12.2	5.4	

区分		単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	14.8	27.0	31.3	11.5	13.2	2.3	**
	女性	469	10.9	27.3	36.2	11.7	11.5	2.3	
年齢別	10歳代	62	16.1	33.9	21.0	21.0	8.1	-	**
	20歳代	85	15.3	27.1	24.7	16.5	16.5	-	
	30歳代	85	7.1	36.5	31.8	10.6	12.9	1.2	
	40歳代	113	8.8	23.0	38.1	11.5	17.7	0.9	
	50歳代	144	14.6	28.5	32.6	16.7	5.6	2.1	
	60歳代	134	8.2	31.3	41.0	7.5	11.2	0.7	
	70歳代	168	17.3	21.4	37.5	8.9	10.1	4.8	
	80歳以上	74	16.2	18.9	32.4	5.4	23.0	4.1	

5. 自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重
しない人が増えている

6. 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権
問題は解決する

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い		無 回答
性別	男性	304	37.2	37.8	20.1	2.3	1.3	1.3	
	女性	469	30.3	42.2	20.5	3.8	2.1	1.1	
年齢別	10歳代	62	27.4	43.5	22.6	6.5	-	-	**
	20歳代	85	36.5	35.3	21.2	4.7	1.2	1.2	
	30歳代	85	40.0	32.9	20.0	4.7	2.4	-	
	40歳代	113	31.0	37.2	23.0	6.2	2.7	-	
	50歳代	144	34.0	41.7	19.4	2.1	2.1	0.7	
	60歳代	134	30.6	44.8	22.4	1.5	0.7	-	
	70歳代	168	35.1	39.3	19.0	1.8	1.8	3.0	
	80歳以上	74	32.4	41.9	18.9	2.7	2.7	1.4	

7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教える
べきだ

8. 個人の権利より、地域や職場など、みんなの
利益が優先されるべきだ

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い		無 回答
性別	男性	304	18.1	26.6	37.2	7.9	7.2	3.0	**
	女性	469	9.6	22.2	43.5	14.5	8.3	1.9	
年齢別	10歳代	62	3.2	27.4	43.5	21.0	3.2	1.6	**
	20歳代	85	10.6	17.6	43.5	21.2	7.1	-	
	30歳代	85	8.2	15.3	55.3	17.6	3.5	-	
	40歳代	113	7.1	23.9	45.1	13.3	10.6	-	
	50歳代	144	9.7	25.7	43.1	10.4	9.0	2.1	
	60歳代	134	13.4	24.6	38.8	11.9	9.0	2.2	
	70歳代	168	17.3	24.4	36.3	10.1	7.1	4.8	
	80歳以上	74	29.7	27.0	28.4	1.4	9.5	4.1	

9. 人権には必ず義務がともなう

10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	25.0	27.6	30.3	9.2	6.3	1.6	**	304	13.8	20.7	36.5	16.8	10.9	1.3	
	女性	469	18.8	23.7	43.3	6.0	6.2	2.1		469	9.2	20.3	38.8	17.9	12.6	1.3	
年齢別	10歳代	62	22.6	25.8	43.5	6.5	1.6	-	**	62	22.6	21.0	37.1	12.9	6.5	-	
	20歳代	85	27.1	24.7	28.2	11.8	7.1	1.2		85	10.6	27.1	29.4	20.0	12.9	-	
	30歳代	85	18.8	30.6	40.0	4.7	5.9	-		85	10.6	23.5	38.8	21.2	5.9	-	
	40歳代	113	18.6	21.2	41.6	8.0	9.7	0.9		113	12.4	17.7	38.1	19.5	12.4	-	
	50歳代	144	11.8	24.3	45.8	11.8	5.6	0.7		144	7.6	15.3	43.8	17.4	14.6	1.4	
	60歳代	134	19.4	22.4	43.3	9.0	6.0	-		134	10.4	19.4	38.8	15.7	15.7	-	
	70歳代	168	24.4	26.8	33.9	4.2	6.5	4.2		168	10.7	20.2	39.3	14.9	11.9	3.0	
	80歳以上	74	41.9	23.0	21.6	1.4	5.4	6.8		74	18.9	27.0	24.3	13.5	12.2	4.1	

性別にみると、「1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」「2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである」「3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」「7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」「9. 人権には必ず義務がともなう」において『そう思う』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」「3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」「7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」「8. 個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ」「9. 人権には必ず義務がともなう」において『そう思う』が高くなっている。

■設問間クロス

1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある

単位:%

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	21.6	29.1	47.1	2.2
		「どちらともいえない」	244	23.4	39.3	35.7	1.6
		『身近に感じていない』	174	21.3	37.9	39.7	1.1
問 3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	26.6	32.4	40.0	1.0
		「どちらともいえない」	195	15.9	40.0	42.6	1.5
		『そう思わない』	112	16.1	33.9	50.0	-
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	33.8	24.3	40.5	1.4
		「どちらともいえない」	286	21.3	43.4	33.2	2.1
		『そう思わない』	406	20.7	30.0	48.0	1.2

3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある

単位:%

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	26.3	36.7	33.9	3.1
		「どちらともいえない」	244	27.0	45.5	25.0	2.5
		『身近に感じていない』	174	33.9	33.9	32.2	-
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	27.0	35.1	35.1	2.7
		「どちらともいえない」	286	28.0	44.8	24.8	2.4
		『そう思わない』	406	29.1	35.5	34.5	1.0

10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

単位:%

区分		回答者数 (件)	『 <u>そう思う</u> 』	「 <u>どちらともいえない</u> 」	『 <u>そう思わない</u> 』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『 <u>身近に感じている</u> 』	357	32.5	31.9	34.2	1.4
		「 <u>どちらともいえない</u> 」	244	28.7	44.7	24.6	2.0
		『 <u>身近に感じていない</u> 』	174	32.8	41.4	25.3	0.6
問3 1	差別するだけでなく、差別される人にも問題がある	『 <u>そう思う</u> 』	177	55.9	31.6	11.3	1.1
		「 <u>どちらともいえない</u> 」	271	28.8	47.6	22.9	0.7
		『 <u>そう思わない</u> 』	332	19.9	34.3	45.5	0.3
問3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『 <u>そう思う</u> 』	478	35.8	38.3	25.7	0.2
		「 <u>どちらともいえない</u> 」	195	22.6	44.1	31.8	1.5
		『 <u>そう思わない</u> 』	112	28.6	26.8	44.6	-
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『 <u>そう思う</u> 』	74	41.9	39.2	17.6	1.4
		「 <u>どちらともいえない</u> 」	286	34.6	40.6	23.1	1.7
		『 <u>そう思わない</u> 』	406	27.3	36.0	36.5	0.2

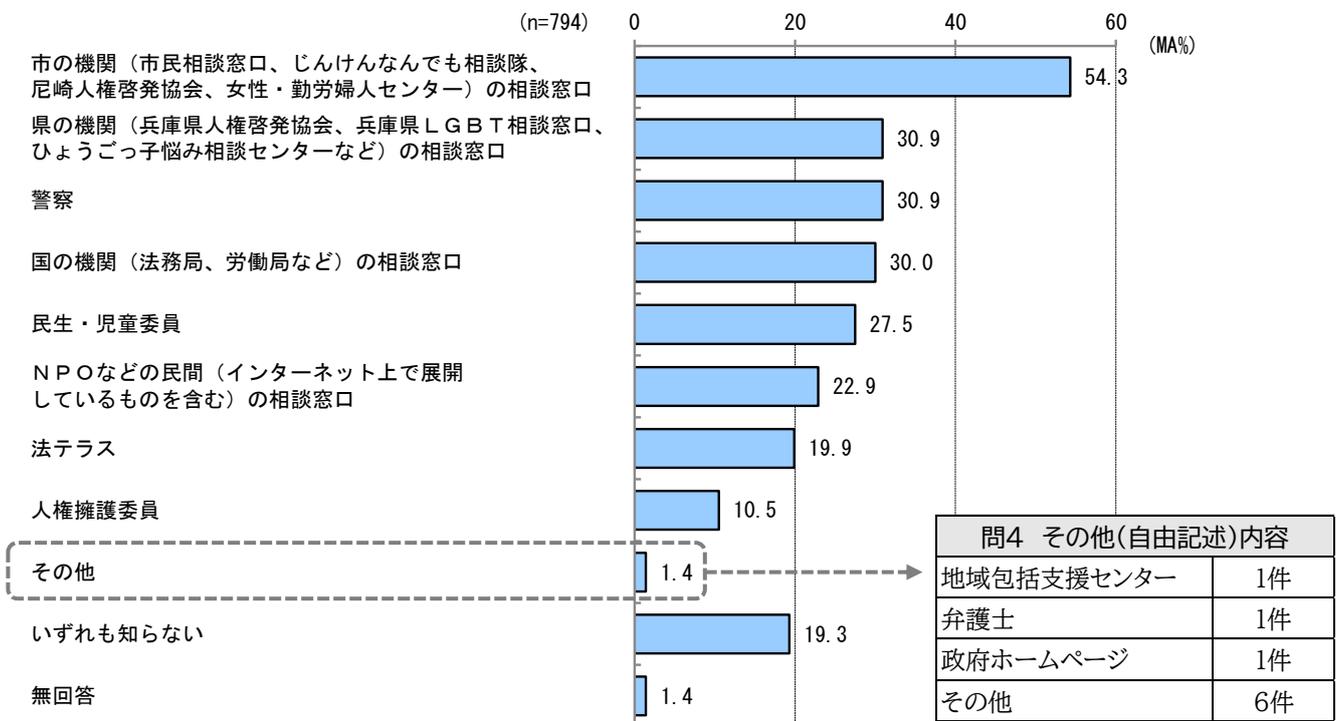
「1. 差別するだけでなく、差別される人にも問題がある」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思う』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問3-1「差別するだけでなく、差別される人にも問題がある」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。また、問1、問3-6、問 13-14 においては「1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」と同じ傾向がみられる。

(4)相談機関の周知状況

問 4 人権についての相談先について、ご存知のもの全部に○をおつけください。<○はいくつでも>



人権についての相談機関の周知状況は、「市の機関(市民相談窓口、じんけんなんでも相談隊、尼崎人権啓発協会、女性・勤労婦人センター)の相談窓口」が 54.3%と最も高く、次いで「県の機関(兵庫県人権啓発協会、兵庫県LGBT相談窓口、ひょうごっ子悩み相談センターなど)の相談窓口」「警察」がともに 30.9%、「国の機関(法務局、労働局など)の相談窓口」が30.0%となっている。また、「いずれも知らない」は19.3%となっている。

「その他」は計 11 件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の 2 件を除くと、計9件となっている。内容は、「地域包括支援センター」や「弁護士」、「政府ホームページ」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位：%

区分		回答者数（件）	国の機関（法務局、労働局など）の相談窓口	県庁（兵庫県）の相談窓口	市役所（市民相談窓口、じんけんなんでも相談センター）の相談窓口	NPOなどの民間（インターネット上で展開しているものを含む）の相談窓口	人権擁護委員	民生・児童委員	法テラス	警察	その他	いずれも知らない	無回答
性別	男性	304	32.6	28.3	53.3	18.8	12.8	26.6	20.1	32.2	1.0	20.1	1.6
	女性	469	28.4	32.8	55.4	25.6	9.2	28.6	20.3	30.7	1.1	18.6	0.9
年齢別	10歳代	62	22.6	37.1	25.8	21.0	1.6	11.3	25.8	38.7	-	29.0	-
	20歳代	85	29.4	31.8	41.2	28.2	4.7	10.6	17.6	31.8	-	30.6	-
	30歳代	85	27.1	27.1	34.1	28.2	2.4	10.6	27.1	28.2	-	32.9	2.4
	40歳代	113	27.4	33.6	45.1	21.2	5.3	21.2	23.0	29.2	3.5	23.9	-
	50歳代	144	29.2	32.6	50.0	30.6	5.6	21.5	20.1	24.3	1.4	18.8	2.1
	60歳代	134	32.8	29.9	66.4	22.4	10.4	32.1	26.1	26.9	2.2	12.7	0.7
	70歳代	168	28.6	28.0	67.3	15.5	15.5	42.9	14.9	35.7	0.6	14.9	0.6
	80歳以上	74	37.8	35.1	62.2	14.9	32.4	40.5	9.5	41.9	1.4	13.5	4.1
統計的検定		性別				*							
		年齢別			**	*	**	**	*			**	

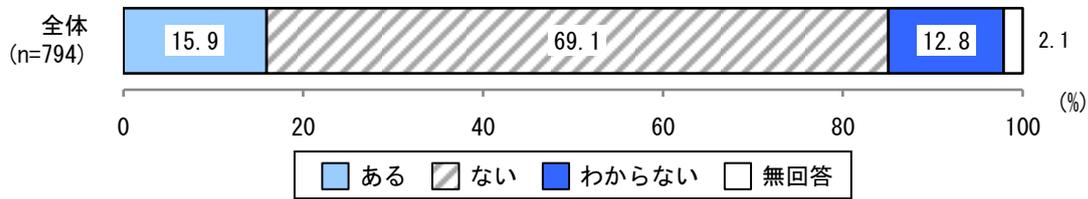
性別にみると、女性で「NPOなどの民間（インターネット上で展開しているものを含む）の相談窓口」が25.6%と男性より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「民生・児童委員」「人権擁護委員」の割合が高くなる傾向にある一方で、「いずれも知らない」は概ね年齢が下がるほど割合が高くなる傾向にある。

(5) 自身の人権侵害の経験

問 5 あなたは、ここ5年以内に、自己的人権が侵害されたと思われたことがありますか。

<○は1つだけ>



ここ5年以内の自身の人権侵害の経験について、「ない」が 69.1%、「ある」が 15.9%、「わからない」が 12.8%となっている。

■性別・年齢別

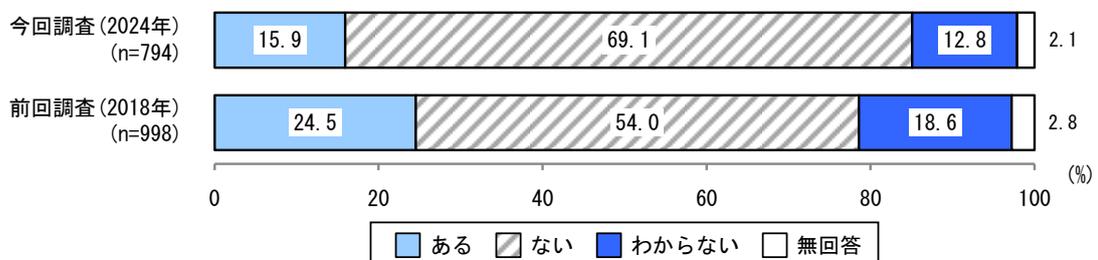
単位:%

区分		回答者数 (件)	ある	ない	わからない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	9.2	76.3	11.5	3.0	**
	女性	469	19.8	65.5	13.2	1.5	
年齢別	10歳代	62	4.8	75.8	16.1	3.2	**
	20歳代	85	20.0	65.9	14.1	-	
	30歳代	85	20.0	58.8	21.2	-	
	40歳代	113	23.0	60.2	15.0	1.8	
	50歳代	144	18.8	68.1	11.8	1.4	
	60歳代	134	12.7	72.4	9.7	5.2	
	70歳代	168	9.5	79.2	8.3	3.0	
	80歳以上	74	13.5	70.3	14.9	1.4	

性別にみると、男性で「ない」が 76.3%と女性より 10.8 ポイント高くなっている。一方、女性で「ある」が 19.8%と男性より 10.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70歳代で「ない」が 79.2%と 30歳代より 20.4 ポイント高くなっている。

【経年比較】



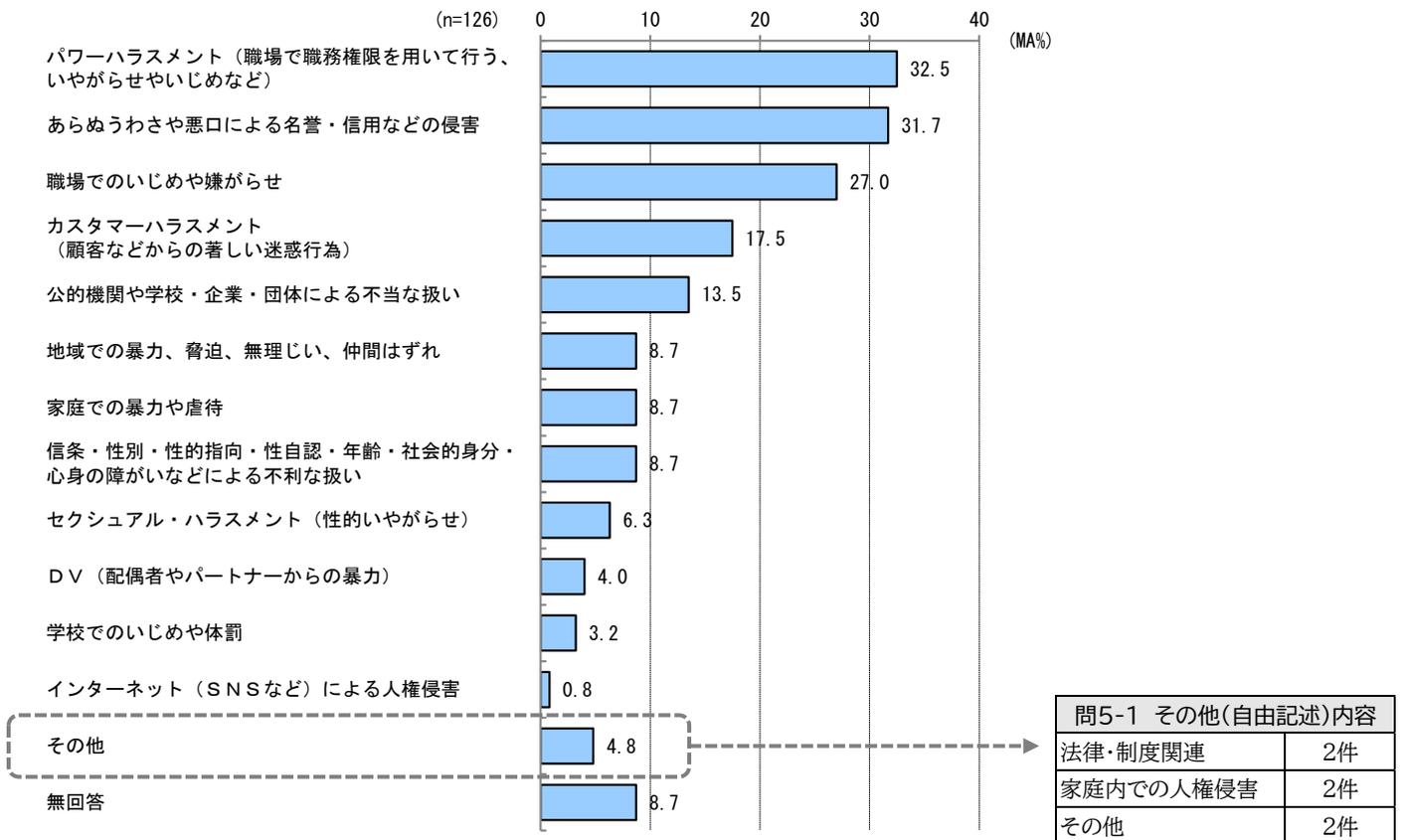
※前回調査では、設問文が「あなたは、今までに、自己的人権が侵害されたと思われたことがありますか」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「ない」が 69.1%と前回調査より 15.1 ポイント高くなっている。

(6)受けた人権侵害の内容

【問5-1と問5-2は、問5で「ある」とお答えいただいた方におたずねします。】

問5-1 どのような人権侵害でしたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。<○はいくつでも>



人権侵害を受けた経験があると答えた方に、人権侵害の内容をたずねたところ、「パワーハラスメント(職場で職務権限を用いて行う、いやがらせやいじめなど)」が32.5%と最も高く、次いで「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」が31.7%、「職場でのいじめや嫌がらせ」が27.0%となっている。

「その他」は計6件となっている。内容は、「後見人制度の利用につなげられた(被補助人になっている)」、「夫の実家の中での私(妻)の位置、意味合い」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

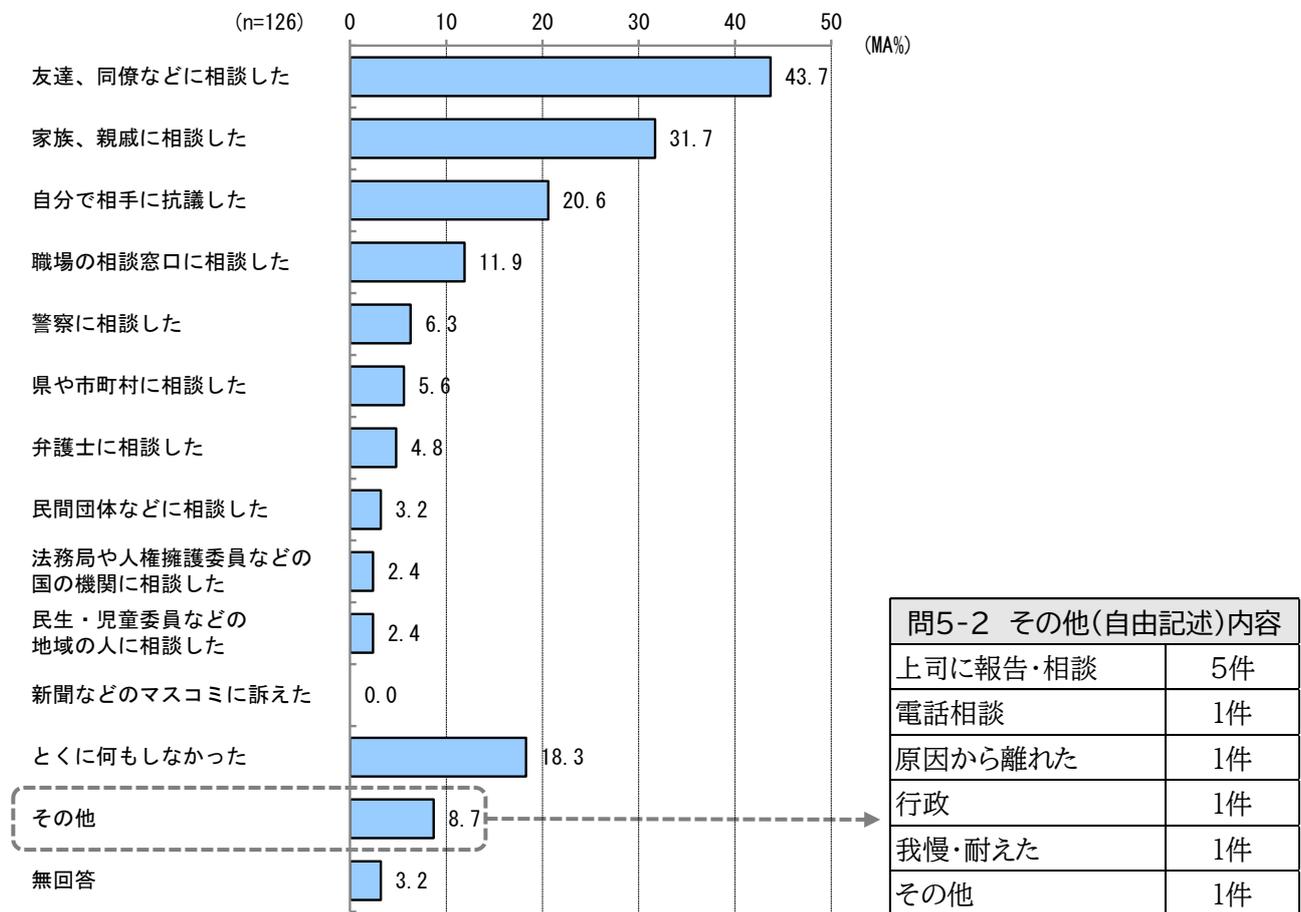
区分		回答者数(件)	あらゆるうわさや悪口による名誉・信用などの侵害	公的機関や学校・企業・団体による不当な扱い	地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	職場でのいじめや嫌がらせ	家庭での暴力や虐待	学校でのいじめや体罰	信条・性別・性的指向・性自認・年齢・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い	パワーハラスメント(職場で職務権限を用いて行う、いやがらせやいじめなど)	カスタマーハラスメント(顧客などからの著しい迷惑行為)	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	DV(配偶者やパートナーからの暴力)	インターネット(SNSなど)による人権侵害	その他	無回答
性別	男性	28	28.6	10.7	7.1	25.0	10.7	7.1	10.7	28.6	17.9	-	-	-	-	17.9
	女性	93	32.3	14.0	9.7	26.9	7.5	2.2	8.6	33.3	18.3	8.6	5.4	1.1	5.4	5.4
年齢別	10歳代	3	33.3	-	-	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-	-
	20歳代	17	35.3	11.8	11.8	11.8	11.8	-	5.9	29.4	29.4	17.6	11.8	5.9	5.9	-
	30歳代	17	35.3	17.6	11.8	23.5	11.8	5.9	11.8	35.3	11.8	11.8	-	-	-	-
	40歳代	26	34.6	15.4	3.8	34.6	15.4	3.8	19.2	38.5	26.9	3.8	-	-	3.8	3.8
	50歳代	27	22.2	11.1	3.7	40.7	7.4	-	3.7	40.7	14.8	11.1	3.7	-	-	3.7
	60歳代	17	41.2	17.6	5.9	23.5	5.9	-	11.8	35.3	17.6	-	11.8	5.9	11.8	5.9
	70歳代	16	31.3	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	-	12.5	25.0	-	6.3	-	12.5	18.8
80歳以上	10	40.0	10.0	20.0	30.0	-	10.0	10.0	20.0	10.0	-	-	-	-	30.0	
統計的検定		性別														
		年齢別					**									

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、10歳代で「学校でのいじめや体罰」が66.7%となっている。

(7)人権侵害を受けた際の対応

問5-2 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。
 <○はいくつでも>



人権侵害を受けた際の対応は、「友達、同僚などに相談した」が 43.7%と最も高く、次いで「家族、親戚に相談した」が 31.7%、「自分で相手に抗議した」が 20.6%となっている。また、「とくに何もしなかった」は 18.3%となっている。

「その他」は計 11 件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の1件を除くと、計 10 件となっている。内容は、「上司に相談した」、「いのちの電話」、「最初は諦めていたが、離婚した」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

区分		回答者数(件)	友達、同僚などに相談した	家族、親戚に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	県や市町村に相談した	法務局や人権擁護委員などの国の機関に相談した	職場の相談窓口相談した	民間団体などに相談した	民生・児童委員などの地域の人に相談した	新聞などのマスコミに訴えた	自分で相手に抗議した	とくに何もしなかった	その他	無回答
性別	男性	28	14.3	17.9	10.7	-	7.1	-	10.7	7.1	3.6	-	25.0	32.1	7.1	7.1
	女性	93	51.6	36.6	5.4	6.5	5.4	3.2	12.9	1.1	2.2	-	19.4	14.0	8.6	2.2
年齢別	10歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-
	20歳代	17	52.9	23.5	5.9	-	11.8	-	11.8	5.9	-	-	23.5	17.6	-	-
	30歳代	17	52.9	47.1	-	-	5.9	5.9	-	-	-	-	17.6	17.6	5.9	5.9
	40歳代	26	50.0	42.3	-	3.8	-	3.8	19.2	3.8	-	-	15.4	19.2	3.8	-
	50歳代	27	40.7	29.6	3.7	7.4	3.7	-	14.8	-	-	-	25.9	18.5	11.1	3.7
	60歳代	17	41.2	17.6	11.8	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-	-	35.3	17.6	29.4	-
	70歳代	16	37.5	18.8	18.8	12.5	12.5	6.3	6.3	-	12.5	-	12.5	18.8	6.3	-
	80歳以上	10	20.0	40.0	10.0	-	10.0	-	20.0	10.0	10.0	-	20.0	10.0	-	20.0
統計的検定	性別	**											*			
	年齢別															

性別にみると、女性で「友達、同僚などに相談した」が51.6%と男性より37.3ポイント高くなっている。また、男性で「とくに何もしなかった」が32.1%と女性より18.1ポイント高くなっている。

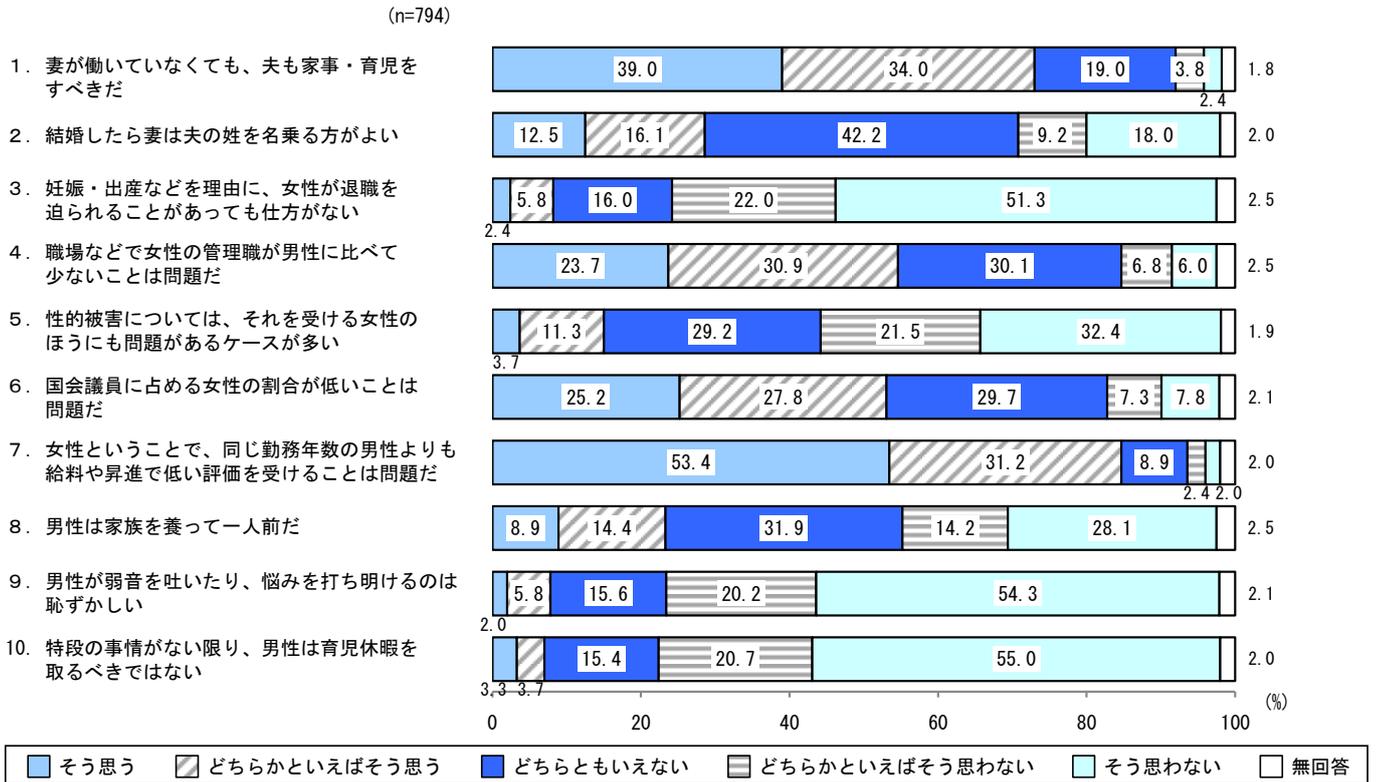
年齢別にみても、大きな差はみられない。

2. 人権問題について

(1)性別役割や男らしさ・女らしさについて

問6 「性別役割や男らしさ・女らしさ」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたは
どう思われますか。あなたのお考えに最も近いものにおつください。

<○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「7.女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けることは問題だ」が 84.6%と最も高く、次いで「1.妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ」が 73.0%、「4.職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ」が 54.6%、「6.国会議員に占める女性の割合が低いことは問題だ」が 53.0%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「10.特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない」が 75.7%と最も高く、次いで「9.男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい」が 74.5%、「3.妊娠・出産などを理由に、女性が退職を迫られることがあっても仕方がない」が 73.3%となっている。

■性別・年齢別

1. 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ

2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定	
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答
性別	男性	304	38.5	36.2	18.4	3.0	2.3	1.6	
	女性	469	39.9	32.8	19.4	3.8	2.1	1.9	
年齢別	10歳代	62	38.7	33.9	17.7	8.1	1.6	-	
	20歳代	85	36.5	31.8	21.2	5.9	3.5	1.2	
	30歳代	85	42.4	32.9	16.5	4.7	3.5	-	
	40歳代	113	51.3	27.4	15.9	2.7	1.8	0.9	
	50歳代	144	41.7	35.4	17.4	4.2	0.7	0.7	
	60歳代	134	35.8	41.8	17.2	2.2	2.2	0.7	
	70歳代	168	33.3	35.7	20.8	4.8	3.0	2.4	
	80歳以上	74	32.4	25.7	27.0	4.1	2.7	8.1	

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定	
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答
性別	男性	304	15.8	22.4	41.4	7.2	10.5	2.6	
	女性	469	9.8	12.6	42.4	10.7	22.8	1.7	**
年齢別	10歳代	62	4.8	21.0	38.7	14.5	21.0	-	
	20歳代	85	4.7	12.9	31.8	14.1	35.3	1.2	
	30歳代	85	2.4	18.8	38.8	14.1	25.9	-	
	40歳代	113	5.3	8.0	52.2	10.6	23.0	0.9	**
	50歳代	144	7.6	15.3	45.8	9.0	21.5	0.7	
	60歳代	134	11.2	18.7	49.3	7.5	11.9	1.5	
	70歳代	168	21.4	16.7	38.7	6.0	13.7	3.6	
	80歳以上	74	36.5	20.3	27.0	4.1	5.4	6.8	

3. 妊娠・出産などを理由に、女性が退職を迫られることがあっても仕方がない

4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定	
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答
性別	男性	304	3.3	5.9	16.1	24.7	47.0	3.0	
	女性	469	1.3	5.8	15.6	20.5	54.6	2.3	
年齢別	10歳代	62	6.5	6.5	19.4	24.2	41.9	1.6	
	20歳代	85	3.5	4.7	9.4	15.3	65.9	1.2	
	30歳代	85	1.2	14.1	17.6	17.6	49.4	-	
	40歳代	113	4.4	8.0	17.7	23.0	46.0	0.9	*
	50歳代	144	0.7	4.2	18.8	22.2	54.2	-	
	60歳代	134	-	3.0	11.9	26.9	56.0	2.2	
	70歳代	168	4.2	6.0	16.1	21.4	48.2	4.2	
	80歳以上	74	4.1	2.7	17.6	18.9	45.9	10.8	

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定	
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答
性別	男性	304	19.1	28.0	32.9	7.9	9.2	3.0	
	女性	469	26.9	33.3	27.9	6.4	3.4	2.1	**
年齢別	10歳代	62	19.4	25.8	40.3	3.2	11.3	-	
	20歳代	85	23.5	29.4	17.6	18.8	9.4	1.2	
	30歳代	85	16.5	36.5	31.8	8.2	7.1	-	
	40歳代	113	30.1	25.7	23.9	5.3	13.3	1.8	**
	50歳代	144	25.0	32.6	33.3	5.6	2.8	0.7	
	60歳代	134	25.4	34.3	27.6	5.2	5.2	2.2	
	70歳代	168	22.0	34.5	28.6	5.4	5.4	4.2	
	80歳以上	74	17.6	23.0	43.2	6.8	2.7	6.8	

5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも
問題があるケースが多い

6. 国会議員に占める女性の割合が低いことは
問題だ

区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	無 回 答	
性別	男性	304	4.3	13.5	27.3	22.4	29.6	3.0	**
	女性	469	3.4	9.8	30.1	21.7	33.7	1.3	
年齢別	10歳代	62	1.6	6.5	33.9	24.2	33.9	-	**
	20歳代	85	4.7	7.1	16.5	21.2	49.4	1.2	
	30歳代	85	2.4	10.6	18.8	21.2	45.9	1.2	
	40歳代	113	0.9	5.3	29.2	20.4	43.4	0.9	
	50歳代	144	1.4	7.6	31.9	21.5	37.5	-	
	60歳代	134	3.7	10.4	35.1	20.1	29.1	1.5	
	70歳代	168	5.4	13.7	35.7	23.2	19.0	3.0	
	80歳以上	74	8.1	27.0	24.3	21.6	12.2	6.8	

区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	無 回 答	
性別	男性	304	20.7	26.6	28.0	8.6	13.5	2.6	**
	女性	469	27.7	29.4	30.7	6.4	3.8	1.9	
年齢別	10歳代	62	24.2	21.0	38.7	8.1	8.1	-	**
	20歳代	85	23.5	29.4	21.2	11.8	11.8	2.4	
	30歳代	85	20.0	28.2	24.7	16.5	9.4	1.2	
	40歳代	113	30.1	26.5	26.5	4.4	11.5	0.9	
	50歳代	144	27.1	22.9	36.1	8.3	5.6	-	
	60歳代	134	24.6	36.6	26.1	3.7	7.5	1.5	
	70歳代	168	23.8	29.8	28.6	5.4	8.3	4.2	
	80歳以上	74	27.0	14.9	44.6	5.4	2.7	5.4	

7. 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や
昇進で低い評価を受けることは問題だ

8. 男性は家族を養って一人前だ

区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	無 回 答	
性別	男性	304	45.7	37.2	10.5	3.3	1.0	2.3	**
	女性	469	58.6	27.7	7.5	1.9	2.3	1.9	
年齢別	10歳代	62	54.8	33.9	9.7	-	1.6	-	**
	20歳代	85	69.4	21.2	3.5	1.2	3.5	1.2	
	30歳代	85	61.2	30.6	4.7	1.2	2.4	-	
	40歳代	113	60.2	22.1	11.5	2.7	2.7	0.9	
	50歳代	144	59.0	30.6	6.3	2.1	2.1	-	
	60歳代	134	57.5	32.1	6.0	2.2	0.7	1.5	
	70歳代	168	36.9	41.7	13.1	2.4	1.8	4.2	
	80歳以上	74	40.5	28.4	16.2	5.4	2.7	6.8	

区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	無 回 答	
性別	男性	304	15.8	19.1	31.9	12.5	18.4	2.3	**
	女性	469	4.7	11.5	31.1	15.1	34.8	2.8	
年齢別	10歳代	62	9.7	17.7	29.0	14.5	29.0	-	**
	20歳代	85	2.4	8.2	22.4	20.0	45.9	1.2	
	30歳代	85	7.1	15.3	21.2	17.6	36.5	2.4	
	40歳代	113	3.5	10.6	31.0	17.7	36.3	0.9	
	50歳代	144	12.5	11.8	32.6	11.8	31.3	-	
	60歳代	134	8.2	16.4	35.8	11.9	26.1	1.5	
	70歳代	168	12.5	16.1	38.1	11.3	17.3	4.8	
	80歳以上	74	14.9	18.9	29.7	10.8	17.6	8.1	

9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは
恥ずかしい

10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を
取るべきではない

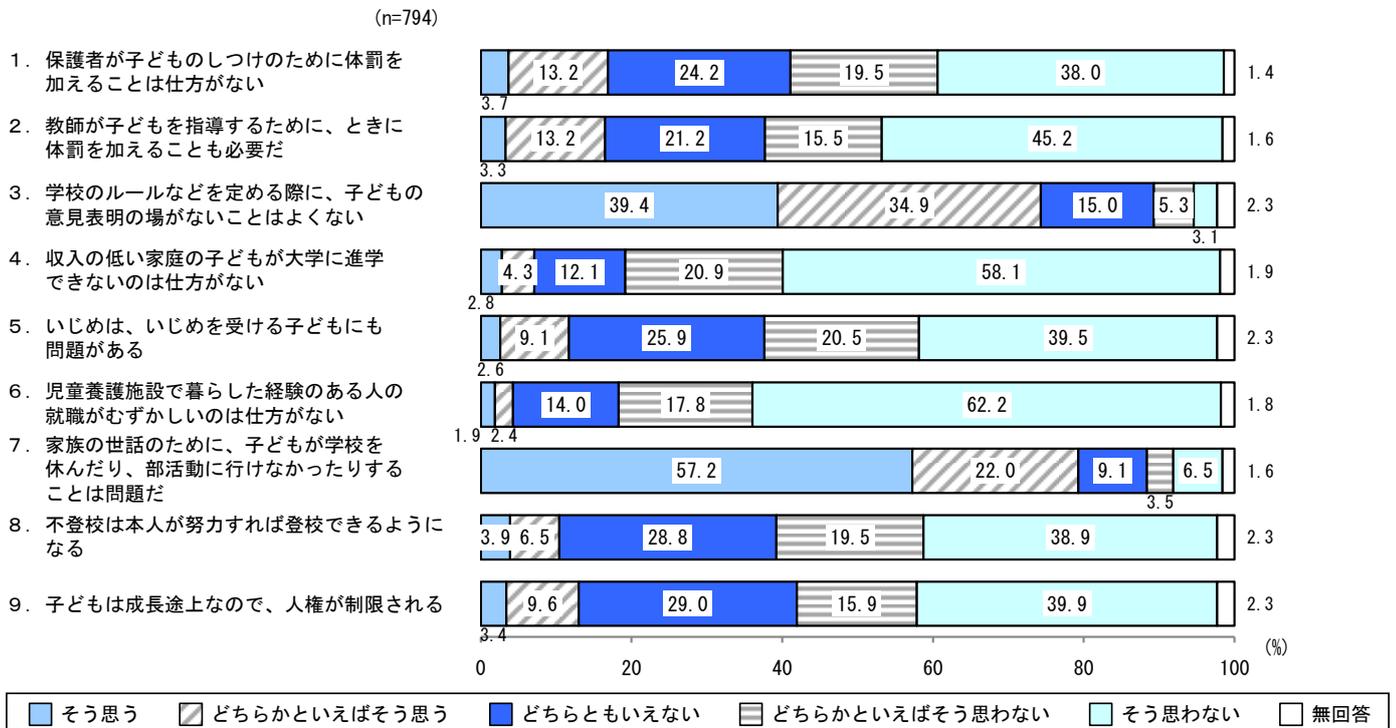
		単位:%							単位:%								
区分	回答者数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	統計 的 検 定		回答者数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	統計 的 検 定
性別	男性	304	3.9	12.8	20.7	23.7	35.9	3.0	**	304	4.9	4.3	15.8	24.7	47.0	3.3	**
	女性	469	0.6	1.1	11.9	18.1	66.5	1.7	**	469	1.9	3.0	15.1	18.1	60.6	1.3	**
年齢別	10歳代	62	1.6	6.5	11.3	19.4	61.3	-	**	62	1.6	4.8	11.3	24.2	58.1	-	**
	20歳代	85	2.4	2.4	2.4	9.4	82.4	1.2		85	-	2.4	3.5	4.7	88.2	1.2	
	30歳代	85	2.4	4.7	11.8	17.6	62.4	1.2		85	1.2	1.2	9.4	21.2	65.9	1.2	
	40歳代	113	0.9	5.3	10.6	17.7	64.6	0.9		113	2.7	1.8	14.2	20.4	60.2	0.9	
	50歳代	144	2.1	6.3	13.2	20.8	57.6	-		144	2.1	6.9	16.7	20.8	52.8	0.7	
	60歳代	134	2.2	5.2	16.4	26.9	47.8	1.5		134	0.7	4.5	18.7	23.1	51.5	1.5	
	70歳代	168	1.8	7.7	23.2	17.9	44.6	4.8		168	4.2	4.2	18.5	24.4	45.2	3.6	
	80歳以上	74	5.4	5.4	25.7	25.7	32.4	5.4		74	12.2	1.4	21.6	14.9	44.6	5.4	

性別にみると、「2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい」「8. 男性は家族を養って一人前だ」「9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい」「10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない」において『そう思う』が女性に比べ、男性で高くなっている。また、「4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ」「6. 国会議員に占める女性の割合が低いことは問題だ」「7. 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けることは問題だ」において『そう思わない』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい」「5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも問題があるケースが多い」「8. 男性は家族を養って一人前だ」において『そう思う』が高くなっている。また、20歳代で「2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい」「4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ」「5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも問題があるケースが多い」「8. 男性は家族を養って一人前だ」「9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい」「10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない」において『そう思わない』が他の年代より高くなっている。

(2)子どもの人権について

問 7 「子どもの人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「7.家族の世話のために、子どもが学校を休んだり、部活動に行けなかったりすることは問題だ」が79.2%と最も高く、次いで「3.学校のルールなどを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない」が74.3%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「6.児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」が80.0%と最も高く、次いで「4.収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」が79.0%、「2.教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ」が60.7%となっている。

■性別・年齢別

1. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることは仕方がない

2. 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ

		単位:%							単位:%								
区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	無 回答	統計的 検定	回答者数 (件)	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	無 回答	統計的 検定
性別	男性	304	6.9	17.1	21.4	19.4	33.6	1.6	**	304	6.9	18.1	21.4	15.8	35.5	2.3	**
	女性	469	1.3	10.4	26.4	19.8	40.7	1.3		469	0.9	10.0	20.5	15.8	51.6	1.3	
年齢別	10歳代	62	3.2	9.7	19.4	14.5	53.2	-	*	62	1.6	9.7	12.9	22.6	53.2	-	*
	20歳代	85	1.2	14.1	17.6	18.8	48.2	-		85	-	10.6	11.8	12.9	64.7	-	
	30歳代	85	2.4	14.1	29.4	27.1	27.1	-		85	2.4	11.8	23.5	25.9	36.5	-	
	40歳代	113	0.9	11.5	29.2	16.8	40.7	0.9		113	0.9	14.2	23.0	12.4	48.7	0.9	
	50歳代	144	4.2	12.5	29.2	20.8	33.3	-		144	4.2	13.9	29.2	14.6	37.5	0.7	
	60歳代	134	6.7	8.2	27.6	17.2	40.3	-		134	6.7	12.7	20.1	11.2	49.3	-	
	70歳代	168	3.0	18.5	19.6	19.6	36.9	2.4		168	3.0	13.7	20.2	17.9	42.3	3.0	
	80歳以上	74	6.8	14.9	13.5	18.9	39.2	6.8		74	4.1	16.2	14.9	14.9	43.2	6.8	

3. 学校のルールなどを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない

4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない

		単位:%							単位:%								
区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	無 回答	統計的 検定	回答者数 (件)	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	無 回答	統計的 検定
性別	男性	304	36.5	38.8	12.8	5.9	3.6	2.3		304	3.3	4.9	13.5	22.4	53.6	2.3	
	女性	469	42.0	32.8	15.4	5.1	2.8	1.9		469	1.5	4.1	11.1	19.8	61.8	1.7	
年齢別	10歳代	62	51.6	30.6	11.3	6.5	-	-		62	-	3.2	17.7	29.0	50.0	-	
	20歳代	85	50.6	25.9	15.3	5.9	2.4	-		85	2.4	7.1	8.2	18.8	63.5	-	
	30歳代	85	38.8	34.1	17.6	5.9	3.5	-		85	3.5	5.9	16.5	32.9	41.2	-	
	40歳代	113	47.8	26.5	12.4	7.1	5.3	0.9		113	3.5	4.4	14.2	21.2	55.8	0.9	
	50歳代	144	34.0	47.2	13.9	4.2	0.7	-		144	2.1	2.8	11.8	22.2	61.1	-	
	60歳代	134	37.3	40.3	14.9	4.5	3.0	-		134	0.7	3.7	13.4	13.4	68.7	-	
	70歳代	168	42.3	30.4	14.3	5.4	3.0	4.8		168	2.4	4.2	11.3	20.8	56.5	4.8	
	80歳以上	74	28.4	32.4	18.9	4.1	5.4	10.8		74	5.4	6.8	8.1	17.6	55.4	6.8	

5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある

6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の
就職がむずかしいのは仕方がない

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	単位:%							統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない		無 回 答	回答者 数 (件)	そう 思う	どちら かとい え ば そう 思 う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	
性別	男性	304	3.6	9.2	27.3	19.4	37.5	3.0	304	2.3	3.9	14.8	20.1	56.6	2.3	*
	女性	469	1.7	9.0	25.2	21.5	40.7	1.9	469	1.3	1.5	13.4	16.0	66.3	1.5	
年齢別	10歳代	62	4.8	19.4	17.7	21.0	37.1	-	62	-	3.2	12.9	30.6	53.2	-	
	20歳代	85	1.2	15.3	22.4	16.5	44.7	-	85	-	2.4	11.8	14.1	71.8	-	
	30歳代	85	2.4	7.1	25.9	28.2	36.5	-	85	1.2	2.4	10.6	20.0	65.9	-	
	40歳代	113	3.5	5.3	24.8	22.1	42.5	1.8	113	0.9	2.7	12.4	19.5	63.7	0.9	
	50歳代	144	0.7	8.3	28.5	20.1	42.4	-	144	0.7	1.4	12.5	16.7	68.8	-	
	60歳代	134	3.7	6.0	28.4	23.1	38.1	0.7	134	1.5	0.7	16.4	16.4	64.9	-	
	70歳代	168	1.8	11.3	27.4	19.0	36.9	3.6	168	3.6	3.6	14.9	16.7	57.7	3.6	
	80歳以上	74	5.4	13.5	21.6	12.2	36.5	10.8	74	4.1	5.4	18.9	18.9	44.6	8.1	

7. 家族の世話のために、子どもが学校を休んだり、
部活動に行けなかったりすることは問題だ

8. 不登校は本人が努力すれば登校できるよう
になる

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	単位:%							統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない		無 回 答	回答者 数 (件)	そう 思う	どちら かとい え ば そう 思 う	どちら とも いえ ない	どちら かとい え ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	
性別	男性	304	51.3	24.7	10.2	4.3	7.6	2.0	304	5.3	6.9	33.9	20.7	30.6	2.6	**
	女性	469	61.8	19.8	8.3	2.8	5.8	1.5	469	3.0	6.4	25.6	19.4	43.7	1.9	
年齢別	10歳代	62	51.6	21.0	11.3	3.2	12.9	-	62	6.5	16.1	27.4	27.4	22.6	-	**
	20歳代	85	60.0	20.0	9.4	3.5	7.1	-	85	3.5	4.7	23.5	18.8	49.4	-	
	30歳代	85	54.1	23.5	8.2	4.7	9.4	-	85	1.2	7.1	18.8	27.1	45.9	-	
	40歳代	113	61.9	18.6	8.8	2.7	7.1	0.9	113	1.8	4.4	27.4	23.0	42.5	0.9	
	50歳代	144	63.2	23.6	7.6	2.1	3.5	-	144	-	7.6	35.4	17.4	39.6	-	
	60歳代	134	60.4	22.4	8.2	3.7	5.2	-	134	6.0	5.2	30.6	17.2	40.3	0.7	
	70歳代	168	53.6	22.0	10.7	3.6	6.5	3.6	168	4.2	6.0	32.7	19.0	33.9	4.2	
	80歳以上	74	44.6	24.3	9.5	5.4	9.5	6.8	74	14.9	6.8	25.7	16.2	25.7	10.8	

9. 子どもは成長途上なので、人権が制限される

区分		回答者数 (件)	単位:%					無回答	統計的 検定
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう 思わ ない		
性別	男性	304	4.6	11.8	28.3	18.1	35.2	2.0	*
	女性	469	2.3	8.1	29.4	14.9	42.9	2.3	
年齢別	10歳代	62	6.5	11.3	35.5	24.2	22.6	-	
	20歳代	85	2.4	10.6	30.6	11.8	44.7	-	
	30歳代	85	1.2	12.9	27.1	15.3	43.5	-	
	40歳代	113	2.7	10.6	23.9	20.4	41.6	0.9	
	50歳代	144	2.1	6.9	35.4	16.7	38.9	-	
	60歳代	134	3.0	9.7	29.1	13.4	44.8	-	
	70歳代	168	7.7	10.1	26.2	12.5	38.1	5.4	
	80歳以上	74	1.4	12.2	27.0	16.2	33.8	9.5	

性別にみると、「1. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることは仕方がない」「2. 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ」「6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」「8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる」「9. 子どもは成長途上なので、人権が制限される」において『そう思う』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、10 歳代で「8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる」において『そう思う』が他の年代より高くなっている。また、30 歳代で「8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる」において『そう思わない』が高くなっている。

■設問間クロス

4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	5.3	8.1	84.0	2.5
		「どちらともいえない」	244	8.2	19.3	71.3	1.2
		『身近に感じていない』	174	8.6	11.5	78.2	1.7
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	17.5	13.6	66.7	2.3
		「どちらともいえない」	271	4.1	18.5	75.6	1.8
		『そう思わない』	332	3.9	6.3	89.2	0.6
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	11.7	11.4	75.7	1.1
		「どちらともいえない」	304	2.6	15.5	79.9	2.0
		『そう思わない』	107	3.7	5.6	90.7	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	10.9	17.4	70.0	1.6
		「どちらともいえない」	300	5.7	13.0	80.0	1.3
		『そう思わない』	236	5.1	5.5	88.6	0.8
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	17.6	8.1	74.3	-
		「どちらともいえない」	286	7.3	15.4	75.5	1.7
		『そう思わない』	406	4.7	10.3	84.2	0.7

5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	9.0	23.8	64.7	2.5
		「どちらともいえない」	244	12.3	32.0	53.7	2.0
		『身近に感じていない』	174	16.1	22.4	59.2	2.3
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	34.5	29.9	33.3	2.3
		「どちらともいえない」	271	7.4	42.8	48.0	1.8
		『そう思わない』	332	3.6	10.2	84.6	1.5
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	15.0	27.0	56.4	1.6
		「どちらともいえない」	304	9.9	30.3	57.9	2.0
		『そう思わない』	107	6.5	11.2	81.3	0.9
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	21.1	23.1	54.3	1.6
		「どちらともいえない」	300	9.0	35.3	54.3	1.3
		『そう思わない』	236	5.5	16.9	75.8	1.7
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	25.7	13.5	60.8	-
		「どちらともいえない」	286	12.9	32.5	51.7	2.8
		『そう思わない』	406	8.4	23.2	68.0	0.5

6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問3 1	差別するだけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	7.9	22.0	67.2	2.8
		「どちらともいえない」	271	3.3	19.6	76.0	1.1
		『そう思わない』	332	2.7	5.4	91.3	0.6
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	7.1	14.4	77.7	0.8
		「どちらともいえない」	304	1.6	17.1	79.6	1.6
		『そう思わない』	107	2.8	2.8	94.4	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	10.5	16.2	71.7	1.6
		「どちらともいえない」	300	1.0	19.7	78.7	0.7
		『そう思わない』	236	2.1	4.2	92.4	1.3
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	5.4	16.2	78.4	-
		「どちらともいえない」	286	4.9	18.2	75.2	1.7
		『そう思わない』	406	3.4	10.6	85.7	0.2

8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問3 1	差別するだけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	23.2	33.3	40.1	3.4
		「どちらともいえない」	271	8.1	39.5	50.9	1.5
		『そう思わない』	332	5.7	18.1	75.3	0.9
問3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	12.8	30.8	54.8	1.7
		「どちらともいえない」	195	6.7	28.2	64.6	0.5
		『そう思わない』	112	8.0	22.3	67.0	2.7
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	13.9	27.2	57.5	1.4
		「どちらともいえない」	304	5.9	36.2	55.9	2.0
		『そう思わない』	107	12.1	15.0	72.0	0.9
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	16.6	27.9	53.0	2.4
		「どちらともいえない」	300	9.3	35.0	54.7	1.0
		『そう思わない』	236	5.9	22.5	70.3	1.3

「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

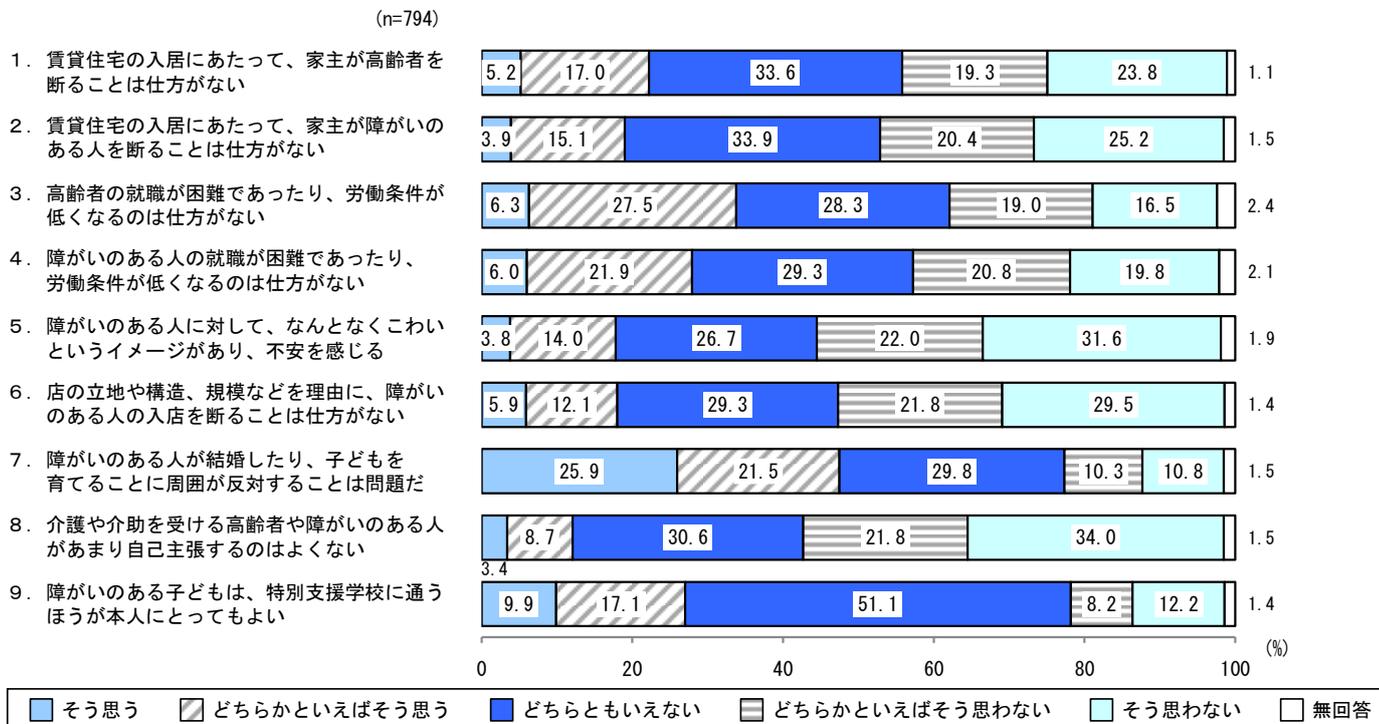
「5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある」については、『そう思わない』と回答した人において「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」の問1、問3-1、問3-9、問3-10、問13-14と同じ傾向がみられる。

「6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」については、『そう思わない』と回答した人において「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」の問3-1、問3-9、問3-10、問13-14と同じ傾向がみられる。

「8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。また、問3-1、問3-9、問3-10 においては「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」と同じ傾向がみられる。

(3)高齢者や障がいのある人の人権について

問 8 「高齢者や障がいのある人の人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたは
 はどう思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。
 <○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「7.障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ」が47.4%と最も高く、次いで「3.高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」が33.8%、「4.障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」が27.9%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「8.介護や介助を受ける高齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない」が55.8%と最も高く、次いで「5.障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」が53.6%、「6.店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない」が51.3%となっている。

■性別・年齢別

1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない

2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	7.2	16.1	29.9	19.7	25.3	1.6	304	4.6	15.8	30.6	21.7	25.7	1.6		
	女性	469	3.8	17.7	35.8	19.0	22.8	0.9	469	3.4	15.1	35.4	19.8	24.7	1.5		
年齢別	10歳代	62	9.7	16.1	35.5	24.2	14.5	-	62	8.1	12.9	35.5	25.8	17.7	-		
	20歳代	85	8.2	17.6	34.1	23.5	16.5	-	85	8.2	16.5	32.9	17.6	24.7	-		
	30歳代	85	7.1	28.2	28.2	22.4	14.1	-	85	3.5	23.5	36.5	22.4	14.1	-		
	40歳代	113	8.0	18.6	43.4	15.0	14.2	0.9	113	8.0	20.4	36.3	17.7	16.8	0.9		
	50歳代	144	4.9	17.4	37.5	18.1	22.2	-	144	2.1	14.6	41.0	22.9	19.4	-		
	60歳代	134	1.5	13.4	29.1	19.4	36.6	-	134	1.5	11.9	29.1	19.4	38.1	-		
	70歳代	168	4.8	14.3	28.6	19.6	30.4	2.4	168	4.2	13.1	27.4	21.4	30.4	3.6		
80歳以上	74	6.8	12.2	31.1	16.2	29.7	4.1	74	2.7	10.8	33.8	12.2	35.1	5.4			

3. 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない

4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	7.6	30.3	25.7	17.1	17.4	2.0	304	6.6	21.4	33.6	17.8	18.8	2.0		
	女性	469	5.8	26.2	28.8	20.5	16.0	2.8	469	5.8	22.4	26.4	23.0	20.3	2.1		
年齢別	10歳代	62	8.1	38.7	27.4	17.7	8.1	-	62	4.8	33.9	32.3	17.7	11.3	-		
	20歳代	85	12.9	38.8	22.4	16.5	9.4	-	85	14.1	28.2	21.2	23.5	12.9	-		
	30歳代	85	8.2	36.5	30.6	14.1	10.6	-	85	3.5	31.8	34.1	17.6	12.9	-		
	40歳代	113	6.2	35.4	26.5	19.5	10.6	1.8	113	8.8	28.3	31.9	14.2	15.9	0.9		
	50歳代	144	6.9	24.3	31.9	19.4	16.0	1.4	144	6.3	16.7	34.0	22.9	19.4	0.7		
	60歳代	134	1.5	20.1	34.3	16.4	26.1	1.5	134	3.0	16.4	30.6	20.9	29.1	-		
	70歳代	168	8.3	23.8	21.4	21.4	21.4	3.6	168	6.5	17.3	21.4	25.6	24.4	4.8		
80歳以上	74	4.1	25.7	28.4	18.9	14.9	8.1	74	5.4	24.3	29.7	16.2	17.6	6.8			

5. 障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる

6. 店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	304	2.3	12.5	24.3	24.3	34.5	2.0
	女性	469	4.9	14.5	27.5	21.1	30.1	1.9
年齢別	10歳代	62	16.1	19.4	22.6	24.2	16.1	1.6
	20歳代	85	11.8	18.8	27.1	11.8	30.6	-
	30歳代	85	7.1	24.7	21.2	22.4	24.7	-
	40歳代	113	1.8	17.7	33.6	22.1	23.9	0.9
	50歳代	144	0.7	8.3	31.3	30.6	29.2	-
	60歳代	134	1.5	11.9	31.3	18.7	35.8	0.7
	70歳代	168	5.4	10.1	20.8	20.8	39.3	3.6
	80歳以上	74	4.1	13.5	17.6	21.6	35.1	8.1

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	304	7.9	12.2	27.6	19.7	30.9	1.6
	女性	469	4.3	12.4	29.6	23.0	29.4	1.3
年齢別	10歳代	62	12.9	22.6	29.0	17.7	17.7	-
	20歳代	85	8.2	20.0	28.2	20.0	23.5	-
	30歳代	85	4.7	18.8	22.4	30.6	23.5	-
	40歳代	113	12.4	17.7	29.2	20.4	19.5	0.9
	50歳代	144	6.3	9.7	38.2	20.8	25.0	-
	60歳代	134	3.7	11.9	19.4	26.1	38.8	-
	70歳代	168	3.6	6.0	33.9	15.5	38.1	3.0
	80歳以上	74	2.7	9.5	27.0	18.9	36.5	5.4

7. 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ

8. 介護や介助を受ける高齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	304	31.3	21.1	24.7	8.9	12.5	1.6
	女性	469	22.8	22.2	31.8	11.7	10.0	1.5
年齢別	10歳代	62	30.6	22.6	29.0	4.8	12.9	-
	20歳代	85	24.7	18.8	28.2	14.1	14.1	-
	30歳代	85	22.4	22.4	32.9	14.1	8.2	-
	40歳代	113	18.6	23.0	37.2	9.7	10.6	0.9
	50歳代	144	29.2	22.9	30.6	9.7	7.6	-
	60歳代	134	27.6	20.9	30.6	9.0	11.9	-
	70歳代	168	29.2	22.0	23.8	9.5	12.5	3.0
	80歳以上	74	24.3	14.9	29.7	9.5	14.9	6.8

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	304	3.0	11.8	32.2	24.7	26.6	1.6
	女性	469	3.4	6.8	28.8	19.8	39.7	1.5
年齢別	10歳代	62	1.6	6.5	27.4	25.8	38.7	-
	20歳代	85	7.1	8.2	25.9	18.8	40.0	-
	30歳代	85	1.2	7.1	30.6	28.2	32.9	-
	40歳代	113	3.5	9.7	27.4	25.7	32.7	0.9
	50歳代	144	2.8	4.9	31.3	21.5	39.6	-
	60歳代	134	4.5	6.7	33.6	17.2	38.1	-
	70歳代	168	2.4	11.3	31.0	20.2	31.5	3.6
	80歳以上	74	6.8	18.9	32.4	16.2	20.3	5.4

9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	ど ちら とも いえ ない	ど ちら か とい え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い		無 回 答
性別	男 性	304	10.5	18.1	52.6	7.2	9.9	1.6	
	女 性	469	9.2	16.4	51.0	8.7	13.6	1.1	
年齢別	10歳代	62	17.7	22.6	50.0	8.1	1.6	-	
	20歳代	85	20.0	18.8	42.4	9.4	9.4	-	
	30歳代	85	5.9	29.4	51.8	10.6	2.4	-	
	40歳代	113	10.6	15.9	52.2	8.8	11.5	0.9	**
	50歳代	144	8.3	16.0	63.2	5.6	6.9	-	
	60歳代	134	6.0	14.9	57.5	7.5	13.4	0.7	
	70歳代	168	8.3	14.3	44.0	8.9	22.0	2.4	
	80歳以上	74	21.6	13.5	37.8	8.1	13.5	5.4	

性別にみると、「7.障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ」「8. 介護や介助を受ける高齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない」において『そう思う』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、60 歳代以降の年齢で「7.障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ」「8.介護や介助を受ける高齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない」を除いて『そう思わない』が高くなっている。また、10 歳代で「5.障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」「6.店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない」「9.障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい」において『そう思う』が他の年代より高くなっている。

■設問間クロス

1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	16.8	33.9	47.6	1.7
		「どちらともいえない」	244	24.6	34.4	40.2	0.8
		『身近に感じていない』	174	29.3	32.2	37.9	0.6
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	32.2	28.2	38.4	1.1
		「どちらともいえない」	271	19.2	42.1	38.0	0.7
		『そう思わない』	332	19.3	30.4	50.0	0.3
問3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	23.2	32.4	43.9	0.4
		「どちらともいえない」	195	16.9	42.6	40.0	0.5
		『そう思わない』	112	27.7	25.0	46.4	0.9
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	28.1	30.2	41.1	0.5
		「どちらともいえない」	304	17.1	41.4	40.5	1.0
		『そう思わない』	107	16.8	25.2	57.9	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	34.0	28.3	36.8	0.8
		「どちらともいえない」	300	18.7	43.7	37.3	0.3
		『そう思わない』	236	14.4	27.1	57.6	0.8

2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	14.6	33.3	50.1	2.0
		「どちらともいえない」	244	21.3	37.7	39.8	1.2
		『身近に感じていない』	174	25.3	28.7	44.8	1.1
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	31.1	27.1	39.5	2.3
		「どちらともいえない」	271	16.6	44.6	38.0	0.7
		『そう思わない』	332	14.5	29.2	55.7	0.6
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	25.6	30.5	43.1	0.8
		「どちらともいえない」	304	13.2	42.4	43.1	1.3
		『そう思わない』	107	14.0	24.3	61.7	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	32.0	32.0	35.2	0.8
		「どちらともいえない」	300	16.0	42.7	40.7	0.7
		『そう思わない』	236	9.7	25.8	63.6	0.8
問18 4	障がいのある人に関する問題	小学校で学んだ	270	23.7	40.4	35.9	-
		中学校で学んだ	82	9.8	40.2	48.8	1.2
		高等・高等専修学校で学んだ	40	17.5	42.5	37.5	2.5
		短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	13	15.4	-	84.6	-
		職場研修で学んだ	20	20.0	25.0	55.0	-
		はっきりと覚えていない	49	28.6	30.6	40.8	-
		これまでに学んだ経験はない	54	14.8	48.1	37.0	-

※問 18-4 の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

※太字部分は、複数回答の設問において $p \leq 0.05$ で有意差がある項目

3. 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない

単位:%

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	28.3	29.1	40.3	2.2
		「どちらともいえない」	244	36.1	29.1	32.4	2.5
		『身近に感じていない』	174	42.5	23.6	31.6	2.3
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	46.3	21.5	28.8	3.4
		「どちらともいえない」	271	31.0	38.7	28.8	1.5
		『そう思わない』	332	30.1	24.1	44.3	1.5
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	41.4	25.6	31.3	1.6
		「どちらともいえない」	304	25.3	34.9	37.5	2.3
		『そう思わない』	107	31.8	22.4	44.9	0.9
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	44.1	24.3	28.7	2.8
		「どちらともいえない」	300	29.7	36.0	32.7	1.7
		『そう思わない』	236	28.8	23.3	47.0	0.8

4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない

単位:%

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	25.2	27.5	44.8	2.5
		「どちらともいえない」	244	26.6	33.2	37.7	2.5
		『身近に感じていない』	174	36.2	27.0	35.6	1.1
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	40.7	24.9	31.1	3.4
		「どちらともいえない」	271	25.8	41.0	31.7	1.5
		『そう思わない』	332	23.2	23.2	52.7	0.9
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	34.6	27.0	37.1	1.4
		「どちらともいえない」	304	21.1	36.2	40.5	2.3
		『そう思わない』	107	24.3	21.5	54.2	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	39.3	24.7	34.0	2.0
		「どちらともいえない」	300	21.7	43.0	34.3	1.0
		『そう思わない』	236	24.6	17.8	56.4	1.3

「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問 18-4「障がいのある人に関する問題」で『短大・大学・大学院・専門学校で学んだ』と回答した人において高くなっている。また、問1、問3-1、問3-9、問3-10 においては「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」と同じ傾向がみられる。

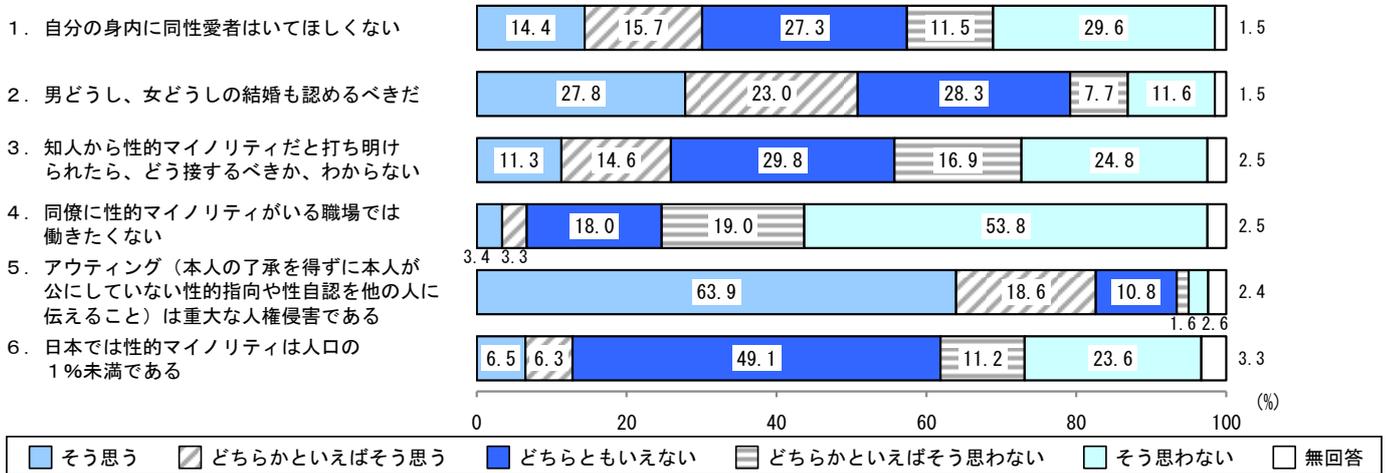
「3. 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」については、『そう思わない』と回答した人において「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」の問1、問3-1、問3-9、問3-10 と同じ傾向がみられる。

「4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」については、『そう思わない』と回答した人において「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」の問1、問3-1、問3-9、問3-10 と同じ傾向がみられる。

(4)性的マイノリティの人権について

問 9 「性的マイノリティの人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>

(n=794)



『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は、「5.アウティング（本人の了承を得ずに本人が公にしている性的指向や性自認を他の人に伝えること）は重大な人権侵害である」が 82.5%と最も高く、次いで「2.男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」が 50.8%となっている。

一方、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）は、「4.同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」が 72.8%と最も高く、次いで「3.知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない」が 41.7%、「1.自分の身内に同性愛者はいてほしくない」が 41.1%となっている。

■性別・年齢別

1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない

2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	20.7	21.1	29.6	8.9	17.8	2.0	**	304	17.1	23.4	26.6	12.2	18.8	2.0	**
	女性	469	10.0	12.6	25.6	13.0	37.5	1.3		469	34.8	23.2	29.0	4.7	7.0	1.3	
年齢別	10歳代	62	3.2	8.1	22.6	16.1	50.0	-	**	62	43.5	17.7	30.6	4.8	3.2	-	
	20歳代	85	2.4	7.1	17.6	5.9	67.1	-		85	49.4	28.2	17.6	2.4	2.4	-	
	30歳代	85	3.5	7.1	35.3	7.1	47.1	-		85	35.3	27.1	27.1	2.4	8.2	-	
	40歳代	113	8.8	13.3	22.1	13.3	41.6	0.9		113	38.1	31.0	17.7	4.4	8.0	0.9	
	50歳代	144	9.0	12.5	31.9	17.4	29.2	-		144	26.4	30.6	30.6	6.9	5.6	-	
	60歳代	134	14.9	20.9	31.3	12.7	20.1	-		134	26.9	20.1	31.3	6.7	14.9	-	
	70歳代	168	23.2	19.0	28.6	9.5	16.1	3.6		168	15.5	15.5	38.7	11.3	15.5	3.6	
	80歳以上	74	36.5	27.0	18.9	6.8	5.4	5.4		74	10.8	12.2	27.0	17.6	27.0	5.4	

3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない

4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	18.8	17.1	29.9	15.8	15.8	2.6	**	304	5.6	4.9	20.4	23.4	43.4	2.3	**
	女性	469	6.6	13.4	29.4	17.9	30.1	2.6		469	1.9	1.9	15.8	16.4	61.2	2.8	
年齢別	10歳代	62	8.1	22.6	22.6	17.7	27.4	1.6	**	62	-	-	19.4	14.5	66.1	-	
	20歳代	85	10.6	10.6	12.9	17.6	48.2	-		85	-	2.4	8.2	8.2	81.2	-	
	30歳代	85	8.2	18.8	15.3	25.9	31.8	-		85	-	-	11.8	20.0	68.2	-	
	40歳代	113	8.8	10.6	25.7	18.6	35.4	0.9		113	3.5	1.8	8.8	19.5	64.6	1.8	
	50歳代	144	9.7	9.0	32.6	22.2	26.4	-		144	0.7	3.5	15.3	19.4	60.4	0.7	
	60歳代	134	10.4	17.9	36.6	12.7	22.4	-		134	2.2	2.2	19.4	21.6	54.5	-	
	70歳代	168	14.3	19.6	36.3	12.5	11.9	5.4		168	6.0	5.4	28.6	21.4	34.5	4.2	
	80歳以上	74	20.3	13.5	33.8	13.5	6.8	12.2		74	12.2	8.1	27.0	14.9	25.7	12.2	

5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしていない性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である

6. 日本では性的マイノリティは人口の1%未満である

区分		単位:%							統計的検定	単位:%							統計的検定
		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	57.2	23.4	11.8	3.0	2.3	2.3	**	304	9.2	8.6	50.0	11.5	18.4	2.3	**
	女性	469	68.7	15.4	9.8	0.9	3.0	2.3		469	4.7	5.1	48.6	10.9	26.9	3.8	
年齢別	10歳代	62	58.1	30.6	11.3	-	-	-	*	62	8.1	3.2	46.8	14.5	27.4	-	**
	20歳代	85	74.1	9.4	11.8	2.4	2.4	-		85	4.7	1.2	35.3	12.9	45.9	-	
	30歳代	85	58.8	21.2	11.8	-	8.2	-		85	4.7	2.4	45.9	15.3	31.8	-	
	40歳代	113	69.0	16.8	10.6	0.9	1.8	0.9		113	5.3	2.7	45.1	13.3	32.7	0.9	
	50歳代	144	72.2	14.6	9.7	0.7	2.1	0.7		144	3.5	4.2	53.5	12.5	25.7	0.7	
	60歳代	134	68.7	17.2	11.2	0.7	2.2	-		134	4.5	7.5	59.7	7.5	20.9	-	
	70歳代	168	57.7	20.8	11.3	3.6	2.4	4.2		168	11.3	11.9	48.2	9.5	13.1	6.0	
	80歳以上	74	48.6	23.0	10.8	4.1	1.4	12.2		74	14.9	10.8	41.9	8.1	6.8	17.6	

性別にみると、「2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」「5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしていない性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である」を除いた全ての項目において『そう思う』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」「4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」において『そう思う』が高くなっている。また、概ね年齢が上がるほど「2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」において『そう思わない』の割合が高い傾向にある。

■設問間クロス

1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない

単位:%

区分		回答者数(件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	30.0	23.0	45.1	2.0
		「どちらともいえない」	244	24.6	34.4	39.3	1.6
		『身近に感じていない』	174	35.1	25.9	38.5	0.6
問3-1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	51.4	25.4	21.5	1.7
		「どちらともいえない」	271	29.2	32.8	36.9	1.1
		『そう思わない』	332	19.6	23.8	56.0	0.6
問3-6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	34.3	25.3	39.5	0.8
		「どちらともいえない」	195	23.1	34.9	41.0	1.0
		『そう思わない』	112	23.2	25.0	50.0	1.8
問3-9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	36.2	25.9	36.8	1.1
		「どちらともいえない」	304	24.0	33.9	40.8	1.3
		『そう思わない』	107	26.2	16.8	57.0	-
問3-10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	44.1	22.7	31.6	1.6
		「どちらともいえない」	300	28.0	32.3	39.0	0.7
		『そう思わない』	236	17.8	26.3	55.1	0.8
問9-6	日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	『そう思う』	102	61.8	13.7	24.5	-
		「どちらともいえない」	390	29.2	38.2	32.3	0.3
		『そう思わない』	276	19.9	18.5	61.6	-
問12-3	性的マイノリティ	自分自身がそうである	9	-	11.1	88.9	-
		家族・親戚にいる	12	16.7	-	83.3	-
		親しくしている人にいる	31	16.1	16.1	67.7	-
		知っている人にいる	79	16.5	17.7	65.8	-
		自分の周りにはいない	293	36.2	27.6	36.2	-
		わからない	325	30.8	32.3	35.4	1.5
問18-3	性的マイノリティ(少数者)に関する問題	小学校で学んだ	214	15.0	29.4	55.6	-
		中学校で学んだ	33	9.1	18.2	72.7	-
		高等・高等専修学校で学んだ	15	6.7	6.7	86.7	-
		短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	8	-	25.0	75.0	-
		職場研修で学んだ	20	35.0	20.0	45.0	-
		はっきりと覚えていない	43	14.0	23.3	60.5	2.3
		これまでに学んだ経験はない	109	22.0	25.7	52.3	-

※問18-3の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い50歳代以下のみで算出

※太字部分は、複数回答の設問において $p \leq 0.05$ で有意差がある項目

2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問3 1	差別するだけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	35.6	25.4	37.3	1.7
		「どちらともいえない」	271	46.5	38.4	14.0	1.1
		『そう思わない』	332	63.9	21.4	13.9	0.9
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	48.0	27.0	23.7	1.4
		「どちらともいえない」	304	51.6	31.9	15.1	1.3
		『そう思わない』	107	61.7	22.4	15.9	-
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	44.1	25.9	28.3	1.6
		「どちらともいえない」	300	48.3	34.0	16.7	1.0
		『そう思わない』	236	62.7	22.5	14.0	0.8
問9 6	日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	『そう思う』	102	33.3	23.5	43.1	-
		「どちらともいえない」	390	43.3	37.7	18.7	0.3
		『そう思わない』	276	70.7	17.8	11.6	-
問12 3	性的マイノリティ	自分自身がそうである	9	77.8	22.2	-	-
		家族・親戚にいる	12	75.0	8.3	16.7	-
		親しくしている人にいる	31	83.9	9.7	6.5	-
		知っている人にいる	79	75.9	20.3	3.8	-
		自分の周りにはいない	293	46.4	30.7	22.9	-
		わからない	325	46.5	28.9	23.4	1.2
問18 3	性的マイノリティ(少数者)に関する問題	小学校で学んだ	214	68.2	23.8	7.9	-
		中学校で学んだ	33	84.8	9.1	6.1	-
		高等・高等専修学校で学んだ	15	73.3	13.3	13.3	-
		短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	8	75.0	25.0	-	-
		職場研修で学んだ	20	60.0	10.0	30.0	-
		はっきりと覚えていない	43	69.8	20.9	7.0	2.3
		これまでに学んだ経験はない	109	59.6	27.5	12.8	-

※問18-3の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い50歳代以下のみで算出

※太字部分は、複数回答の設問において $p \leq 0.05$ で有意差がある項目

3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	25.8	23.0	47.9	3.4
		「どちらともいえない」	244	20.5	39.3	38.5	1.6
		『身近に感じていない』	174	32.2	32.2	33.9	1.7
問9 6	日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	『そう思う』	102	42.2	31.4	25.5	1.0
		「どちらともいえない」	390	29.2	39.5	30.8	0.5
		『そう思わない』	276	17.0	17.8	65.2	-
問12 3	性的マイノリティ	自分自身がそうである	9	11.1	-	88.9	-
		家族・親戚にいる	12	8.3	16.7	75.0	-
		親しくしている人にいる	31	6.5	9.7	83.9	-
		知っている人にいる	79	10.1	22.8	67.1	-
		自分の周りにはいない	293	33.4	28.0	37.9	0.7
		わからない	325	27.4	35.7	34.8	2.2

4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	『どちらともいえない』	『そう思わない』	無回答	
問 3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	16.4	25.4	54.8	3.4
		『どちらともいえない』	271	4.4	25.5	67.9	2.2
		『そう思わない』	332	3.3	8.1	87.3	1.2
問 3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	8.2	19.0	70.9	1.9
		『どちらともいえない』	195	4.6	21.0	73.3	1.0
		『そう思わない』	112	3.6	8.9	83.9	3.6
問 3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	8.4	17.2	72.5	1.9
		『どちらともいえない』	304	5.6	22.0	70.1	2.3
		『そう思わない』	107	4.7	8.4	86.0	0.9
問 3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	12.6	18.6	66.0	2.8
		『どちらともいえない』	300	5.7	23.7	68.7	2.0
		『そう思わない』	236	2.1	10.2	86.9	0.8
問 9 6	日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	『そう思う』	102	23.5	21.6	54.9	-
		『どちらともいえない』	390	5.4	26.9	66.7	1.0
		『そう思わない』	276	2.9	5.1	92.0	-
問 12 3	性的マイノリティ	自分自身がそうである	9	-	-	100.0	-
		家族・親戚にいる	12	-	8.3	91.7	-
		親しくしている人にいる	31	-	9.7	90.3	-
		知っている人にいる	79	1.3	7.6	89.9	1.3
		自分の周りにはいない	293	9.6	16.4	73.4	0.7
わからない	325	7.1	22.8	68.3	1.8		

5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしている性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	『どちらともいえない』	『そう思わない』	無回答	
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	86.6	8.4	2.5	2.5
		『どちらともいえない』	244	78.3	13.9	5.3	2.5
		『身近に感じていない』	174	79.3	12.1	6.9	1.7
問 9 6	日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	『そう思う』	102	88.2	6.9	4.9	-
		『どちらともいえない』	390	77.9	17.9	3.8	0.3
		『そう思わない』	276	92.0	2.9	5.1	-

「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」、問9-6「日本では性的マイノリティは人口の1%未満である」で『そう思わない』、問 12-3「性的マイノリティ」で『自分自身がそうである』、問 18-3「性的マイノリティ(少数者)に関する問題」で『高等・高等専修学校で学んだ』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」、問9-6「日本では性的マイノリティは人口の1%未満である」で『そう思わない』、問 12-3「性的マイノリティ」で『親しくしている人にいる』、問 18-3「性的マイノリティ(少数者)に関する問題」で『中学校で学んだ』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

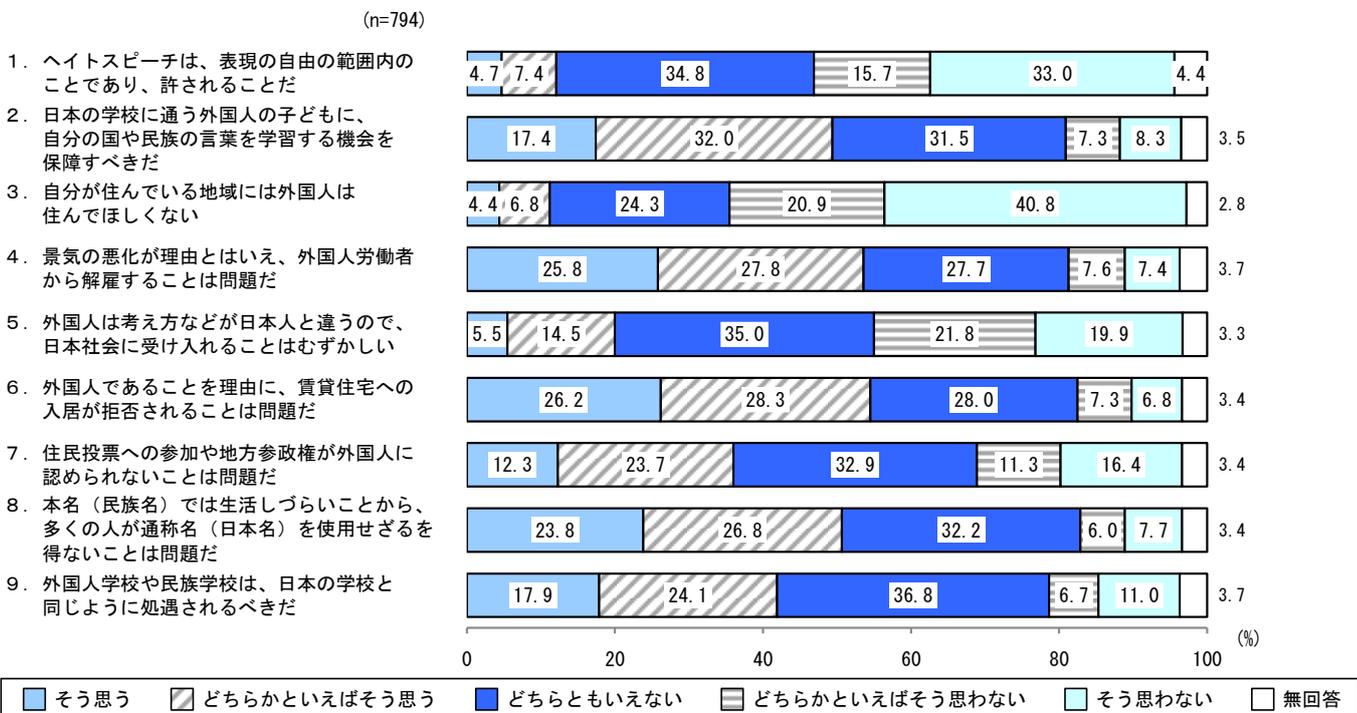
「3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない」については、『そう思わない』と回答した人において「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」の問1、問9-6、問 12-3と同じ傾向がみられる。

「4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」については、『そう思わない』と回答した人において「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」の問3-1、問3-6、問3-9、問3-10、問9-6、問 12-3と同じ傾向がみられる。

「5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしていなかった性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問9-6「日本では性的マイノリティは人口の1%未満である」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

(5)外国籍住民の人権について

問10 「外国籍住民の人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「6.外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ」が 54.5%と最も高く、次いで「4.景気の悪化が理由とはいえ、外国人労働者から解雇することは問題だ」が 53.6%、「8.本名(民族名)では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないことは問題だ」が 50.6%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「3.自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」が 61.7%と最も高く、次いで「1.ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」が 48.7%、「5.外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい」が 41.7%となっている。

■性別・年齢別

1. ハイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ

2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ

		単位:%							単位:%							
区分	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
		性別	男性	304	6.3	9.2	28.9			13.2	39.1	3.3	304	17.4	31.3	
	女性	469	3.8	6.4	38.6	17.1	29.0	5.1	469	17.7	33.0	31.8	7.0	6.8	3.6	
年齢別	10歳代	62	8.1	16.1	48.4	8.1	19.4	-	62	22.6	29.0	40.3	8.1	-	-	
	20歳代	85	8.2	5.9	34.1	20.0	31.8	-	85	15.3	29.4	29.4	11.8	14.1	-	
	30歳代	85	2.4	7.1	37.6	22.4	29.4	1.2	85	20.0	28.2	25.9	9.4	15.3	1.2	
	40歳代	113	3.5	5.3	35.4	17.7	35.4	2.7	113	15.9	30.1	30.1	9.7	11.5	2.7	
	50歳代	144	2.8	7.6	38.2	16.0	31.9	3.5	144	12.5	31.9	40.3	6.9	4.9	3.5	
	60歳代	134	7.5	6.7	32.1	13.4	40.3	-	134	18.7	32.8	35.1	7.5	6.0	-	
	70歳代	168	3.6	8.3	32.1	12.5	34.5	8.9	168	19.6	35.1	27.4	4.8	6.5	6.5	
	80歳以上	74	5.4	9.5	35.1	12.2	24.3	13.5	74	23.0	24.3	29.7	6.8	6.8	9.5	

3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない

4. 景気の悪化が理由とはいえ、外国人労働者から解雇することは問題だ

		単位:%							単位:%							
区分	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
		性別	男性	304	4.6	8.6	27.0			19.7	36.8	3.3	304	27.3	26.3	
	女性	469	3.8	5.8	22.0	22.2	43.7	2.6	469	25.4	29.4	27.9	7.0	6.4	3.8	
年齢別	10歳代	62	4.8	1.6	22.6	21.0	50.0	-	62	19.4	25.8	35.5	11.3	8.1	-	
	20歳代	85	2.4	7.1	17.6	20.0	52.9	-	85	18.8	24.7	32.9	15.3	8.2	-	
	30歳代	85	4.7	4.7	20.0	30.6	38.8	1.2	85	20.0	28.2	24.7	9.4	16.5	1.2	
	40歳代	113	7.1	8.8	21.2	13.3	47.8	1.8	113	27.4	23.0	29.2	8.8	8.8	2.7	
	50歳代	144	2.1	5.6	33.3	22.2	34.7	2.1	144	25.7	29.2	31.9	7.6	3.5	2.1	
	60歳代	134	4.5	9.7	26.9	20.1	38.8	-	134	30.6	29.9	24.6	8.2	6.7	-	
	70歳代	168	4.2	7.1	20.8	20.8	41.1	6.0	168	27.4	31.5	22.6	3.0	6.5	8.9	
	80歳以上	74	5.4	4.1	27.0	16.2	40.5	6.8	74	29.7	17.6	32.4	6.8	5.4	8.1	

5. 外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい

6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定	単位:%								
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	5.9	21.7	29.9	20.1	18.8	3.6	**	304	28.0	26.6	27.0	6.9	7.6	3.9	
	女性	469	4.7	10.2	37.3	23.2	21.3	3.2		469	25.4	30.1	27.3	7.7	6.4	3.2	
年齢別	10歳代	62	4.8	21.0	33.9	25.8	14.5	-	62	30.6	32.3	21.0	9.7	6.5	-		
	20歳代	85	7.1	17.6	35.3	22.4	17.6	-	85	24.7	35.3	25.9	7.1	7.1	-		
	30歳代	85	8.2	12.9	31.8	27.1	18.8	1.2	85	22.4	24.7	35.3	5.9	10.6	1.2		
	40歳代	113	8.0	8.8	32.7	24.8	23.9	1.8	113	22.1	25.7	30.1	9.7	10.6	1.8		
	50歳代	144	2.1	13.9	41.7	18.8	20.8	2.8	144	20.1	29.9	34.7	10.4	2.8	2.1		
	60歳代	134	6.0	17.2	32.1	25.4	19.4	-	134	33.6	26.9	24.6	6.7	8.2	-		
	70歳代	168	3.6	14.3	36.9	20.2	17.9	7.1	168	27.4	32.1	22.6	6.0	4.2	7.7		
	80歳以上	74	6.8	17.6	33.8	13.5	20.3	8.1	74	32.4	16.2	27.0	5.4	9.5	9.5		

7. 住民投票への参加や地方参政権が外国人に認められないことは問題だ

8. 本名(民族名)では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないことは問題だ

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定	単位:%								
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		無回答	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	11.5	23.0	27.3	10.9	23.4	3.9	**	304	22.4	23.7	34.5	6.9	8.9	3.6	
	女性	469	13.2	24.5	35.6	11.9	11.7	3.0		469	24.7	29.6	30.3	5.5	6.6	3.2	
年齢別	10歳代	62	16.1	16.1	43.5	9.7	14.5	-	62	22.6	21.0	41.9	6.5	8.1	-		
	20歳代	85	11.8	25.9	27.1	16.5	18.8	-	85	22.4	22.4	34.1	11.8	9.4	-		
	30歳代	85	12.9	20.0	31.8	10.6	22.4	2.4	85	24.7	28.2	31.8	5.9	8.2	1.2		
	40歳代	113	10.6	25.7	32.7	9.7	19.5	1.8	113	23.0	30.1	31.0	5.3	8.8	1.8		
	50歳代	144	9.0	23.6	38.2	10.4	16.7	2.1	144	25.7	30.6	31.3	6.3	4.2	2.1		
	60歳代	134	19.4	23.9	23.9	14.9	17.9	-	134	26.9	23.9	36.6	4.5	8.2	-		
	70歳代	168	13.1	25.6	35.1	8.9	10.1	7.1	168	22.0	28.6	28.0	5.4	8.9	7.1		
	80歳以上	74	12.2	18.9	35.1	9.5	14.9	9.5	74	20.3	20.3	35.1	6.8	6.8	10.8		

9. 外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ

単位:%

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回 答	統計的 検定
性別	男性	304	17.1	22.4	33.2	8.2	15.1	3.9	**
	女性	469	18.3	26.0	38.6	5.8	7.9	3.4	
年齢別	10歳代	62	24.2	29.0	37.1	3.2	6.5	-	
	20歳代	85	20.0	23.5	35.3	15.3	5.9	-	
	30歳代	85	15.3	24.7	32.9	9.4	16.5	1.2	
	40歳代	113	17.7	25.7	32.7	3.5	18.6	1.8	
	50歳代	144	11.1	25.7	43.8	6.9	9.7	2.8	
	60歳代	134	22.4	18.7	38.1	7.5	13.4	-	
	70歳代	168	19.6	23.8	35.7	6.5	7.1	7.1	
	80歳以上	74	21.6	20.3	33.8	4.1	8.1	12.2	

性別にみると、「1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」「7. 住民投票への参加や地方参政権が外国人に認められないことは問題だ」「9. 外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ」において『そう思わない』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみても、大きな差はみられない。

■設問間クロス

1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ

		単位:%					
区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	24.3	31.1	43.2	1.4
		「どちらともいえない」	286	11.2	49.7	38.1	1.0
		『そう思わない』	406	11.1	26.4	60.3	2.2

2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ

		単位:%					
区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	56.9	25.8	13.7	3.6
		「どちらともいえない」	244	43.9	41.8	11.1	3.3
		『身近に感じていない』	174	43.1	28.7	24.7	3.4
問 3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	46.3	29.4	18.6	5.6
		「どちらともいえない」	271	48.3	38.4	12.2	1.1
		『そう思わない』	332	52.1	27.7	17.2	3.0
問 3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	51.0	30.3	15.5	3.1
		「どちらともいえない」	195	48.2	37.4	11.3	3.1
		『そう思わない』	112	43.8	28.6	25.0	2.7
問 3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	48.2	27.8	21.0	3.0
		「どちらともいえない」	304	48.4	39.1	9.2	3.3
		『そう思わない』	107	57.0	24.3	15.9	2.8
問 3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	46.6	28.3	22.3	2.8
		「どちらともいえない」	300	44.7	41.7	11.0	2.7
		『そう思わない』	236	58.9	22.0	15.3	3.8
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	39.2	20.3	40.5	-
		「どちらともいえない」	286	47.6	38.5	13.3	0.7
		『そう思わない』	406	55.2	29.6	13.8	1.5

3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない

区分		回答者数 (件)	単位:%				
			『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	10.1	21.0	66.4	2.5
		「どちらともいえない」	244	9.4	28.7	59.0	2.9
		『身近に感じていない』	174	16.7	25.3	55.2	2.9
問3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	21.5	25.4	49.2	4.0
		「どちらともいえない」	271	7.7	34.3	56.8	1.1
		『そう思わない』	332	8.7	16.0	72.6	2.7
問3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	11.1	23.2	63.2	2.5
		「どちらともいえない」	195	11.3	32.3	54.4	2.1
		『そう思わない』	112	11.6	15.2	71.4	1.8
問3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	15.3	24.0	58.9	1.9
		「どちらともいえない」	304	7.2	27.3	62.2	3.3
		『そう思わない』	107	7.5	18.7	72.9	0.9
問3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	22.3	21.5	54.7	1.6
		「どちらともいえない」	300	8.0	36.0	54.0	2.0
		『そう思わない』	236	3.8	12.3	80.5	3.4
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	31.1	20.3	48.6	-
		「どちらともいえない」	286	12.6	32.2	54.5	0.7
		『そう思わない』	406	6.9	20.7	71.9	0.5

5. 外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい

区分		回答者数 (件)	単位:%				
			『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	17.6	30.8	49.0	2.5
		「どちらともいえない」	244	18.0	41.8	36.1	4.1
		『身近に感じていない』	174	28.7	34.5	33.3	3.4
問13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	44.6	27.0	28.4	-
		「どちらともいえない」	286	21.0	43.4	35.3	0.3
		『そう思わない』	406	15.5	32.0	51.0	1.5

6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ

単位:%

区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	59.7	24.9	12.6	2.8
		『どちらともいえない』	244	48.4	33.2	13.9	4.5
		『身近に感じていない』	174	51.7	26.4	19.0	2.9
問 3 1	差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	177	53.1	25.4	16.9	4.5
		『どちらともいえない』	271	43.2	38.7	16.2	1.8
		『そう思わない』	332	64.2	21.7	10.8	3.3
問 3 6	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	『そう思う』	478	55.4	27.8	13.8	2.9
		『どちらともいえない』	195	52.8	34.9	10.3	2.1
		『そう思わない』	112	56.3	18.8	22.3	2.7
問 3 9	人権には必ず義務がともなう	『そう思う』	367	52.0	26.7	18.5	2.7
		『どちらともいえない』	304	53.6	32.6	9.9	3.9
		『そう思わない』	107	67.3	22.4	9.3	0.9
問 3 10	差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	247	53.8	24.3	20.2	1.6
		『どちらともいえない』	300	47.3	36.3	12.7	3.7
		『そう思わない』	236	65.7	21.6	9.7	3.0

「1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において高くなっている。

「2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」で『そう思う』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

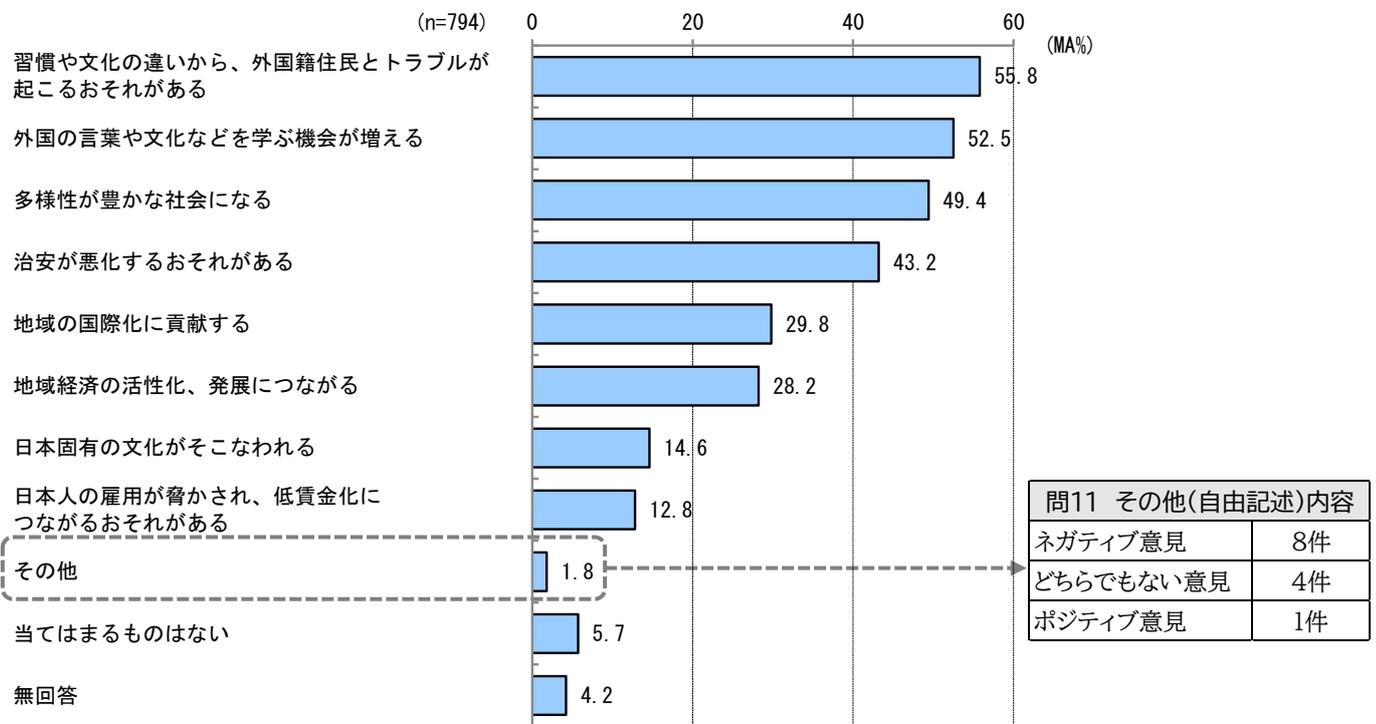
「3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問3-1「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」、問3-9「人権には必ず義務がともなう」、問3-10「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「5. 外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい」について、『そう思わない』と回答した人において「3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」の問1、問 13-14 と同じ傾向がみられる。

「6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問3-6「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。また、問1、問3-1、問3-9、問3-10 においては「2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ」と同じ傾向がみられる。

(6)外国籍住民と共に暮らすことについて

問11 地域社会で、外国籍住民と共に暮らすことについてどう思いますか。〈〇はいくつでも〉



外国籍住民と共に暮らすことについて、「習慣や文化の違いから、外国籍住民とトラブルが起こるおそれがある」が 55.8%と最も高く、次いで「外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える」が 52.5%、「多様性が豊かな社会になる」が 49.4%となっている。

「その他」は計 14 件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の1件を除くと、計 13 件となっている。内容は、「近所に外国人が住んでいても交流の場が無い」や「私の住んでる地区にはメキシコ人、中国人、モンゴル人もいるが、ウォーキング中によく話もできるし面白いこともたくさんあります」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

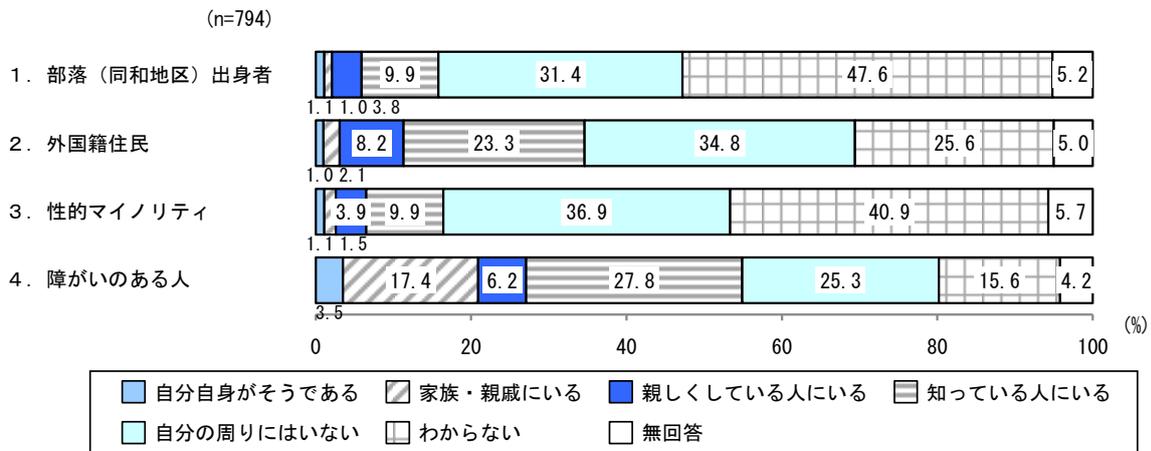
区分		回答者数(件)	多様性が豊かな社会になる	地域経済の活性化、発展につながる	外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	地域の国際化に貢献する	習慣や文化の違いから、外国籍住民とトラブルが起こるおそれがある	日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある	治安が悪化するおそれがある	日本固有の文化がそこなわれる	その他	当てはまるものはない	無回答
性別	男性	304	43.8	25.3	48.7	28.3	57.9	15.1	50.3	17.1	1.3	4.6	3.6
	女性	469	53.3	30.7	56.1	31.1	54.4	11.1	38.2	12.4	2.1	6.6	3.8
年齢別	10歳代	62	80.6	33.9	66.1	37.1	50.0	17.7	38.7	17.7	-	-	3.2
	20歳代	85	58.8	30.6	51.8	27.1	49.4	23.5	50.6	17.6	2.4	-	2.4
	30歳代	85	58.8	25.9	61.2	30.6	70.6	20.0	51.8	15.3	-	3.5	4.7
	40歳代	113	53.1	30.1	53.1	34.5	58.4	15.9	50.4	18.6	3.5	2.7	2.7
	50歳代	144	52.1	24.3	57.6	29.9	63.9	11.1	45.8	12.5	1.4	4.2	3.5
	60歳代	134	44.0	26.9	49.3	26.9	56.0	14.2	42.5	15.7	3.0	9.0	2.2
	70歳代	168	42.9	30.4	44.6	27.4	47.0	4.8	36.9	8.9	0.6	10.1	6.0
	80歳以上	74	40.5	33.8	51.4	32.4	44.6	12.2	33.8	18.9	1.4	5.4	8.1
統計的検定		性別	**		*				**				
		年齢別	**				**	**				**	

性別にみると、男性で「治安が悪化するおそれがある」が50.3%で12.1ポイント女性より高くなっている。一方、女性で「多様性が豊かな社会になる」、「外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える」が男性より5ポイント以上高くなっている。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「多様性が豊かな社会になる」の割合が高い傾向にあり、10歳代で80.6%と他より20ポイント以上高くなっている。また、30歳代で「習慣や文化の違いから、外国籍住民とトラブルが起こるおそれがある」が70.6%と他より5ポイント以上高くなっている。

(7)身の周りにいる人の状況

問12 あなたの周りには次のような人はいますか。〈○はそれぞれ1つずつ〉



身の周りにいる人の状況について、部落(同和地区)出身者では「わからない」が 47.6%と最も高く、次いで「自分の周りにはいない」が 31.4%、「知っている人」が 9.9%となっている。

外国籍住民では「自分の周りにはいない」が 34.8%と最も高く、次いで「わからない」が 25.6%、「知っている人」が 23.3%となっている。

性的マイノリティでは「わからない」が 40.9%と最も高く、次いで「自分の周りにはいない」が 36.9%、「知っている人」が 9.9%となっている。

障がいのある人では「知っている人」が 27.8%と最も高く、次いで「自分の周りにはいない」が 25.3%、「家族・親戚にいる」が 17.4%となっている。

■性別・年齢別

1. 部落(同和地区)出身者

単位:%

区分		回答者数(件)	自分自身がそうである	家族・親戚にいる	親しくしている人	知っている人	自分の周りにはいない	わからない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	1.0	1.3	5.6	10.5	26.0	50.3	5.3	
	女性	469	1.3	0.9	2.8	9.2	35.0	46.1	4.9	
年齢別	10歳代	62	-	1.6	-	4.8	45.2	43.5	4.8	**
	20歳代	85	1.2	-	-	8.2	49.4	37.6	3.5	
	30歳代	85	2.4	1.2	4.7	5.9	38.8	43.5	3.5	
	40歳代	113	1.8	1.8	4.4	7.1	39.8	38.9	6.2	
	50歳代	144	0.7	-	2.1	10.4	25.7	55.6	5.6	
	60歳代	134	1.5	2.2	4.5	13.4	30.6	45.5	2.2	
	70歳代	168	0.6	1.2	3.6	10.1	25.6	53.0	6.0	
	80歳以上	74	-	-	8.1	14.9	17.6	51.4	8.1	

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、20歳代以下で「自分の周りにはいない」が4割を占め、他より5ポイント以上高くなっている。

2. 外国籍住民

単位:%

区分		回答者数(件)	自分自身がそうである	家族・親戚にいる	親しくしている人	知っている人	自分の周りにはいない	わからない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	1.3	2.0	8.2	20.1	37.5	26.3	4.6	
	女性	469	0.9	2.3	8.5	25.4	33.5	24.5	4.9	
年齢別	10歳代	62	-	3.2	8.1	29.0	38.7	17.7	3.2	**
	20歳代	85	1.2	3.5	5.9	35.3	38.8	14.1	1.2	
	30歳代	85	2.4	1.2	11.8	29.4	31.8	21.2	2.4	
	40歳代	113	-	3.5	11.5	31.9	31.0	16.8	5.3	
	50歳代	144	1.4	0.7	13.2	22.2	31.3	26.4	4.9	
	60歳代	134	1.5	1.5	8.2	21.6	41.0	24.6	1.5	
	70歳代	168	-	2.4	4.2	13.7	37.5	35.7	6.5	
	80歳以上	74	1.4	2.7	4.1	14.9	32.4	33.8	10.8	

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、40歳代以下で「知っている人」が3割前後を占め、70歳代より15ポイント以上高くなっている。

3. 性的マイノリティ

単位:%

区分		回答者数 (件)	自分自身が そうである	家族・ 親戚に いる	親しく している 人 にいる	知っ ている 人 に いる	自 分 の 周 り に は い な い	わ か ら な い	無 回 答	統 計 的 検 定
性別	男性	304	1.3	2.0	1.3	6.9	36.5	47.0	4.9	**
	女性	469	1.1	1.3	5.5	11.7	37.5	37.1	5.8	
年齢別	10歳代	62	3.2	1.6	8.1	16.1	40.3	25.8	4.8	**
	20歳代	85	3.5	1.2	14.1	18.8	37.6	23.5	1.2	
	30歳代	85	2.4	1.2	9.4	21.2	36.5	25.9	3.5	
	40歳代	113	0.9	0.9	8.8	9.7	38.9	35.4	5.3	
	50歳代	144	0.7	3.5	2.1	9.7	29.9	48.6	5.6	
	60歳代	134	0.7	1.5	1.5	11.2	44.8	38.1	2.2	
	70歳代	168	-	0.6	-	3.0	38.1	50.6	7.7	
	80歳以上	74	-	-	2.7	2.7	31.1	54.1	9.5	

性別にみると、男性で「わからない」が47.0%と女性より9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代以下で「知っている人」が2割前後を占め、70歳代以上より10ポイント以上高くなっている。

4. 障がいのある人

単位:%

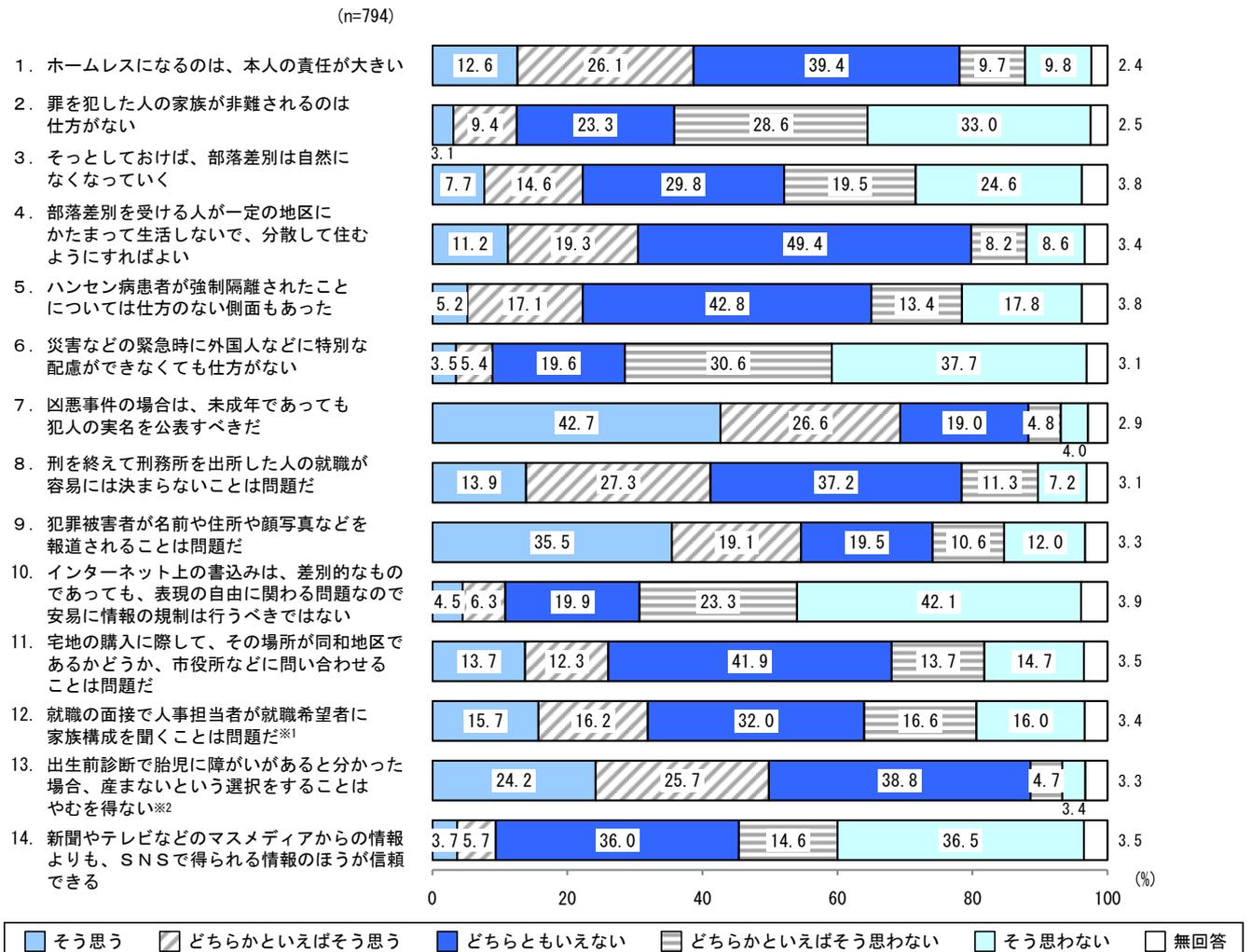
区分		回答者数 (件)	自分自身が そうである	家族・ 親戚に いる	親しく している 人 にいる	知っ ている 人 に いる	自 分 の 周 り に は い な い	わ か ら な い	無 回 答	統 計 的 検 定
性別	男性	304	3.9	19.4	5.3	23.7	27.6	16.4	3.6	
	女性	469	3.2	16.2	6.8	30.1	24.3	14.9	4.5	
年齢別	10歳代	62	4.8	12.9	3.2	22.6	35.5	17.7	3.2	
	20歳代	85	4.7	18.8	1.2	37.6	27.1	9.4	1.2	
	30歳代	85	1.2	15.3	5.9	35.3	28.2	11.8	2.4	
	40歳代	113	2.7	16.8	10.6	24.8	27.4	13.3	4.4	
	50歳代	144	2.1	22.9	4.9	29.2	22.2	13.9	4.9	
	60歳代	134	3.0	15.7	7.5	27.6	31.3	14.9	-	
	70歳代	168	4.2	16.7	4.2	26.2	22.6	19.0	7.1	
	80歳以上	74	6.8	12.2	9.5	21.6	18.9	25.7	5.4	

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみても、大きな差はみられない。

(8)様々な人権問題について

問13 「様々な人権問題」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、「7.凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ」が69.3%と最も高く、次いで「9.犯罪被害者が名前や住所や顔写真などを報道されることは問題だ」が54.6%、「13.出生前診断で胎児に障がいがあると分かった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」が49.9%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)は、「6.災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない」が68.3%と最も高く、次いで「10.インターネット上の書き込みは、差別的なものであっても、表現の自由に関わる問題なので安易に情報の規制は行うべきではない」が65.4%、「2.罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない」が61.6%となっている。

※1…問 13-12 について補足

厚生労働省では、採用選考時に採否の判断に用いてはならない「本人に責任のない事項」(国籍、家族構成、居住地など)と「本来自由であるべき事項」(思想・信条、尊敬する人物、愛読書など)、及び実施してはならない「採用選考方法」(身元調査など)を 14 事項にまとめ、就職差別につながるおそれがあるとしています。これらに違反したときは、職業安定法に基づく行政指導や改善命令等の対象となることがあります。

※2…問 13-13 について補足

人工妊娠中絶は、母体保護法に基づき定められた適応条件のある場合にのみ行い得ることで、求めに応じて行われるものではなく、胎児の障害を理由として中絶することはできません。

■性別・年齢別

1. ホームレスになるのは、本人の責任が大きい

2. 罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない

区分		回答者数(件)	単位:%						統計的検定	単位:%							統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	16.1	28.0	35.5	8.6	9.2	2.6	**	304	3.0	10.9	24.3	27.6	31.3	3.0	
	女性	469	10.4	25.6	41.2	10.7	10.0	2.1		469	3.2	8.1	22.4	29.9	34.3	2.1	
年齢別	10歳代	62	6.5	32.3	51.6	6.5	3.2	-	62	1.6	14.5	19.4	40.3	24.2	-		
	20歳代	85	8.2	30.6	40.0	15.3	5.9	-	85	4.7	8.2	22.4	24.7	40.0	-		
	30歳代	85	7.1	32.9	32.9	11.8	14.1	1.2	85	2.4	9.4	27.1	32.9	27.1	1.2		
	40歳代	113	11.5	23.0	42.5	7.1	14.2	1.8	113	6.2	9.7	28.3	22.1	31.9	1.8		
	50歳代	144	10.4	20.8	52.1	7.6	6.3	2.8	144	0.7	10.4	22.2	31.9	31.9	2.8		
	60歳代	134	14.2	28.4	38.1	11.2	8.2	-	134	-	6.0	22.4	29.1	42.5	-		
	70歳代	168	15.5	24.4	35.7	8.9	10.7	4.8	168	5.4	7.7	22.6	26.8	32.7	4.8		
	80歳以上	74	23.0	27.0	25.7	8.1	12.2	4.1	74	4.1	14.9	24.3	28.4	23.0	5.4		

3. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく

4. 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい

区分		回答者数(件)	単位:%						統計的検定	単位:%							統計的検定
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
性別	男性	304	9.9	15.1	27.6	20.4	23.4	3.6	*	304	13.5	19.1	45.4	8.6	10.2	3.3	
	女性	469	6.2	14.5	31.3	19.4	24.7	3.8		469	9.6	19.6	52.0	8.1	7.5	3.2	
年齢別	10歳代	62	9.7	9.7	38.7	12.9	29.0	-	62	6.5	9.7	56.5	12.9	14.5	-		
	20歳代	85	4.7	12.9	21.2	22.4	38.8	-	85	8.2	16.5	52.9	12.9	9.4	-		
	30歳代	85	7.1	15.3	24.7	23.5	27.1	2.4	85	9.4	25.9	47.1	9.4	7.1	1.2		
	40歳代	113	7.1	12.4	32.7	25.7	20.4	1.8	113	14.2	18.6	51.3	7.1	7.1	1.8		
	50歳代	144	4.2	13.9	37.5	20.1	20.8	3.5	144	9.0	17.4	57.6	6.9	5.6	3.5		
	60歳代	134	6.0	12.7	34.3	18.7	26.9	1.5	134	11.9	23.1	49.3	6.7	9.0	-		
	70歳代	168	10.7	16.7	27.4	14.3	24.4	6.5	168	12.5	14.9	47.6	8.9	8.3	7.7		
	80歳以上	74	13.5	21.6	17.6	13.5	24.3	9.5	74	10.8	21.6	35.1	8.1	17.6	6.8		

5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては
仕方のない側面もあった

6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な
配慮ができなくても仕方がない

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	単位:%							
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い		無 回 答	回答者 数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い	無 回 答
性別	男性	304	7.6	16.8	39.1	11.5	21.7	3.3	304	3.9	6.9	20.1	27.0	39.1	3.0	**
	女性	469	3.4	17.7	45.0	14.9	15.1	3.8	469	3.0	4.7	19.2	33.3	36.9	3.0	
年齢別	10歳代	62	4.8	24.2	53.2	9.7	8.1	-	62	9.7	16.1	22.6	24.2	27.4	-	**
	20歳代	85	4.7	23.5	50.6	11.8	9.4	-	85	8.2	7.1	21.2	29.4	32.9	1.2	
	30歳代	85	2.4	18.8	55.3	11.8	10.6	1.2	85	4.7	9.4	22.4	41.2	21.2	1.2	
	40歳代	113	2.7	13.3	56.6	8.0	17.7	1.8	113	7.1	5.3	17.7	29.2	38.9	1.8	
	50歳代	144	3.5	14.6	50.0	11.8	17.4	2.8	144	0.7	3.5	17.4	37.5	38.2	2.8	
	60歳代	134	6.7	11.9	41.8	14.9	24.6	-	134	3.7	3.7	21.6	27.6	43.3	-	
	70歳代	168	5.4	17.3	29.2	19.0	20.8	8.3	168	2.4	4.8	19.6	28.0	38.7	6.5	
	80歳以上	74	13.5	23.0	23.0	10.8	18.9	10.8	74	2.7	6.8	21.6	16.2	45.9	6.8	

7. 凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名
を公表すべきだ

8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が
容易には決まらないことは問題だ

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定	単位:%							
			そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い		無 回 答	回答者 数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い	無 回 答
性別	男性	304	48.4	26.0	15.8	3.6	3.6	2.6	304	19.1	26.3	34.2	10.2	7.2	3.0	*
	女性	469	39.2	27.1	20.9	5.5	4.5	2.8	469	10.9	29.0	38.4	12.4	6.6	2.8	
年齢別	10歳代	62	40.3	32.3	24.2	3.2	-	-	62	8.1	17.7	40.3	16.1	16.1	1.6	**
	20歳代	85	63.5	20.0	9.4	4.7	2.4	-	85	7.1	16.5	27.1	30.6	18.8	-	
	30歳代	85	48.2	30.6	15.3	3.5	1.2	1.2	85	7.1	11.8	45.9	18.8	15.3	1.2	
	40歳代	113	47.8	25.7	15.0	7.1	2.7	1.8	113	8.0	23.9	38.9	14.2	13.3	1.8	
	50歳代	144	46.5	27.8	16.7	3.5	2.8	2.8	144	13.2	23.6	42.4	13.2	4.9	2.8	
	60歳代	134	40.3	32.1	17.2	5.2	5.2	-	134	18.7	32.1	38.8	4.5	6.0	-	
	70歳代	168	33.3	21.4	28.6	4.8	6.5	5.4	168	17.3	37.5	32.1	5.4	1.2	6.5	
	80歳以上	74	35.1	17.6	25.7	5.4	8.1	8.1	74	28.4	28.4	29.7	5.4	-	8.1	

9. 犯罪被害者が名前や住所や顔写真などを報道されることは問題だ

10. インターネット上の書込みは、差別的なものであっても、表現の自由に関わる問題なので安易に情報の規制は行うべきではない

区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	34.2	20.1	17.8	13.2	11.8	3.0	
	女性	469	36.2	19.2	20.5	9.4	11.7	3.0	
年齢別	10歳代	62	41.9	16.1	19.4	12.9	9.7	-	
	20歳代	85	31.8	17.6	14.1	10.6	25.9	-	
	30歳代	85	32.9	25.9	15.3	14.1	10.6	1.2	
	40歳代	113	44.2	12.4	17.7	7.1	16.8	1.8	**
	50歳代	144	41.7	17.4	17.4	10.4	10.4	2.8	**
	60歳代	134	36.6	25.4	20.9	9.0	8.2	-	
	70歳代	168	27.4	22.0	25.0	7.7	10.7	7.1	
	80歳以上	74	31.1	8.1	21.6	18.9	12.2	8.1	

11. 宅地の購入に際して、その場所が同和地区であるかどうか、市役所などに問い合わせることは問題だ

12. 就職の面接で人事担当者が就職希望者に家族構成を聞くことは問題だ

区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	16.4	14.8	36.5	13.2	15.5	3.6	
	女性	469	11.9	10.7	45.8	14.1	14.3	3.2	
年齢別	10歳代	62	3.2	4.8	71.0	11.3	9.7	-	
	20歳代	85	7.1	7.1	52.9	11.8	21.2	-	
	30歳代	85	8.2	7.1	37.6	23.5	22.4	1.2	
	40歳代	113	7.1	13.3	45.1	14.2	18.6	1.8	**
	50歳代	144	10.4	7.6	46.5	13.9	18.8	2.8	**
	60歳代	134	17.9	12.7	41.8	14.2	13.4	-	
	70歳代	168	20.2	18.5	39.9	9.5	4.8	7.1	
	80歳以上	74	24.3	14.9	24.3	14.9	10.8	10.8	

13. 出生前診断で胎児に障がいがあると分かった場合、
産まないという選択をすることはやむを得ない

14. 新聞やテレビなどのマスメディアからの
情報よりも、SNSで得られる情報のほう
が信頼できる

区分		単位:%							単位:%								
		回答者数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い	無回 答	統計的 検定	回答者数 (件)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わな い	そう 思わな い	無回 答	統計的 検定
性別	男性	304	22.7	29.9	34.9	6.3	3.0	3.3		304	4.3	3.9	31.9	17.8	38.8	3.3	
	女性	469	24.7	23.7	40.9	3.8	3.6	3.2		469	3.0	6.2	38.8	13.0	35.6	3.4	
年齢別	10歳代	62	22.6	22.6	48.4	4.8	1.6	-		62	8.1	9.7	40.3	24.2	17.7	-	
	20歳代	85	36.5	25.9	30.6	4.7	2.4	-		85	9.4	11.8	41.2	20.0	17.6	-	
	30歳代	85	30.6	36.5	28.2	2.4	1.2	1.2		85	4.7	11.8	52.9	5.9	23.5	1.2	
	40歳代	113	31.0	26.5	36.3	2.7	0.9	2.7	**	113	5.3	5.3	42.5	14.2	31.0	1.8	**
	50歳代	144	18.8	25.0	46.5	4.2	2.8	2.8		144	2.1	5.6	33.3	22.2	34.0	2.8	
	60歳代	134	20.9	21.6	47.0	6.0	3.7	0.7		134	3.0	4.5	30.6	12.7	49.3	-	
	70歳代	168	17.9	25.6	41.1	3.0	6.0	6.5		168	2.4	2.4	32.7	9.5	45.8	7.1	
	80歳以上	74	31.1	20.3	24.3	10.8	6.8	6.8		74	2.7	1.4	24.3	13.5	47.3	10.8	

性別にみると、「5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方のない側面もあった」「8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ」において『そう思う』が女性に比べて、男性で高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「1. ホームレスになるのは、本人の責任が大きい」「3. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」「5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方のない側面もあった」「8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ」「10. インターネット上の書込みは、差別的なものであっても、表現の自由に関わる問題なので安易に情報の規制は行うべきではない」「11. 宅地の購入に際して、その場所が同和地区であるかどうか、市役所などに問い合わせることは問題だ」において『そう思う』が他の年代より高くなっている。

■設問間クロス

1. ホームレスになるのは、本人の責任が大きい

			単位:%				
区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	35.0	37.3	26.1	1.7
		「どちらともいえない」	244	36.9	47.5	11.9	3.7
		『身近に感じていない』	174	47.1	32.8	17.8	2.3
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	48.6	33.8	17.6	-
		「どちらともいえない」	286	41.3	44.1	14.7	-
		『そう思わない』	406	36.5	39.2	24.4	-

2. 罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない

			単位:%				
区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 13 14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	17.6	23.0	59.5	-
		「どちらともいえない」	286	14.7	30.4	54.5	0.3
		『そう思わない』	406	10.3	19.2	70.2	0.2

4. 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい

			単位:%				
区分			回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答
問 12 1	部落(同和地区)出身者	自分自身がそうである	9	11.1	77.8	11.1	-
		家族・親戚にいる	8	12.5	37.5	37.5	12.5
		親しくしている人にいる	30	36.7	30.0	33.3	-
		知っている人にいる	79	35.4	41.8	22.8	-
		自分の周りにはいない	249	33.7	49.4	16.1	0.8
		わからない	378	29.6	54.2	15.1	1.1
問 13 3	そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく	『そう思う』	177	60.5	28.2	10.2	1.1
		「どちらともいえない」	237	22.8	68.4	8.4	0.4
		『そう思わない』	350	22.9	49.4	27.1	0.6

5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方がない側面もあった

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	21.8	38.9	35.9	3.4
		「どちらともいえない」	244	18.0	52.0	25.0	4.9
		『身近に感じていない』	174	29.3	37.9	29.3	3.4
問13 問14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	36.5	40.5	23.0	-
		「どちらともいえない」	286	19.2	55.2	24.1	1.4
		『そう思わない』	406	22.9	37.4	39.2	0.5

6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	6.4	18.2	72.3	3.1
		「どちらともいえない」	244	10.7	23.8	61.5	4.1
		『身近に感じていない』	174	11.5	17.8	68.4	2.3
問13 問14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	23.0	23.0	52.7	1.4
		「どちらともいえない」	286	9.1	28.3	62.2	0.3
		『そう思わない』	406	6.7	14.0	79.1	0.2

8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	47.6	33.6	16.2	2.5
		「どちらともいえない」	244	36.9	41.4	17.6	4.1
		『身近に感じていない』	174	35.1	37.4	24.7	2.9
問13 問14	新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	『そう思う』	74	23.0	31.1	44.6	1.4
		「どちらともいえない」	286	38.1	43.0	18.5	0.3
		『そう思わない』	406	49.3	36.0	14.8	-

11. 宅地の購入に際して、その場所が同和地区であるかどうか、市役所などに問い合わせることは問題だ

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	32.2	39.8	25.2	2.8
		「どちらともいえない」	244	19.3	48.4	27.5	4.9
		『身近に感じていない』	174	23.0	36.2	37.4	3.4
問 13 3	そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく	『そう思う』	177	34.5	28.8	36.2	0.6
		「どちらともいえない」	237	16.9	60.3	21.5	1.3
		『そう思わない』	350	29.7	38.9	31.1	0.3

13. 出生前診断で胎児に障がいがあると分かった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない

単位:%

区分		回答者数 (件)	『そう思う』	「どちらともいえない」	『そう思わない』	無回答	
問 12 4	障がいのある人	自分自身がそうである	28	53.6	17.9	25.0	3.6
		家族・親戚にいる	138	55.8	35.5	8.0	0.7
		親しくしている人にいる	49	42.9	44.9	12.2	-
		知っている人にいる	221	53.4	38.9	6.8	0.9
		自分の周りにはいない	201	57.7	34.8	6.5	1.0
		わからない	124	35.5	54.8	9.7	-

「1. ホームレスになるのは、本人の責任が大きい」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じていない』、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思う』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「2. 罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において高くなっている。

「4. 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問 12-1「部落(同和地区)出身者」で『親しくしている人にいる』、問 13-3「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」で『そう思う』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方のない側面もあった」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない」については、『そう思わない』と回答した人において「5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方のない側面もあった」と同じ傾向がみられる。

「8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問 13-14「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」で『そう思わない』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

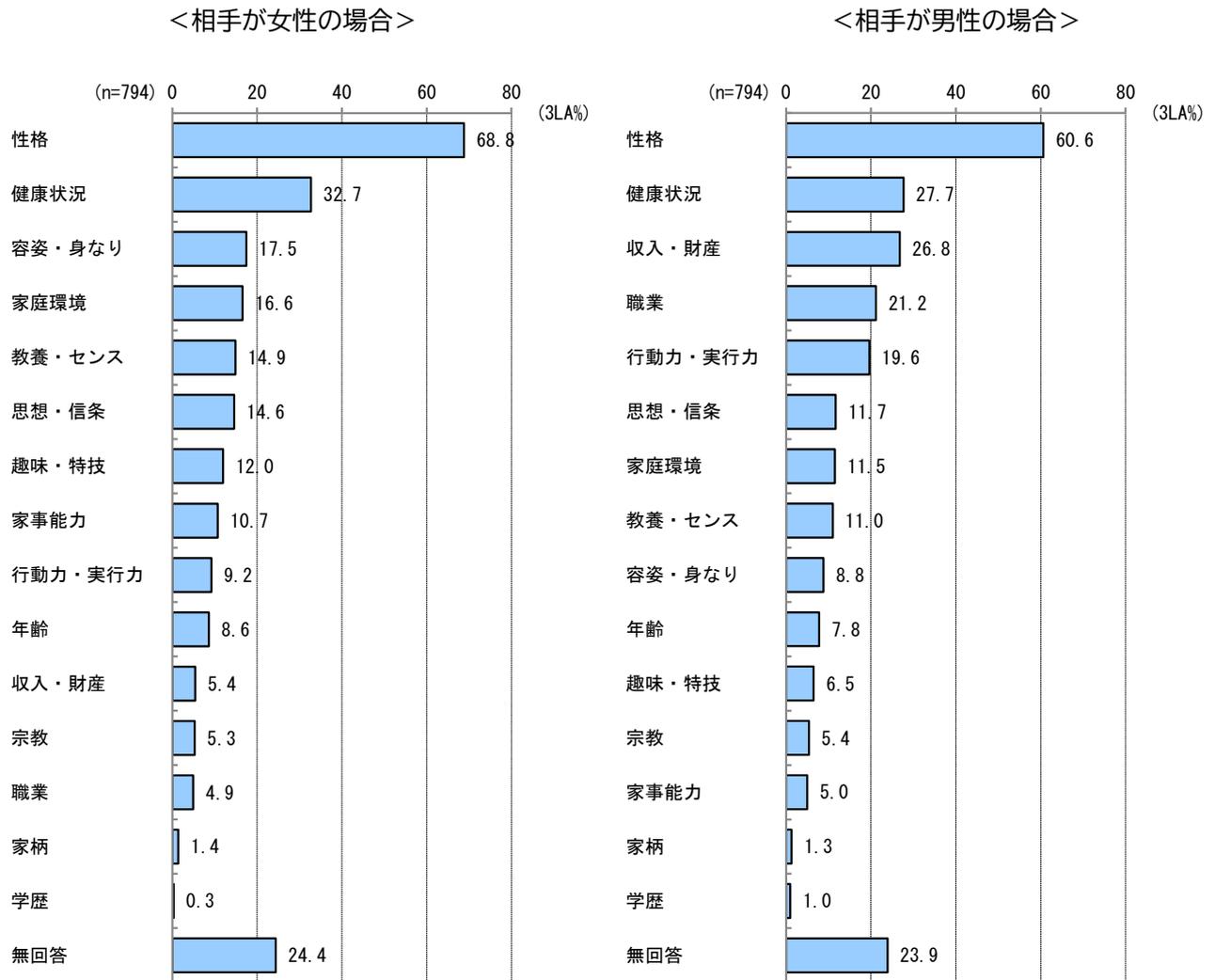
「11. 宅地の購入に際して、その場所が同和地区であるかどうか、市役所などに問い合わせることは問題だ」について、『そう思わない』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じていない』、問 13-3「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」で『そう思う』と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

「13. 出生前診断で胎児に障がいがあると分かった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」について、『そう思う』と回答した人の割合は、問 12-4「障がいのある人」で『自分の周りにはいない』と回答した人において高くなっている。

3. 結婚について

(1)結婚相手として重視する条件

問14 あなたがもし結婚するとして、結婚相手にはどのような条件を重視しますか。相手が女性・男性それぞれの場合を想像して、特に重要だと思うものをそれぞれ3つずつ選んで、()内に番号をご記入ください。



結婚相手として重視する条件について、相手が女性の場合は、「性格」が 68.8%と最も高く、次いで「健康状況」が 32.7%、「容姿・身なり」が 17.5%となっている。

相手が男性の場合は、「性格」が 60.6%と最も高く、次いで「健康状況」が 27.7%、「収入・財産」が 26.8%となっている。

<相手が女性の場合>

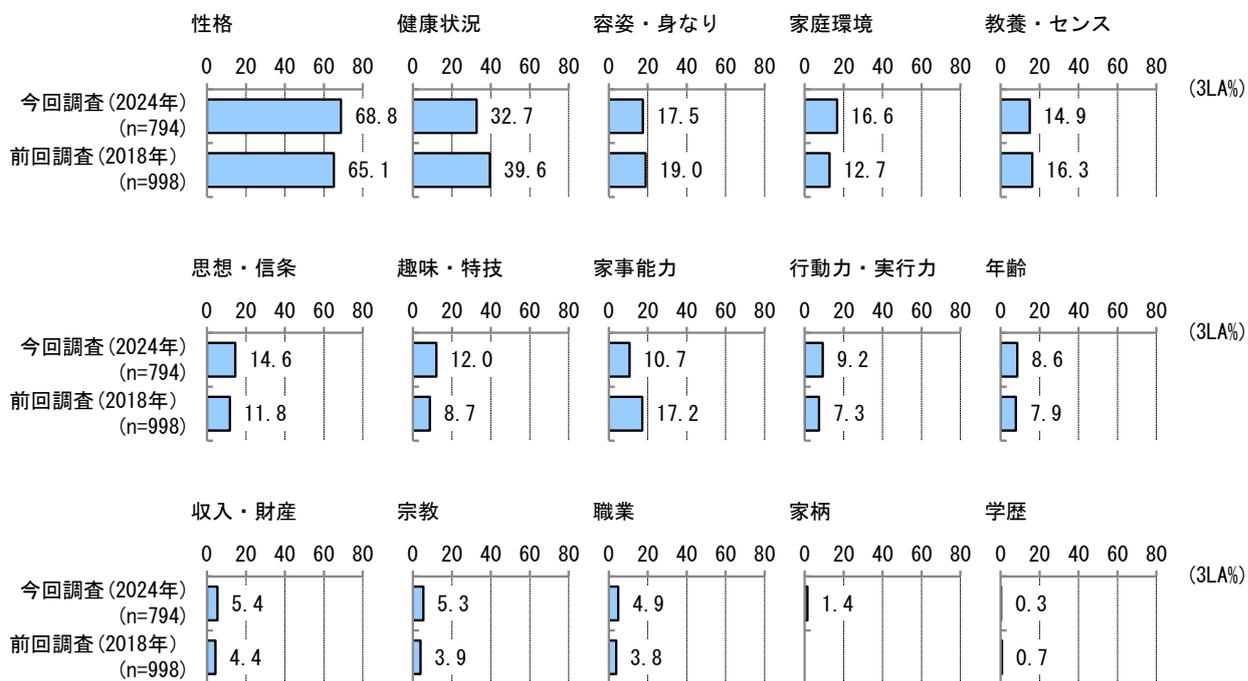
■性別・年齢別

区分		回答者数 (件)	職業	性格	家庭環境	収入・財産	家柄	容姿・身なり	教養・センス	思想・信条	行動力・実行力	趣味・特技	健康状況	学歴	家事能力	年齢	宗教	無回答
性別	男性	304	2.6	83.9	16.4	3.6	2.6	27.0	21.1	17.8	9.9	17.1	41.1	0.3	9.2	10.2	8.2	7.6
	女性	469	6.2	58.6	16.2	6.4	0.6	11.5	10.9	13.0	8.7	8.5	27.9	0.2	11.9	7.0	3.4	35.6
年齢別	10歳代	62	9.7	83.9	12.9	12.9	1.6	24.2	22.6	16.1	14.5	19.4	9.7	1.6	12.9	21.0	8.1	9.7
	20歳代	85	9.4	75.3	12.9	17.6	3.5	24.7	24.7	15.3	14.1	11.8	9.4	1.2	15.3	15.3	8.2	11.8
	30歳代	85	1.2	85.9	21.2	7.1	3.5	28.2	16.5	20.0	9.4	17.6	20.0	1.2	16.5	10.6	7.1	8.2
	40歳代	113	5.3	72.6	14.2	7.1	-	21.2	18.6	20.4	4.4	17.7	25.7	-	11.5	8.8	6.2	20.4
	50歳代	144	9.0	68.1	18.1	5.6	1.4	19.4	15.3	18.1	11.1	9.7	33.3	-	8.3	4.9	6.9	23.6
	60歳代	134	3.0	65.7	14.9	3.0	2.2	13.4	16.4	11.9	10.4	12.7	33.6	-	8.2	6.0	5.2	29.9
	70歳代	168	3.6	60.7	16.1	1.8	0.6	8.3	11.3	7.7	8.3	8.3	49.4	-	9.5	6.0	3.0	33.9
	80歳以上	74	2.7	60.8	21.6	4.1	2.7	13.5	6.8	8.1	5.4	9.5	44.6	-	9.5	12.2	5.4	29.7
統計的検定	性別	**		*		**		**							**			
	年齢別					**							**			*		

性別にみると、男性で「容姿・身なり」が27.0%と女性より15.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「健康状況」が高い傾向にあり、70歳代以上で4割を占め、他より10ポイント以上高くなっている。また、20歳代以下で「収入・財産」が1割を占め、他より5ポイント以上高くなっている。

【経年比較】



※今回調査より「家柄」を追加。

経年比較でみると、今回調査で「健康状況」「家事能力」が前回調査より5ポイント以上低くなっている。

<相手が男性の場合>

■性別・年齢別

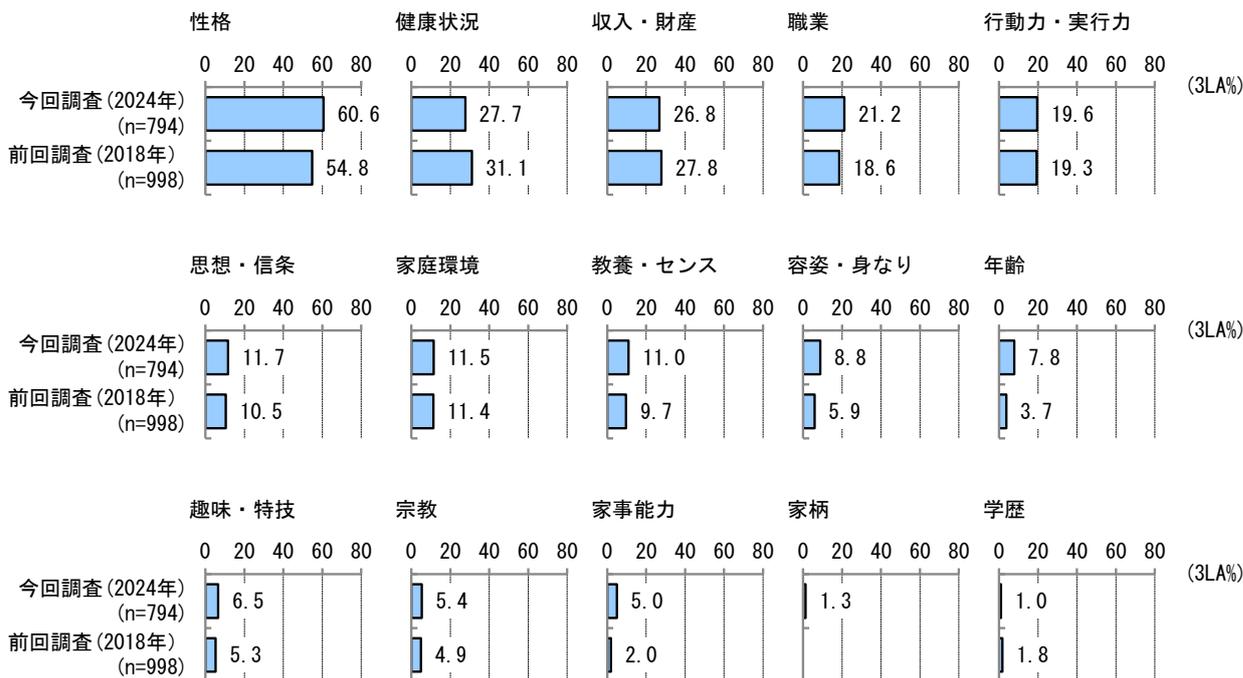
単位:%

区分	回答者数(件)	職業	性格	家庭環境	収入・財産	家柄	容姿・身なり	教養・センス	思想・信条	行動力・実行力	趣味・特技	健康状況	学歴	家事能力	年齢	宗教	無回答	
性別	男性 304	13.2	36.8	5.9	21.4	1.3	6.3	9.9	7.2	11.5	5.6	18.4	1.6	3.6	5.3	4.3	48.7	
	女性 469	26.0	75.9	14.7	30.3	1.3	10.7	11.9	14.9	25.2	6.6	33.9	0.6	6.0	9.4	6.2	8.1	
年齢別	10歳代	62	27.4	67.7	4.8	35.5	1.6	24.2	16.1	9.7	22.6	14.5	9.7	3.2	11.3	16.1	4.8	9.7
	20歳代	85	12.9	71.8	12.9	36.5	2.4	20.0	21.2	10.6	18.8	12.9	9.4	-	8.2	11.8	9.4	10.6
	30歳代	85	22.4	71.8	15.3	29.4	3.5	15.3	17.6	15.3	15.3	11.8	17.6	-	4.7	11.8	7.1	12.9
	40歳代	113	30.1	72.6	11.5	38.9	2.7	12.4	10.6	15.0	21.2	11.5	22.1	1.8	8.8	6.2	4.4	8.8
	50歳代	144	13.9	65.3	13.9	26.4	-	9.7	13.2	16.0	19.4	4.2	28.5	-	2.8	3.5	7.6	25.0
	60歳代	134	26.1	64.2	9.0	25.4	-	3.7	8.2	11.2	26.1	5.2	35.8	3.0	4.5	6.0	4.5	21.6
	70歳代	168	18.5	43.5	11.9	20.2	0.6	1.8	6.5	6.5	19.6	3.0	38.7	0.6	2.4	7.7	4.2	38.1
	80歳以上	74	27.0	40.5	8.1	17.6	2.7	1.4	6.8	6.8	12.2	6.8	28.4	1.4	5.4	9.5	5.4	39.2
統計的検定	性別	**	**									*						
	年齢別	**	*				**					**						

性別にみると、女性で「性格」が75.9%と最も高く、男性より39.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれも「性格」が最も高いが、70歳代以上では4割と他より20ポイント以上低くなっている。また、「容姿・身なり」で年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【経年比較】

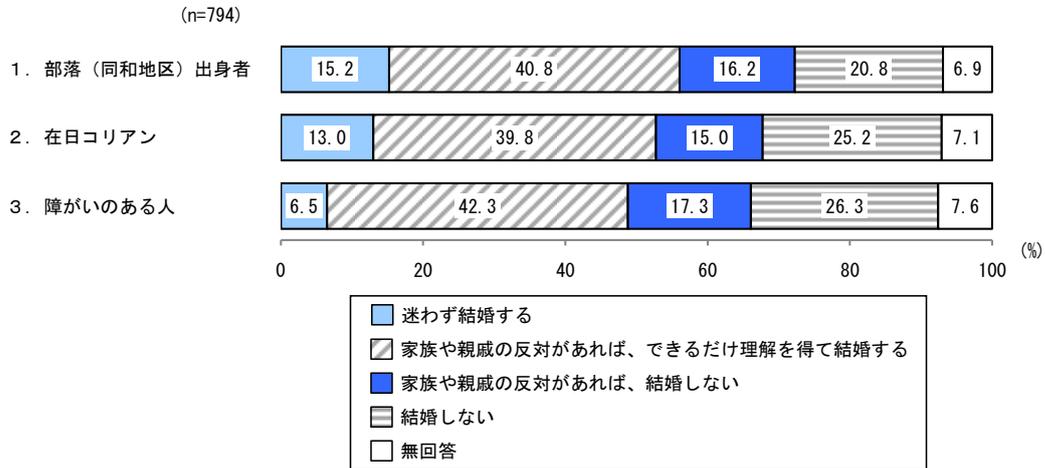


※今回調査より「家柄」を追加。

経年比較でみると、今回調査で「性格」が前回調査より5.8ポイント高くなっている。

(2)結婚の意思

問14-1 問14で選んだ条件を満たしている人が現れたとして、次のような人であった場合、あなたはど
うされますか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。
<○はそれぞれ1つずつ>



いずれの項目も、「家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」が4割前後を占めて最も高くなっている。

■性別・年齢別

1. 部落(同和地区)出身者 2. 在日コリアン

		単位:%						単位:%							
区分		回答者数 (件)	迷わず結婚する	家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	家族や親戚の反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答	統計的検定	回答者数 (件)	迷わず結婚する	家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	家族や親戚の反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	19.1	40.1	14.8	19.7	6.3		304	16.1	34.9	16.1	25.3	7.6	
	女性	469	12.8	41.2	17.1	22.0	7.0		469	11.1	43.1	14.3	25.2	6.4	
年齢別	10歳代	62	24.2	41.9	17.7	16.1	-		62	21.0	45.2	16.1	17.7	-	
	20歳代	85	20.0	43.5	16.5	18.8	1.2		85	22.4	45.9	10.6	20.0	1.2	
	30歳代	85	16.5	40.0	20.0	22.4	1.2		85	15.3	42.4	16.5	24.7	1.2	
	40歳代	113	18.6	52.2	9.7	17.7	1.8		113	13.3	55.8	9.7	21.2	-	*
	50歳代	144	16.0	36.8	14.6	27.1	5.6		144	13.9	38.2	15.3	27.1	5.6	
	60歳代	134	12.7	47.0	15.7	20.1	4.5		134	12.7	41.0	17.9	24.6	3.7	
	70歳代	168	13.1	31.0	20.2	21.4	14.3		168	8.9	29.8	17.9	28.6	14.9	
	80歳以上	74	12.2	35.1	14.9	21.6	16.2		74	10.8	24.3	12.2	32.4	20.3	

3. 障がいのある人

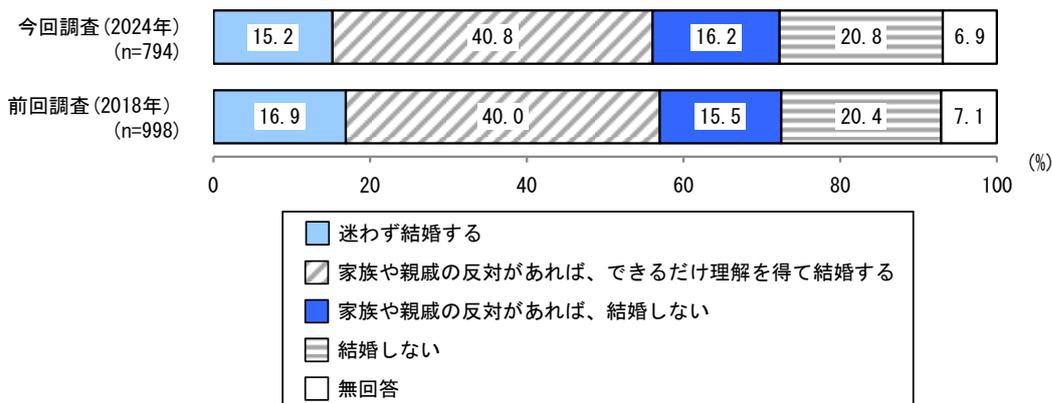
		単位:%						
区分		回答者数 (件)	迷わず結婚する	家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	家族や親戚の反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	7.6	40.8	17.4	26.6	7.6	
	女性	469	5.8	43.1	17.5	26.4	7.2	
年齢別	10歳代	62	8.1	45.2	19.4	27.4	-	
	20歳代	85	7.1	49.4	14.1	28.2	1.2	
	30歳代	85	3.5	47.1	20.0	28.2	1.2	
	40歳代	113	7.1	53.1	15.0	23.9	0.9	
	50歳代	144	10.4	40.3	18.8	25.0	5.6	
	60歳代	134	6.7	41.8	20.1	26.1	5.2	
	70歳代	168	6.0	36.9	16.7	25.6	14.9	
	80歳以上	74	2.7	29.7	10.8	35.1	21.6	

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「2. 在日コリアン」において 20 歳代以下で「迷わず結婚する」が他より5ポイント以上高くなっている。また、40 歳代で「家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」が高くなっている。

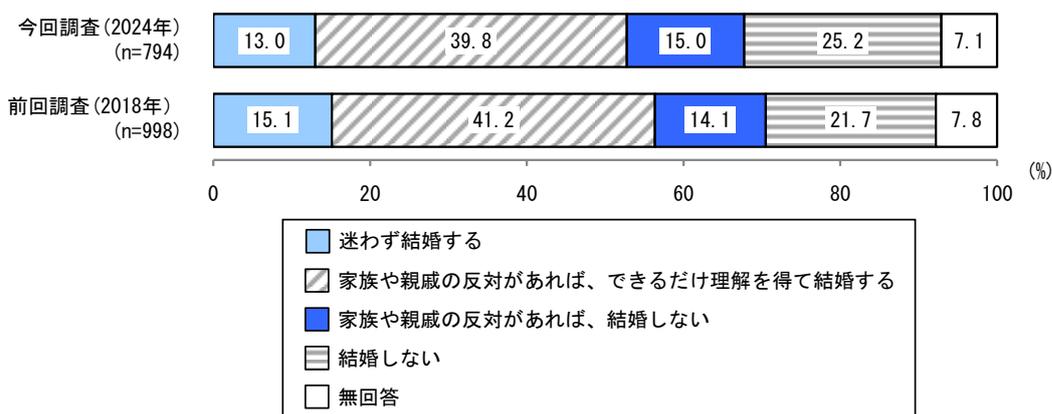
【経年比較】

<1. 部落(同和地区)出身者>



経年比較でも、大きな差はみられない。

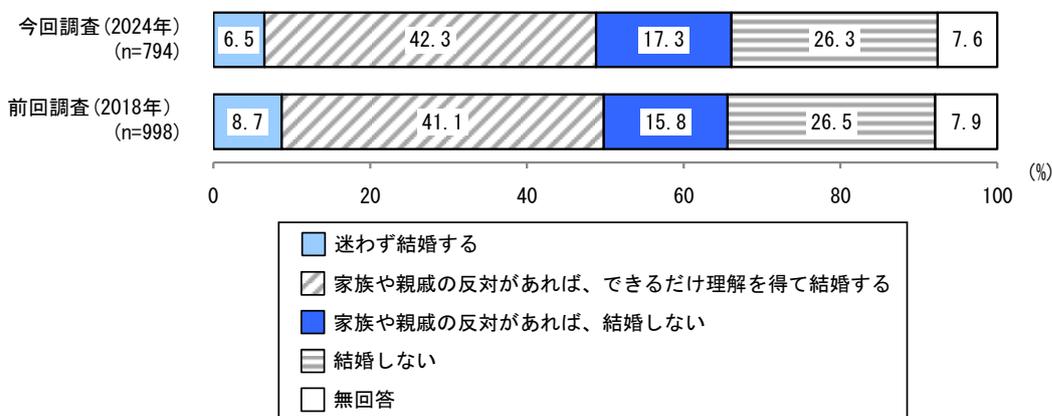
<2. 在日コリアン>



※前回調査では、項目が「日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人」となっており、やや異なる。

経年比較でも、大きな差はみられない。

<3. 障がいのある人>



経年比較でも、大きな差はみられない。

■設問間クロス

1. 部落(同和地区)出身者

			単位:%			
区分			回答者数 (件)	『結婚する』	『結婚しない』	無回答
問 1	人権を身近に感じられるか	『身近に感じている』	357	61.6	32.2	6.2
		『どちらともいえない』	244	51.2	41.0	7.8
		『身近に感じていない』	174	52.9	40.2	6.9
問 12 1	部落(同和地区)出身者	自分自身がそうである	9	88.9	-	11.1
		家族・親戚にいる	8	87.5	12.5	-
		親しくしている人にいる	30	76.7	13.3	10.0
		知っている人にいる	79	64.6	31.6	3.8
		自分の周りにはいない	249	54.2	41.8	4.0
		わからない	378	53.2	39.2	7.7
問 18 1	部落差別(同和問題)	小学校で学んだ	293	64.8	34.8	0.3
		中学校で学んだ	86	74.4	22.1	3.5
		高等・高等専修学校で学んだ	22	86.4	13.6	-
		短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	11	100.0	-	-
		職場研修で学んだ	11	90.9	-	9.1
		はっきりと覚えていない	45	53.3	44.4	2.2
		これまでに学んだ経験はない	40	50.0	45.0	5.0

※問 18-1の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

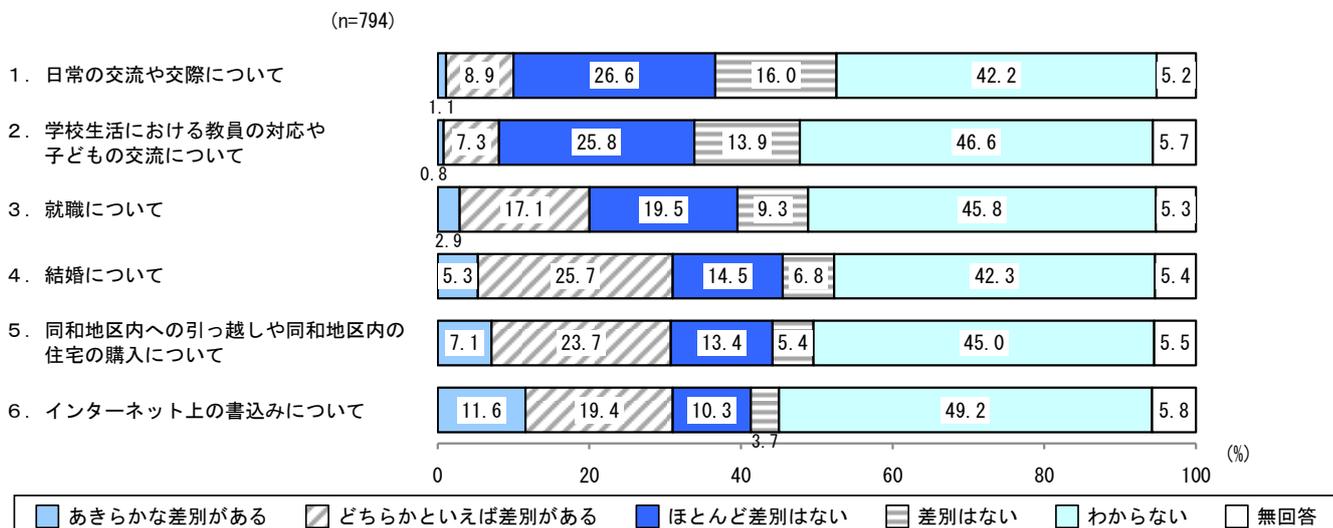
※太字部分は、複数回答の設問において $p \leq 0.05$ で有意差がある項目

部落(同和地区)出身者と『結婚する』と回答した人の割合は、問1「人権を身近に感じられるか」で『身近に感じている』、問 12-1「部落(同和地区)出身者」で「自分自身がそうである」、問 18-1「部落差別(同和問題)」で「短大・大学・大学院・専門学校で学んだ」と回答した人において他の選択肢よりも高くなっている。

4. 部落差別(同和問題)について

(1) 部落差別(同和問題)の有無の認識

問15 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。〈○はそれぞれ1つずつ〉



いずれの項目も、「わからない」が4割を占めている。

『差別がある』(「あきらかな差別がある」+「どちらかといえば差別がある」)は、「4.結婚について」「6.インターネット上の書込みについて」がともに31.0%と最も高く、次いで「5.同和地区内への引っ越しや同和地区内の住宅の購入について」が30.8%となっている。

一方、『差別はない』(「ほとんど差別はない」+「差別はない」)は、「1.日常の交流や交際について」が42.6%と最も高く、次いで「2.学校生活における教員の対応や子どもの交流について」が39.7%、「3.就職について」が28.8%となっている。

■性別・年齢別

1. 日常の交流や交際について

2. 学校生活における教員の対応や子どもの交流について

区分		回答者数(件)	単位:%						統計的検定	単位:%							統計的検定
			あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答		回答者数(件)	あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答	
性別	男性	304	1.3	8.2	31.6	17.4	36.2	5.3	*	304	0.7	6.6	27.0	16.1	44.1	5.6	
	女性	469	1.1	9.6	23.2	14.9	46.1	5.1		469	0.9	7.9	25.2	12.4	48.2	5.5	
年齢別	10歳代	62	3.2	9.7	19.4	19.4	48.4	-	62	-	6.5	27.4	19.4	46.8	-		
	20歳代	85	1.2	9.4	25.9	14.1	48.2	1.2	85	-	11.8	28.2	14.1	44.7	1.2		
	30歳代	85	-	8.2	30.6	15.3	45.9	-	85	-	12.9	24.7	12.9	49.4	-		
	40歳代	113	0.9	6.2	23.9	16.8	51.3	0.9	113	1.8	5.3	23.0	14.2	54.9	0.9		
	50歳代	144	0.7	6.3	29.2	16.7	42.4	4.9	144	0.7	4.2	27.8	15.3	47.2	4.9		
	60歳代	134	1.5	15.7	26.1	18.7	32.1	6.0	134	1.5	9.7	32.1	14.9	35.8	6.0		
	70歳代	168	0.6	8.3	25.6	13.7	42.3	9.5	168	0.6	7.1	20.2	11.3	50.0	10.7		
	80歳以上	74	4.1	9.5	27.0	13.5	35.1	10.8	74	-	1.4	25.7	14.9	45.9	12.2		

3. 就職について

4. 結婚について

区分		回答者数(件)	単位:%						統計的検定	単位:%							統計的検定
			あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答		回答者数(件)	あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答	
性別	男性	304	3.0	17.8	22.7	11.5	40.1	4.9		304	6.3	28.0	15.5	9.2	36.5	4.6	*
	女性	469	2.8	16.6	17.7	7.9	49.7	5.3		469	4.7	24.7	13.6	4.9	46.3	5.8	
年齢別	10歳代	62	3.2	9.7	24.2	11.3	51.6	-	62	8.1	14.5	17.7	12.9	46.8	-		
	20歳代	85	3.5	11.8	16.5	12.9	54.1	1.2	85	4.7	24.7	8.2	9.4	51.8	1.2		
	30歳代	85	3.5	17.6	18.8	8.2	51.8	-	85	3.5	23.5	12.9	7.1	52.9	-		
	40歳代	113	3.5	18.6	15.0	10.6	51.3	0.9	113	3.5	28.3	13.3	8.0	44.2	2.7		
	50歳代	144	0.7	18.1	18.8	12.5	45.1	4.9	144	5.6	26.4	12.5	7.6	43.1	4.9		
	60歳代	134	5.2	21.6	25.4	6.7	35.1	6.0	134	7.5	30.6	16.4	5.2	35.1	5.2		
	70歳代	168	2.4	17.3	17.9	6.5	46.4	9.5	168	6.0	23.8	16.1	4.8	39.9	9.5		
	80歳以上	74	2.7	10.8	20.3	8.1	47.3	10.8	74	5.4	24.3	16.2	6.8	36.5	10.8		

5. 同和地区内への引っ越しや同和地区内の住宅の購入について

6. インターネット上の書込みについて

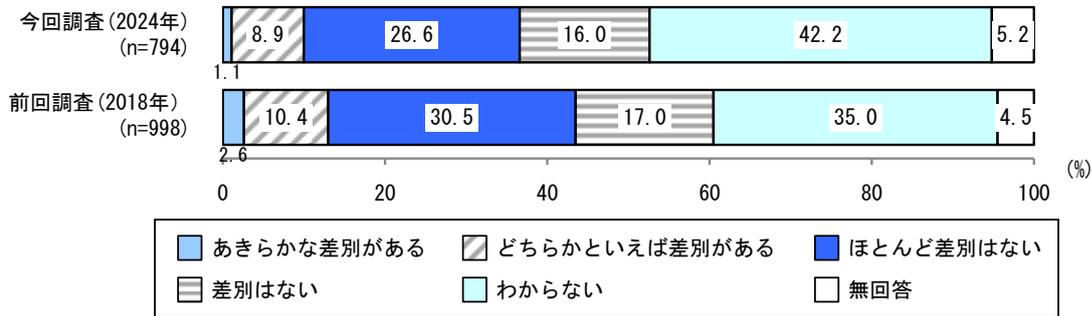
区分		回答者数 (件)	単位:%						統計的検定	単位:%						
			あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答		回答者数 (件)	あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	無回答
性別	男性	304	8.6	25.0	15.8	6.3	39.5	4.9	304	13.5	19.4	11.5	5.3	44.7	5.6	
	女性	469	6.0	22.8	11.5	4.9	49.0	5.8	469	10.7	19.2	9.4	2.6	52.5	5.8	
年齢別	10歳代	62	3.2	12.9	17.7	11.3	54.8	-	62	9.7	27.4	11.3	9.7	41.9	-	
	20歳代	85	3.5	23.5	11.8	8.2	51.8	1.2	85	12.9	22.4	9.4	4.7	49.4	1.2	
	30歳代	85	5.9	27.1	10.6	7.1	49.4	-	85	12.9	28.2	9.4	3.5	45.9	-	
	40歳代	113	2.7	26.5	12.4	8.0	49.6	0.9	113	9.7	21.2	12.4	6.2	48.7	1.8	
	50歳代	144	6.3	25.0	12.5	5.6	45.8	4.9	144	16.0	15.3	11.8	2.8	49.3	4.9	
	60歳代	134	13.4	26.1	17.2	1.5	35.8	6.0	134	13.4	19.4	13.4	3.0	44.0	6.7	
	70歳代	168	8.3	18.5	13.1	2.4	47.0	10.7	168	10.1	18.5	6.5	2.4	52.4	10.1	
	80歳以上	74	8.1	24.3	10.8	8.1	37.8	10.8	74	4.1	14.9	6.8	2.7	59.5	12.2	

性別にみると、「1.日常の交流や交際について」「4.結婚について」において『差別はない』が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、60歳代で「5.同和地区内への引っ越しや同和地区内の住宅の購入について」において『差別がある』が他の年代より高くなっている。

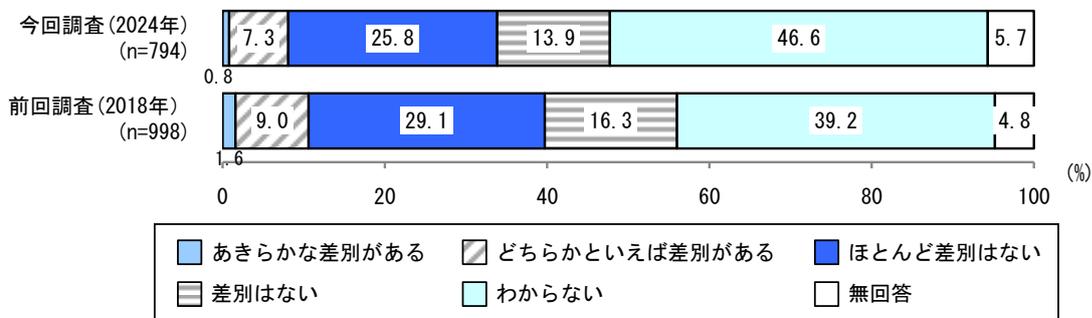
【経年比較】

<1. 日常の交流や交際について>



経年比較でみると、今回調査で「わからない」が42.2%と前回調査より7.2ポイント高くなっている。

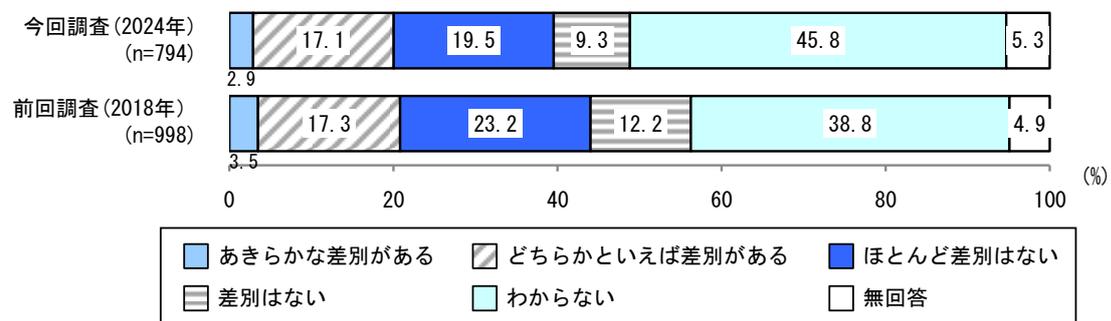
<2. 学校生活における教員の対応や子どもの交流について>



※前回調査では、項目が「学校生活における教員や子どもの交流において」となっており、やや異なる。

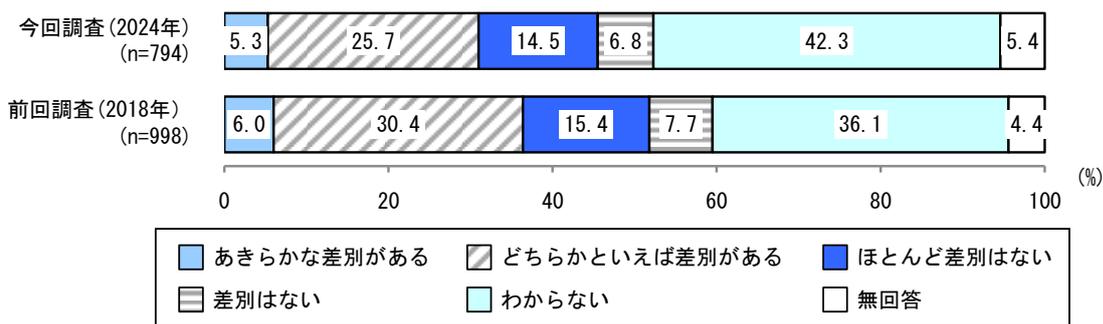
経年比較でみると、今回調査で「わからない」が46.6%と前回調査より7.4ポイント高くなっている一方、『差別はない』は39.7%と5.7ポイント低くなっている。

<3. 就職について>



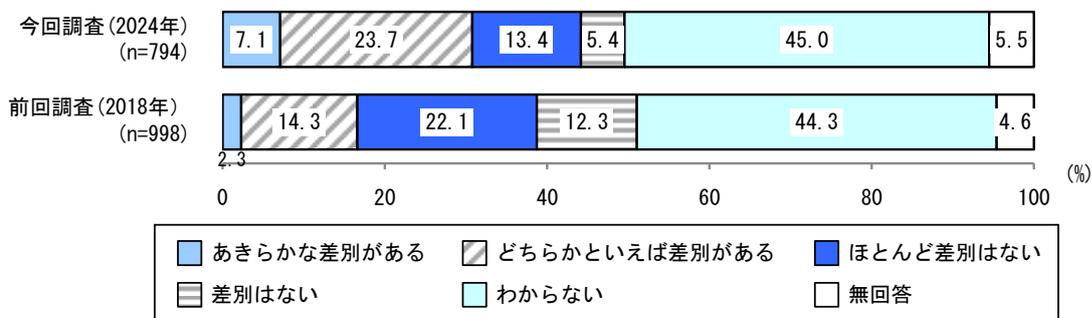
経年比較でみると、今回調査で「わからない」が45.8%と前回調査より7.0ポイント高くなっている一方、『差別はない』は28.8%と6.6ポイント低くなっている。

<4. 結婚について>



経年比較でみると、今回調査で「わからない」が42.3%と前回調査より6.2ポイント高くなっている一方、『差別がある』は31.0%と5.4ポイント低くなっている。

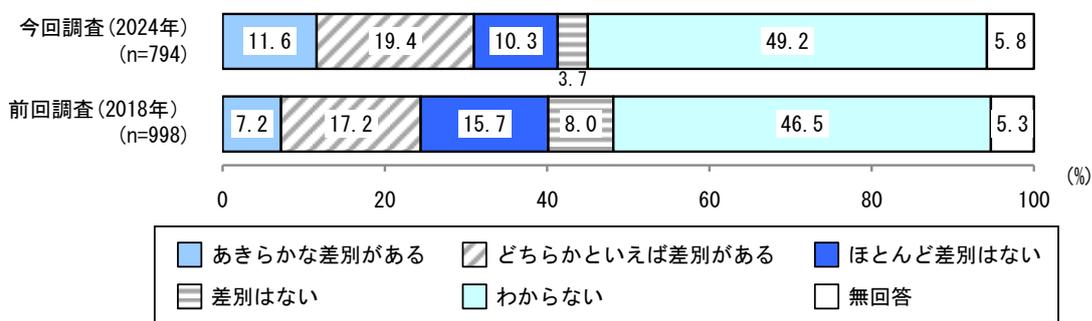
<5. 同和地区内への引っ越しや同和地区内の住宅の購入について>



※前回調査では、項目が「引っ越しや住宅の購入に関して」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で『差別はない』が18.8%と前回調査より15.6ポイント低くなっている一方、『差別がある』は30.8%と14.2ポイント高くなっている。

<6. インターネット上の書き込みについて>

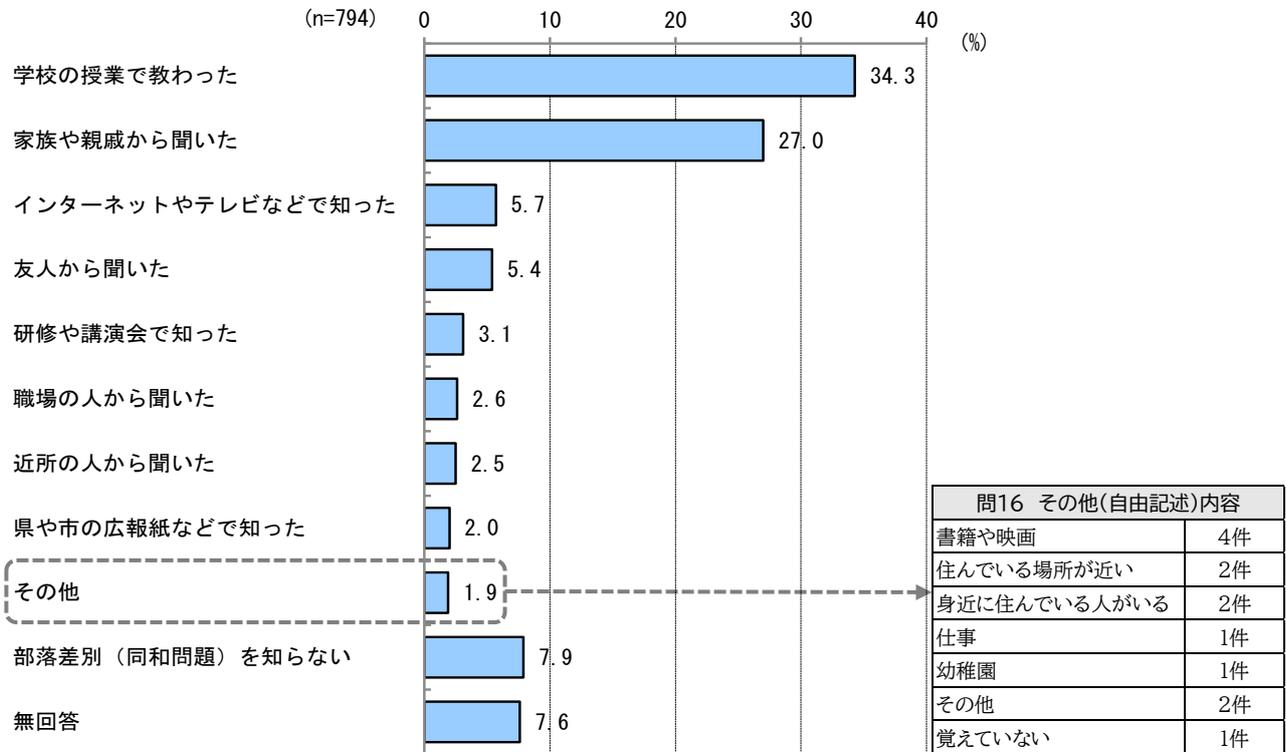


※前回調査では、項目が「インターネット上の差別的な情報の拡散」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で『差別はない』が14.0%と前回調査より9.7ポイント低くなっている一方、『差別がある』は31.0%と6.6ポイント高くなっている。

(2) 部落差別(同和問題)を初めて知ったきっかけ

問16 部落差別(同和問題)について、初めて知ったきっかけは、何からですか。次の中から1つ選んでください。〈○は1つだけ〉



部落差別(同和問題)を初めて知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が34.3%と最も高く、次いで「家族や親戚から聞いた」が27.0%となっている。

「その他」は15件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の2件を除くと、計13件となっている。内容は、「映画」、「家の近くに同和地区があった」、「母が同和地区出身」などあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

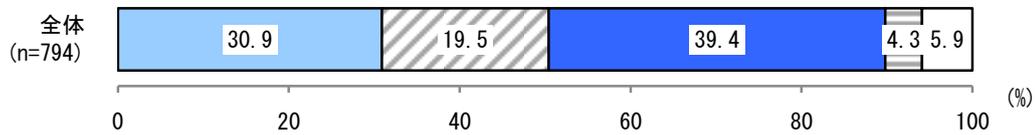
区分		回答者数 (件)	家族や親戚から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	友人から聞いた	学校の授業で教わった	インターネットやテレビなどで知った	研修や講演会で知った	県や市の広報紙などで知った	その他	部落差別(同和問題)を知らない	無回答	統計的検定
性別	男性	304	28.6	1.6	3.6	6.3	28.9	7.6	3.9	1.6	2.3	6.3	9.2	
	女性	469	26.0	3.2	2.1	5.1	37.5	4.3	2.8	2.3	1.7	8.5	6.4	
年齢別	10歳代	62	17.7	-	-	1.6	33.9	14.5	-	-	-	29.0	3.2	**
	20歳代	85	20.0	1.2	1.2	2.4	34.1	8.2	-	-	4.7	24.7	3.5	
	30歳代	85	24.7	-	2.4	5.9	37.6	15.3	1.2	-	1.2	10.6	1.2	
	40歳代	113	19.5	-	0.9	7.1	56.6	3.5	0.9	-	1.8	7.1	2.7	
	50歳代	144	26.4	0.7	2.1	3.5	45.8	5.6	0.7	2.1	-	4.9	8.3	
	60歳代	134	28.4	3.7	2.2	3.7	41.8	2.2	3.7	1.5	0.7	2.2	9.7	
	70歳代	168	32.7	4.8	3.0	6.5	13.7	4.8	8.3	6.0	3.6	6.5	10.1	
80歳以上	74	39.2	8.1	8.1	9.5	4.1	2.7	4.1	1.4	5.4	4.1	13.5		

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「家族や親戚から聞いた」の割合が高い傾向にあり、70歳代以上で3割を占め、最も高くなっている。一方、概ね年齢が下がるほど「部落差別(同和問題)を知らない」が高い傾向にあり、20歳代以下で2割を占め、他より10ポイント以上高くなっている。また、「インターネットやテレビなどで知った」は10歳代、30歳代で1割を占め、他より5ポイント以上高くなっている。

(3)家、マンションなど住宅を選ぶ際の考え

問17 もし、あなたが家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。<○は1つだけ>



- 同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けると思う
- 同和地区内にある物件は避けるが、同和地区を含む小学校区内の物件は避けたいと思う
- いずれにあってもこだわらない
- その他
- 無回答

問17 その他(自由記述)内容	
立地条件(駅に近い、治安がいい、特定の地域等)	10件
環境や状況による	2件
物件自体の条件	2件
その他	7件
わからない・どちらともいえない	10件

同和地区内や同和地区を含む小学校区内などで住宅を選ぶ際の考えについて、「いずれにあってもこだわらない」が39.4%と最も高く、次いで「同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けると思う」が30.9%、「同和地区内にある物件は避けるが、同和地区を含む小学校区内の物件は避けたいと思う」が19.5%となっている。

「その他」は34件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の4件を除くと、計30件となっている。内容は、「駅に近いところ、治安が良いところ、家賃」、「実際の環境による」、「物件次第」などがあげられる。

■性別・年齢別

区分		回答者数(件)	単位:%					統計的検定
			同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けるが、同和地区を含む小学校区内の物件は避けたいと思う	同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けると思う	同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けたいと思う	いずれにあってもこだわらない	その他	
性別	男性	304	29.9	19.1	42.1	3.6	5.3	**
	女性	469	32.0	19.4	37.7	4.7	6.2	
年齢別	10歳代	62	21.0	8.1	66.1	4.8	-	
	20歳代	85	23.5	9.4	60.0	5.9	1.2	
	30歳代	85	32.9	22.4	43.5	1.2	-	
	40歳代	113	38.1	15.9	38.1	6.2	1.8	
	50歳代	144	34.0	20.8	34.7	4.9	5.6	
	60歳代	134	35.8	17.2	38.1	2.2	6.7	
	70歳代	168	24.4	26.8	32.1	5.4	11.3	
	80歳以上	74	28.4	18.9	39.2	5.4	8.1	

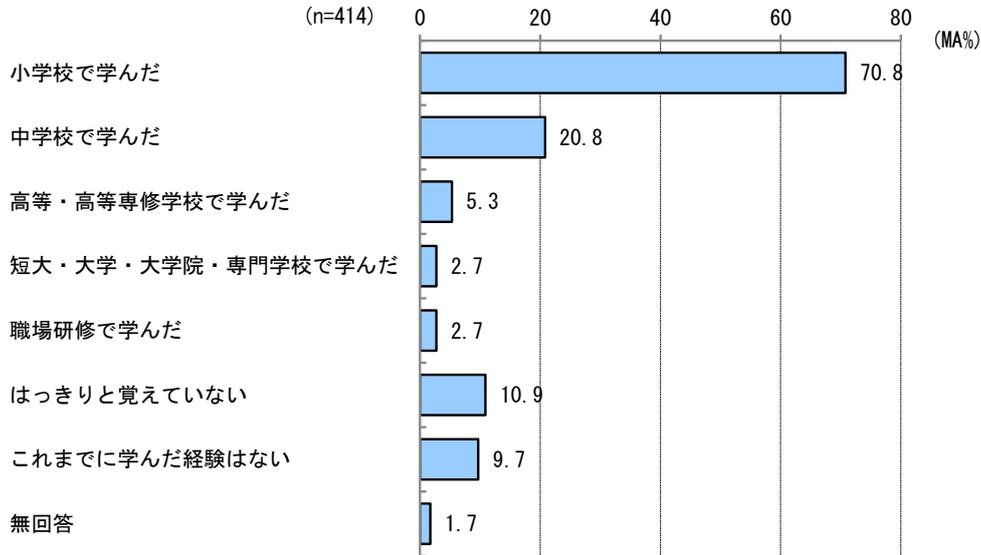
性別にみても、大きな差はみられない。年齢別にみると、20歳代以下で「いずれにあってもこだわらない」が6割を占め、他より15ポイント以上高くなっている。

5. 人権問題についての学習経験

(1)人権問題についての学習経験

問18 あなたは、これまでに次のことについて学習したことがありますか。あてはまるもの全部に○をおつけください。<○はそれぞれいくつでも>

<1. 部落差別(同和問題)>



※いずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

部落差別(同和問題)について、「小学校で学んだ」が 70.8%と最も高く、次いで「中学校で学んだ」が 20.8%となっている。また、「はっきりと覚えていない」が 1 割を超えている。

■性別・年齢別

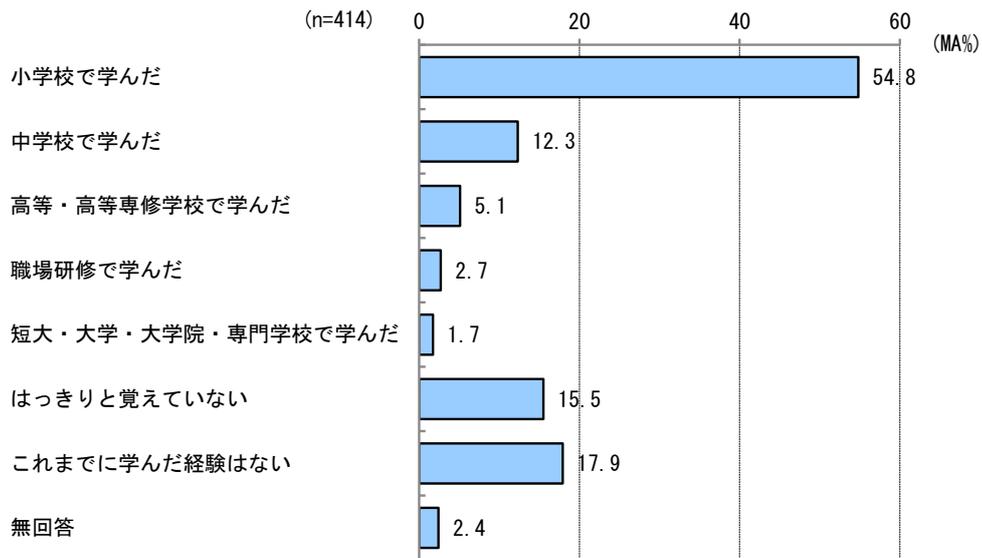
区分	回答者数(件)	単位:%								
		小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はっきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない	無回答	
性別	男性	136	72.8	21.3	5.1	2.9	4.4	9.6	8.1	1.5
	女性	267	70.0	21.3	5.6	2.6	1.9	11.6	9.7	1.9
年齢別	10歳代	62	72.6	27.4	11.3	1.6	-	9.7	4.8	1.6
	20歳代	85	77.6	25.9	7.1	7.1	1.2	8.2	9.4	1.2
	30歳代	85	75.3	15.3	2.4	1.2	2.4	9.4	10.6	1.2
	40歳代	113	75.2	16.8	3.5	1.8	4.4	10.6	5.3	0.9
	50歳代	144	61.8	25.0	8.3	3.5	2.8	14.6	11.8	3.5
	60歳代	134	55.2	19.4	11.2	3.7	11.9	12.7	11.2	4.5
	70歳代	168	10.1	14.3	6.5	4.2	13.1	23.2	28.6	7.7
80歳以上	74	5.4	5.4	5.4	1.4	18.9	25.7	29.7	9.5	
統計的検定	性別									
	年齢別	**	**			**	**	**	**	

※性別の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「はっきりと覚えていない」「これまでに学んだ経験はない」の割合が高い傾向にあり、70 歳代以上で 2 割を占めている。

<2. 外国籍住民に関する問題>



※いずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

外国籍住民に関する問題について、「小学校で学んだ」が 54.8%と最も高くなっている。また、「はっきりと覚えていない」と「これまでに学んだ経験はない」が 1 割を超えている。

■性別・年齢別

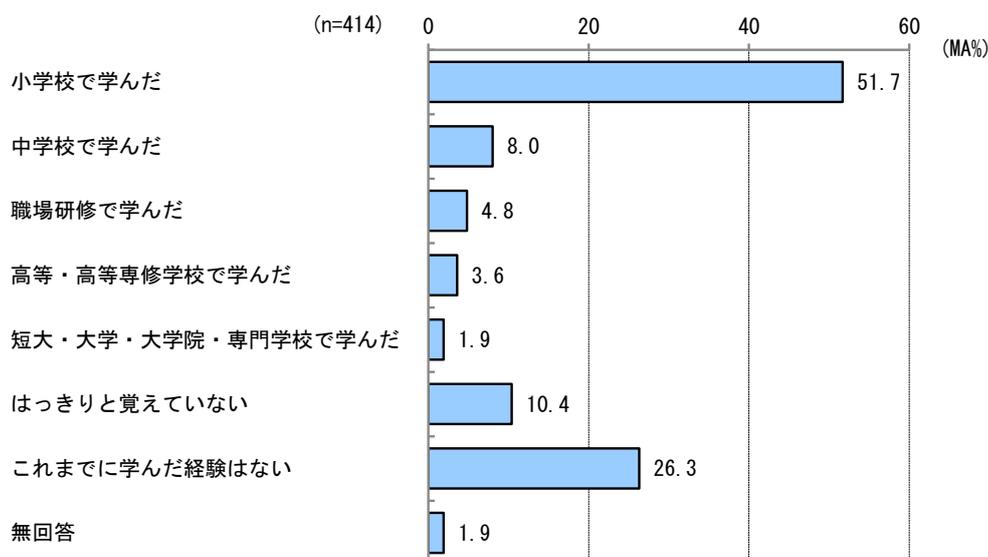
区分		回答者数 (件)	単位:%							
			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はっきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない	無回答
性別	男性	136	55.9	12.5	3.7	2.2	4.4	14.0	16.9	1.5
	女性	267	55.1	12.7	6.0	1.5	1.5	16.1	17.6	3.0
年齢別	10歳代	62	66.1	30.6	12.9	1.6	-	8.1	4.8	1.6
	20歳代	85	70.6	22.4	9.4	7.1	1.2	14.1	4.7	2.4
	30歳代	85	64.7	12.9	3.5	1.2	2.4	12.9	10.6	1.2
	40歳代	113	55.8	8.0	2.7	0.9	3.5	16.8	15.9	2.7
	50歳代	144	41.0	9.0	4.9	1.4	2.8	18.1	29.2	4.2
	60歳代	134	27.6	6.0	3.0	3.0	6.7	14.2	43.3	5.2
	70歳代	168	5.4	1.8	3.6	3.0	6.5	17.9	56.5	7.7
	80歳以上	74	1.4	4.1	1.4	1.4	4.1	20.3	52.7	14.9
統計的検定		性別								
		年齢別	**	**	*				**	

※性別の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「これまでに学んだ経験はない」の割合が高い傾向にあり、70 歳代以上で過半数を占めている。

<3. 性的マイノリティ(少数者)に関する問題>



※いずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

性的マイノリティ(少数者)に関する問題について、「小学校で学んだ」が51.7%と最も高く、次いで「これまでに学んだ経験はない」が26.3%となっている。

■性別・年齢別

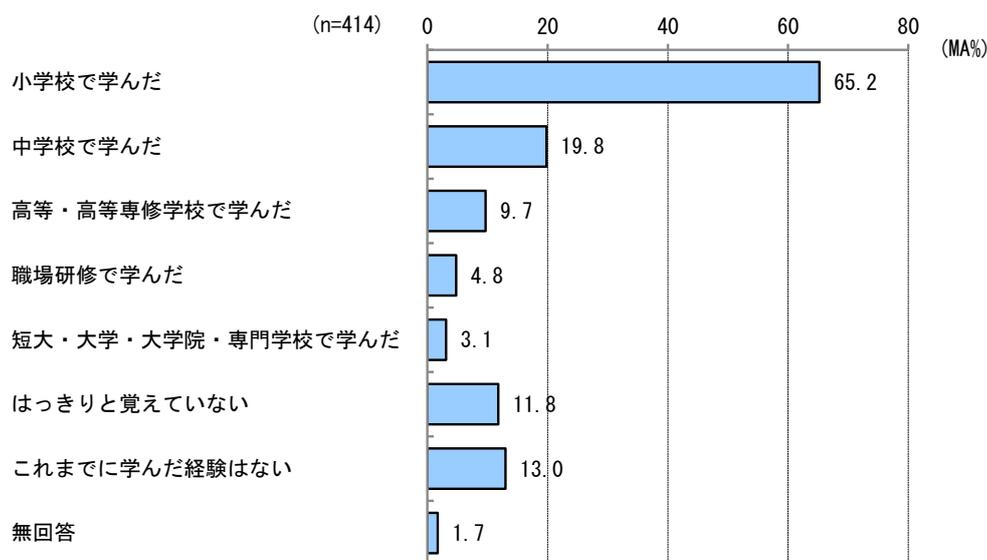
区分		回答者数(件)	単位:%							
			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はっきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない	無回答
性別	男性	136	53.7	6.6	2.9	2.2	8.1	8.8	24.3	1.5
	女性	267	51.3	8.2	4.1	1.9	3.0	10.9	27.3	2.2
年齢別	10歳代	62	62.9	40.3	16.1	4.8	-	9.7	4.8	1.6
	20歳代	85	67.1	27.1	11.8	11.8	2.4	8.2	5.9	2.4
	30歳代	85	63.5	7.1	7.1	1.2	3.5	12.9	15.3	-
	40歳代	113	53.1	1.8	-	-	7.1	10.6	26.5	1.8
	50歳代	144	36.8	2.1	1.4	-	5.6	11.1	41.0	4.2
	60歳代	134	20.1	0.7	0.7	1.5	6.0	11.9	53.7	6.0
	70歳代	168	4.8	0.6	0.6	0.6	0.6	18.5	67.3	7.7
	80歳以上	74	2.7	1.4	2.7	-	4.1	13.5	60.8	14.9
統計的検定						*				
		性別								
		年齢別	**	**	**	**			**	

※性別の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

性別にみると、男性で「職場研修で学んだ」が8.1%と女性より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代以下で「中学校で学んだ」が2割を超え、他より20ポイント以上高くなっている。また、概ね年齢が上がるほど「これまでに学んだ経験はない」の割合が高い傾向にあり、70歳代以上で6割を占めている。

<4. 障がいのある人に関する問題>



※いずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

障がいのある人に関する問題について、「小学校で学んだ」が 65.2%と最も高くなっている。また、「はっきりと覚えていない」と「これまでに学んだ経験はない」が 1 割を超えている。

■性別・年齢別

区分		回答者数 (件)	単位:%							
			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はっきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない	無回答
性別	男性	136	66.9	21.3	7.4	1.5	5.1	11.0	11.0	1.5
	女性	267	64.8	19.1	10.9	4.1	4.9	12.4	13.5	1.9
年齢別	10歳代	62	75.8	46.8	21.0	6.5	-	6.5	3.2	1.6
	20歳代	85	78.8	36.5	22.4	15.3	7.1	10.6	1.2	1.2
	30歳代	85	81.2	27.1	8.2	2.4	3.5	8.2	5.9	-
	40歳代	113	64.6	11.5	7.1	0.9	7.1	13.3	12.4	1.8
	50歳代	144	50.0	11.8	6.3	2.1	4.9	15.3	23.6	3.5
	60歳代	134	23.9	6.7	3.0	4.5	9.7	20.9	33.6	6.7
	70歳代	168	6.0	7.1	3.0	3.6	8.9	19.6	50.0	7.1
80歳以上	74	2.7	4.1	2.7	1.4	8.1	21.6	45.9	14.9	
統計的検定		性別								
		年齢別	**	**	**	**		**	**	

※性別の数値はいずれかの時点で学んだ経験がある割合が高い 50 歳代以下のみで算出

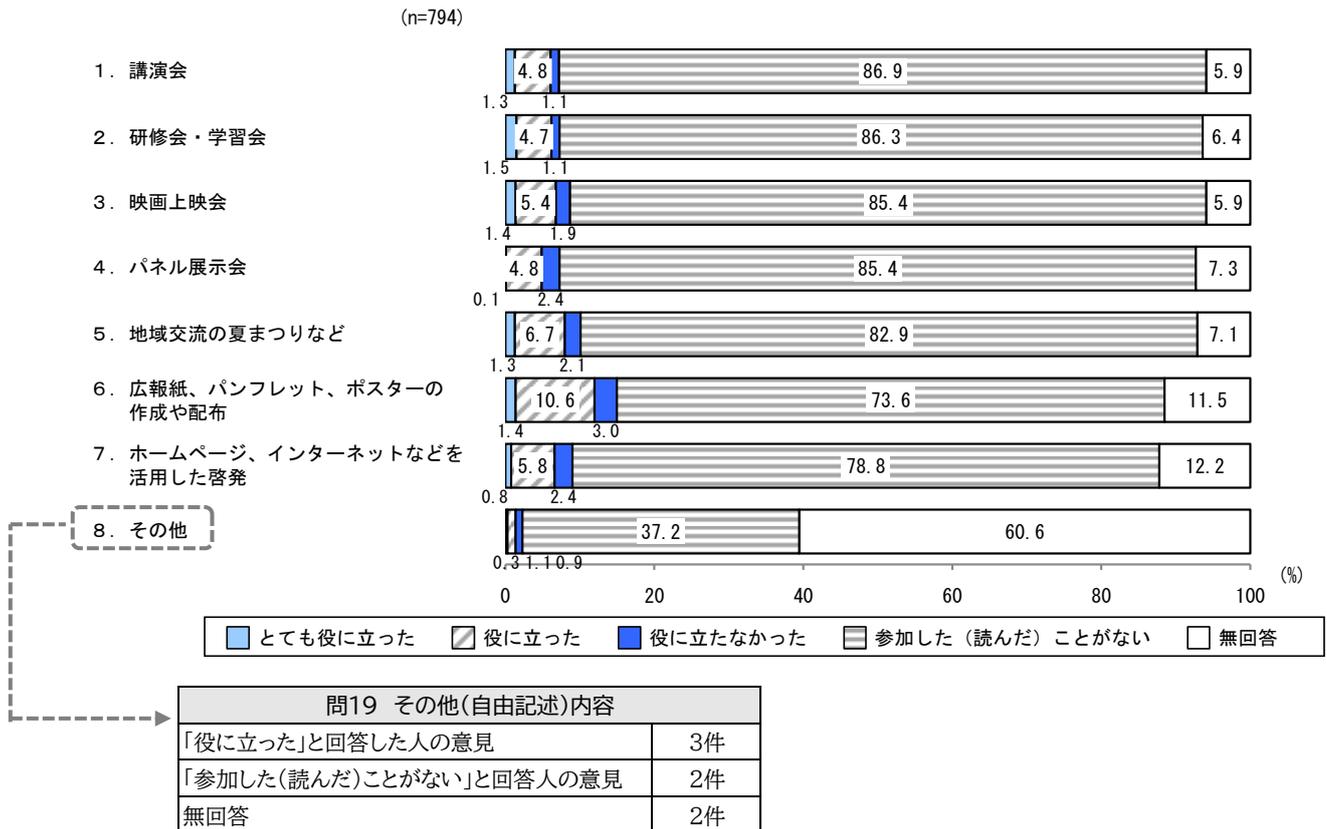
性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、30 歳代以下で「小学校で学んだ」が 8 割前後を占め、他より 10 ポイント以上高くなっている。また、概ね年齢が上がるほど「これまでに学んだ経験はない」の割合が高い傾向にあり、70 歳代以上で他より 10 ポイント以上高くなっている。

6. 人権問題の啓発活動について

(1)人権啓発活動への接触状況

問19 尼崎市では、人権問題について市民の理解を深めるために、「じんけんを考える市民のつどい」など、さまざまな形で催し物や広報紙などによる啓発を行っています。ここ数年の間に、あなたは参加した(読んだ)ことがありますか。参加したものについて意見をお聞かせください。あてはまるものに○をおつけください。〈○はそれぞれ1つずつ〉



人権に関する催し物や広報紙などによる啓発活動への接触状況について、「8. その他」以外の項目で「参加した(読んだ)ことがない」が8割前後を占めて最も高くなっている。

『参加した(読んだ)』(「とても役に立った」+「役に立った」+「役に立たなかった」)は、「6. 広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布」が15.0%と最も高く、次いで「5. 地域交流の夏まつりなど」が10.1%、「7. ホームページ、インターネットなどを活用した啓発」が9.0%となっている。

「その他」で記述があったのは計7件となっている。内容は、「娯楽演劇上演会」や「ヘルプマークについて電車内のポスターが役に立った」などがあげられ、これに対して「役に立った」と回答されている。

■性別・年齢別

1. 講演会 2. 研修会・学習会

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
			とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	参加した(読んだ)ことがない	無回答				回答者数 (件)	とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	参加した(読んだ)ことがない	
性別	男性	304	1.6	5.9	1.6	85.5	5.3		304	1.6	6.3	1.0	85.2	5.9		
	女性	469	1.1	4.1	0.6	88.1	6.2		469	1.5	3.6	1.1	87.4	6.4		
年齢別	10歳代	62	-	3.2	-	95.2	1.6	*	62	1.6	1.6	-	96.8	-	*	
	20歳代	85	3.5	1.2	-	95.3	-		85	2.4	2.4	1.2	94.1	-		
	30歳代	85	1.2	-	-	98.8	-		85	1.2	1.2	-	97.6	-		
	40歳代	113	1.8	0.9	-	96.5	0.9		113	1.8	0.9	-	97.3	-		
	50歳代	144	-	5.6	0.7	91.0	2.8		144	-	4.2	0.7	92.4	2.8		
	60歳代	134	0.7	5.2	1.5	87.3	5.2		134	0.7	4.5	2.2	86.6	6.0		
	70歳代	168	1.8	8.3	1.8	77.4	10.7		168	2.4	9.5	1.8	74.4	11.9		
	80歳以上	74	1.4	5.4	2.7	71.6	18.9		74	2.7	4.1	1.4	70.3	21.6		

3. 映画上映会 4. パネル展示会

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
			とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	参加した(読んだ)ことがない	無回答				回答者数 (件)	とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	参加した(読んだ)ことがない	
性別	男性	304	1.6	5.6	2.3	84.9	5.6		304	0.3	6.3	3.0	83.9	6.6		
	女性	469	1.1	5.1	1.7	86.1	6.0		469	-	4.1	1.9	86.6	7.5		
年齢別	10歳代	62	1.6	3.2	-	95.2	-	**	62	-	1.6	-	96.8	1.6	**	
	20歳代	85	1.2	4.7	-	94.1	-		85	1.2	3.5	1.2	94.1	-		
	30歳代	85	-	-	1.2	98.8	-		85	-	-	-	100.0	-		
	40歳代	113	0.9	0.9	-	98.2	-		113	0.9	2.7	0.9	95.6	-		
	50歳代	144	1.4	3.5	1.4	91.0	2.8		144	-	4.2	1.4	90.3	4.2		
	60歳代	134	-	6.0	2.2	86.6	5.2		134	-	5.2	3.0	85.8	6.0		
	70歳代	168	3.6	9.5	2.4	74.4	10.1		168	-	8.9	4.2	75.0	11.9		
	80歳以上	74	-	8.1	6.8	62.2	23.0		74	-	4.1	5.4	63.5	27.0		

5. 地域交流の夏まつりなど

6. 広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布

区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定			単位:%					統計的 検定
			とても役に 立った	役に 立った	役に 立たな かった	参加した (読んだ) ことが ない	無 回答				回答者数 (件)	とても役に 立った	役に 立った	役に 立たな かった	参加した (読んだ) ことが ない	
性別	男性	304	1.0	6.6	2.3	83.2	6.9		304	1.3	12.5	4.3	72.4	9.5		
	女性	469	1.5	6.8	2.1	82.7	6.8		469	1.5	9.2	2.3	74.8	12.2		
年齢別	10歳代	62	3.2	6.5	-	88.7	1.6		62	-	9.7	-	83.9	6.5		
	20歳代	85	3.5	10.6	-	85.9	-		85	3.5	7.1	1.2	88.2	-		
	30歳代	85	1.2	2.4	1.2	95.3	-		85	1.2	3.5	3.5	90.6	1.2		
	40歳代	113	2.7	5.3	-	91.2	0.9		113	1.8	7.1	0.9	85.0	5.3		
	50歳代	144	-	6.9	1.4	88.2	3.5		144	1.4	12.5	2.1	75.7	8.3		
	60歳代	134	-	6.7	4.5	82.1	6.7		134	-	12.7	3.7	72.4	11.2		
	70歳代	168	1.2	7.7	3.0	76.2	11.9		168	1.2	12.5	4.8	63.1	18.5		
	80歳以上	74	1.4	2.7	4.1	68.9	23.0		74	2.7	8.1	4.1	55.4	29.7		

7. ホームページ、インターネットなどを活用した啓発

8. その他

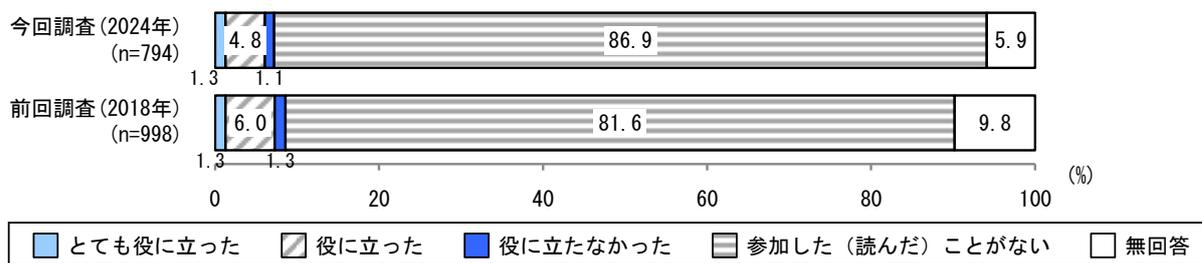
区分		回答者数 (件)	単位:%					統計的 検定			単位:%					統計的 検定
			とても役に 立った	役に 立った	役に 立たな かった	参加した (読んだ) ことが ない	無 回答				回答者数 (件)	とても役に 立った	役に 立った	役に 立たな かった	参加した (読んだ) ことが ない	
性別	男性	304	1.3	5.9	3.0	79.3	10.5		304	-	1.6	1.6	38.8	57.9		
	女性	469	0.4	5.8	1.9	79.1	12.8		469	0.4	0.6	0.4	36.0	62.5		
年齢別	10歳代	62	-	1.6	-	90.3	8.1		62	-	1.6	-	29.0	69.4		
	20歳代	85	3.5	3.5	2.4	90.6	-		85	1.2	3.5	1.2	36.5	57.6		
	30歳代	85	-	2.4	2.4	94.1	1.2		85	-	1.2	-	36.5	62.4		
	40歳代	113	1.8	4.4	0.9	88.5	4.4		113	0.9	-	-	47.8	51.3		
	50歳代	144	0.7	7.6	1.4	80.6	9.7		144	-	1.4	0.7	41.0	56.9		
	60歳代	134	-	6.7	3.7	78.4	11.2		134	0.7	0.7	0.7	28.4	69.4		
	70歳代	168	-	7.7	3.0	70.2	19.0		168	-	-	1.8	36.3	61.9		
	80歳以上	74	-	2.7	2.7	59.5	35.1		74	-	1.4	1.4	33.8	63.5		

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「1. 講演会」「2. 研修会・学習会」「3. 映画上映会」「4. パネル展示会」において、70 歳代以上で『参加した(読んだ)』が他より高くなっている。

【経年比較】

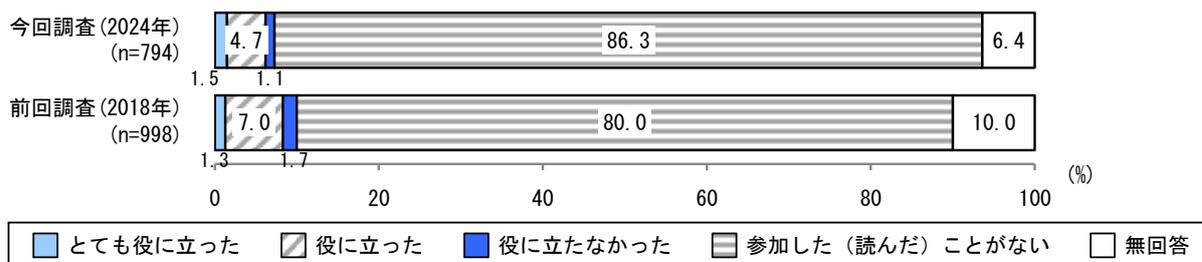
<1. 講演会>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「参加した(読んだ)ことがない」が86.9%と前回調査より5.3ポイント高くなっている。

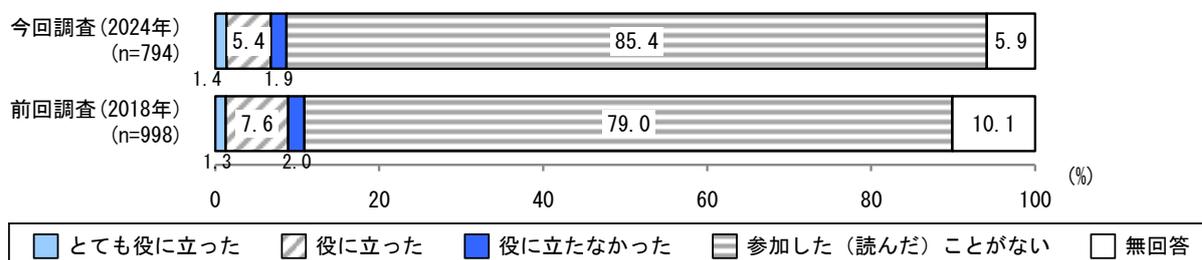
<2. 研修会・学習会>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「参加した(読んだ)ことがない」が86.3%と前回調査より6.3ポイント高くなっている。

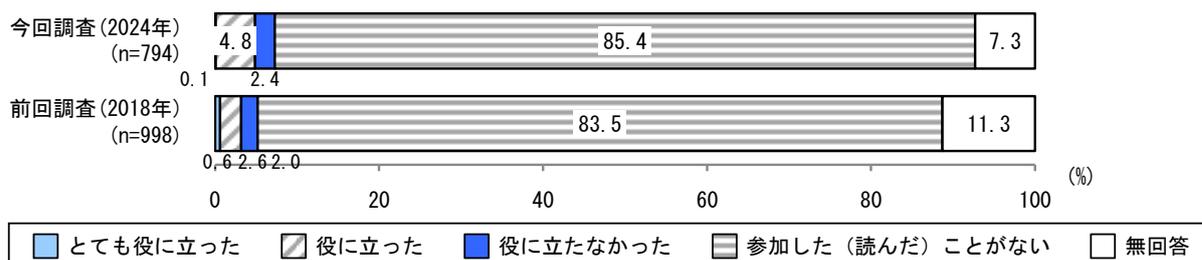
<3. 映画上映会>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「参加した(読んだ)ことがない」が85.4%と前回調査より6.4ポイント高くなっている。

<4. パネル展示会>

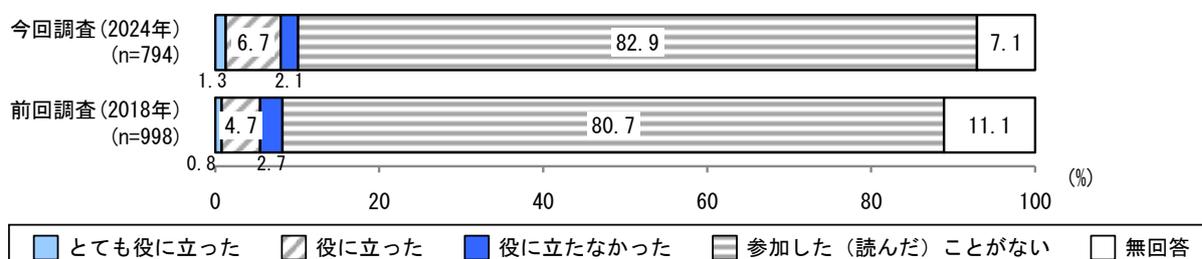


※前回調査では、項目が「啓発展示会」となっており、やや異なる。

※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でも、大きな差はみられない。

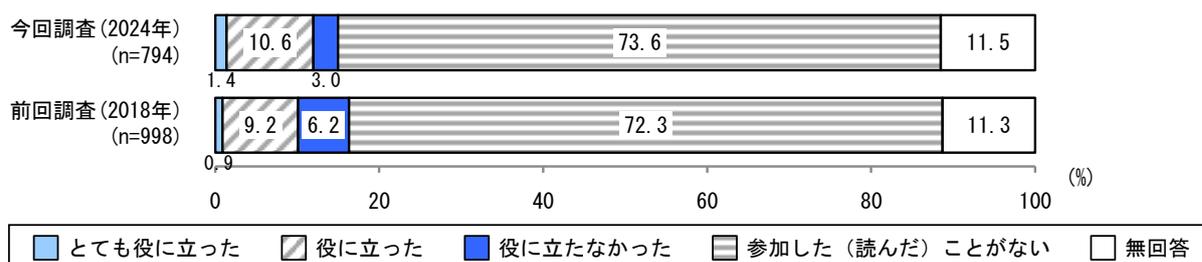
<5. 地域交流の夏まつりなど>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でも、大きな差はみられない。

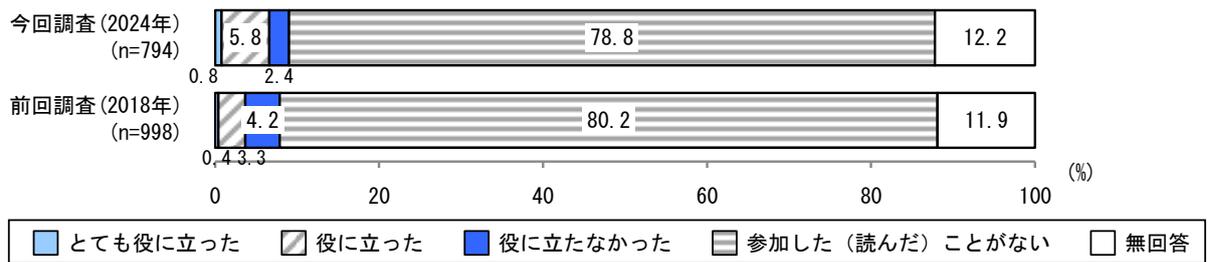
<6. 広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でも、大きな差はみられない。

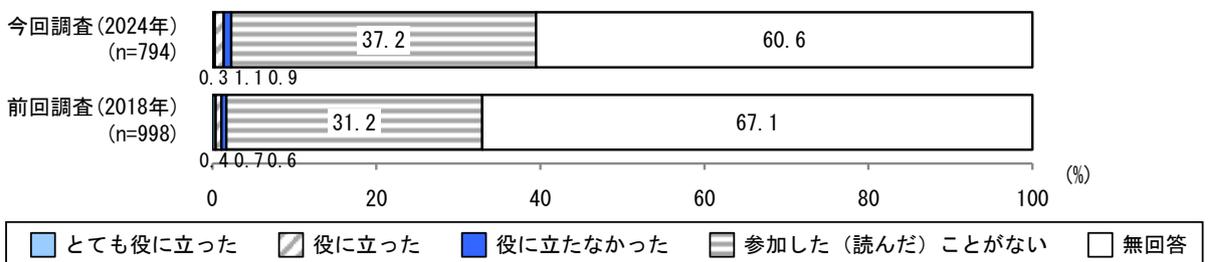
<7. ホームページ、インターネットなどを活用した啓発>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較でも、大きな差はみられない。

<8. その他>



※前回調査では、選択肢が「参加して(読んで)いない」となっており、やや異なる。

経年比較で見ると、今回調査で「参加した(読んだ)ことがない」が37.2%と前回調査より6.0ポイント高くなっている。

(2)人権啓発活動に参加した感想

【問19-1は、問19の1～8で「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」とお答えいただいた方におたずねします。】

問19-1 参加されて、良かったと思う点や逆に良くなかった点があればご自由にお書きください。

人権啓発活動に参加した感想を自由記述の形式でたずねたところ 52 人の方から様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を分類した結果、意見総数は 51 件となりました。最も多い意見は「良かった点」で 39 件、「どちらでもない」で 7 件、「良くなかった点」で 3 件となっています。以下に、意見内容を分類した表と、カテゴリーごとの意見一覧を掲載しています。

なお、いただいたご意見は原文のまま(明らかな誤字脱字は修正)掲載しています。

寄せられたご意見・ご要望において、誤解や偏見に基づいたものなどは掲載していませんが、これらの誤解や偏見などを払拭していくことが本市の課題であるとあらためて認識しております。

※意見総数は「わからないなど」のご意見を除外した件数

※具体的な地名など(「尼崎市」を除く)は「□□」と表記

※「5 わからないなど」に振り分けた意見は非掲載

<意見グループ一覧>

No.	問19-1 その他(自由記述)内容	
1	良かった点	39 件
2	どちらでもない	7 件
3	良くなかった点	3 件
4	その他	2 件
5	わからないなど	1 件
合計(「わからないなど」を含む)		52 件
合計(「わからないなど」を除外)		51 件

<意見の一覧>

1. 良かった点

内容	
相手に対して理解が深まる	いろんな意見をきけるのは良いことだ
日々の生活で忘れていた事を思い出した	子どもたちの考えなども知れてよかった
いろいろな活動があるか事がわかった	日本文化を学んだ
考え方が広まった	知らなかったことが理解出来て良かった
視野がひろがった	個別の事象について一定の理解ができた
正しい考え方がわかった	地域のことを知ることができた
自身の知らなかったことが多くあった	知らなかったことがわかる
橋のない川の映画や本がよかった	友達といっしょに楽しく参加できた

わざわざ学んだことのなかったものをザクッと知ることができた	子供が障害者なので、役に立ちました
講演会で当事者本人のお話をきき、個人(ひとづくりではなく)として認識できた	
普段、あまり意識していない事を、しっかり考えさせてくれたので良かった	
性的マイノリティご本人からの話を聞かしてもらって、とても参考になりました	
地域のおまつりやイベントに参加、自然な形で交流できてよかった	
性的マイノリティについての講演でご本人が語って下さった事で、少なからず理解できた	
法務省のHPのJICAの取り組みの中で、司法アクセス(JTA)のことが紹介されていて、裁判所による事後的救済だけでなく、適切な意思決定を確保するという広い意味での司法アクセスの提供が重要ということを学んだ	
様々な状況の中で暮らしている実情を知る機会となり、考えさせられた	
LGBTQの方が男性→女性へなられたドキュメンタリー映画の上映会へ参加しました。ご本人と監督も来られていて、インタビューなどの機会もありました。生の声がお聞きできたし、とても可愛い方で有意義な時間だった	
社会を明るくする運動に参加して、なごやかな雰囲気楽しかった	
小学校のPTA役員で人権活動の役になり、LGBTのDVDを市役所でお借りし、学内で上映会を行った。人は集まりませんが、自分自身深く知ることができてよかった。悩んでいる子供たちが多く存在していると思うと、小さいうちから教育すべき	
新たな知識を得られ、職場でも情報などを共有することができた	
人権同和教育研究協議会に参加し、研修・講演などで知識を得た	
小学生の時に、手がなくて(両手)、足で食事をしたり、歯みがきをしている女性の方の上映会を観たので、今でもその映像が記憶に残っている。小学生の時は、感受性が強いので、人を思いやる心を育むことができると思う	
映画を観て、再認識できました。「人権」わかっているつもりでもわかっていない、永遠のテーマですね	
映画とか見る前まで、何も知らなかったので実感がわかないが、知らないより、知ってる方がよいと思う	
小学校PTA役員の時に、毎月社会教育課の先生に来ていただいて、いろんなテーマで学べたことはとてもこっています	
□□に住んでいた頃にJR国鉄のガートをくぐれば□□という地区があり友達もあり、牛や馬の屠畜場にも見学に行っていたことがあります	
普段なら、会う機会のない人に会ったり、見たりできること(お店の方や祭りの主催の方や参加者)がよい点です	
世の中が世間の風潮がどういう方向に向かっていっているのかが知ることができてよかった	
拉致被害者の”めぐみ”さんの映画だった、より実感が伝わり、でも私には何もできない。早く国がなんとかしてほしい	
人権小集団学習等を通じて、人権に対して改めて重要度が認識できた。性的マイノリティに関して、今まであまりふれる機会がなかったが、研修会などの参加して知る機会ができたので良かったと思う	

2. どちらでもない

内容
人権を考えさせるものではなく、人権問題を受けた人も皆、平等であり、楽しく過ごしているポジティブな場であれば、受け入れやすくなると思います
人権問題に対して自分自身が興味がなかったので別になんとも思わない
正直人権問題を身近に感じる事が少なく、勉強にはなったのですが役に立ったかと問われると違うかなと思います
私は73歳なので、60年以上前に聞いただけ
尼崎市のホームページで探していた内容が知れて役に立ったが、とても探しづらく知りたい情報を得るまで時間がかかった
研修会に参加して、話しを聞くと、実際は異なることが多くあり、戸惑う事があります

3. 良くなかった点

内容	
抽象的でわかりにくかった	団体などへの動員でないと参加者が集まらない
そもそも興味がある人しか参加しないので、興味のない多数をまきこむことができていない	

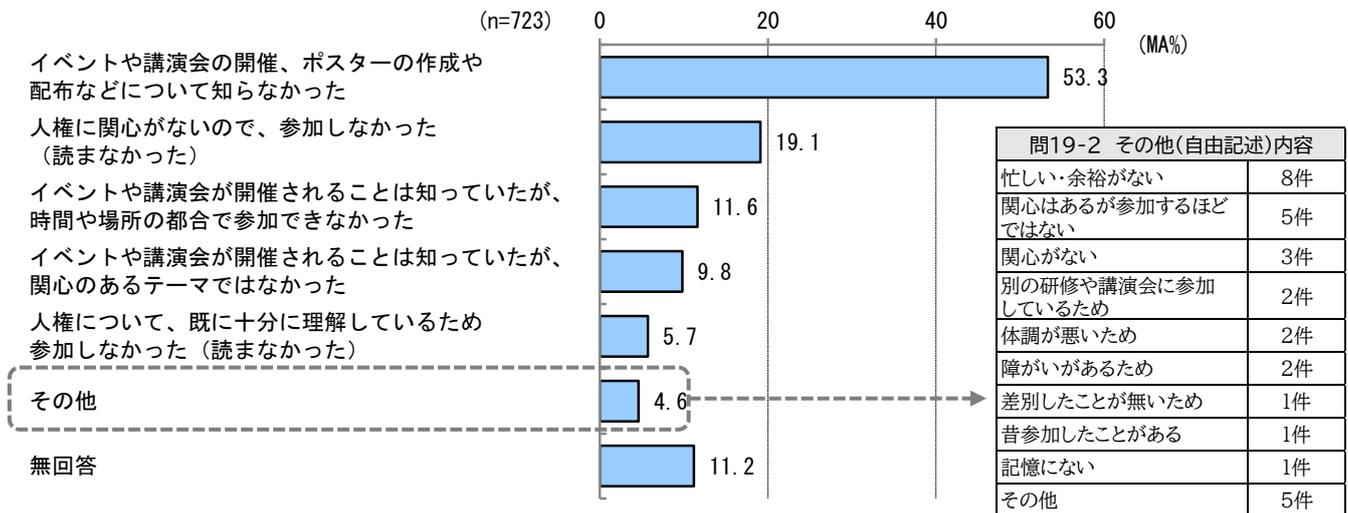
4. その他

内容	
人権は人権であり、生命権、自由権、幸福を追求する権利など、神聖で不可侵の自然権を含む。人権には、市民的および政治的権利、経済的、文化的、社会的権利が含まれます	
全、③に○をつけたのは、年齢が高齢になってくると、いろいろな経験から人権問題はもの心がついた時、大人がしっかり、子に差別をしてはいけない人の嫌がる事は言っはいけないことを教えるべきだと…。※常日頃から、大人がしっかり、手本になるべきだと思う	

(3)人権啓発活動に参加した(読んだ)ことがない理由

【問19-2は、問19の1～5で1つでも「参加した(読んだ)ことがない」とお答えいただいた方におたずねします。】

問19-2 一度も参加された(読んだ)ことがない理由をお選びください。<〇はいくつでも>



人権に関する啓発活動に参加した(読んだ)ことがない理由は、「イベントや講演会の開催、ポスターの作成や配布などについて知らなかった」が53.3%と最も高く、次いで「人権に関心がないので、参加しなかった(読まなかった)」が19.1%、「イベントや講演会が開催されることは知っていたが、時間や場所の都合で参加できなかった」が11.6%となっている。

「その他」は33件で、「その他」を選択しているものの自由記述は無回答の3件を除くと、計30件となっている。内容は、「時間的に余裕がない」、「関心はあるが参加するほどではない」、「身近な事ではないので避けている」などがあげられる。

■性別・年齢別

単位:%

区分	回答者数(件)	知らなかった	イベントや講演会の開催、ポスターの作成や配布などについて	イベントや講演会が開催されることは知っていたが、時間の都合で参加できなかった	イベントや講演会が開催されることは知っていたが、関心のあるテーマではなかった	人権について、既に十分に理解しているため参加しなかった(読まなかった)	人権に関心がないので、参加しなかった(読まなかった)	その他	無回答
性別									
	男性	276	54.3	11.6	10.9	8.3	21.0	3.3	9.1
	女性	429	52.7	11.9	9.6	3.5	18.4	5.4	12.4
年齢別	10歳代	61	78.7	6.6	3.3	6.6	13.1	-	9.8
	20歳代	82	68.3	11.0	6.1	8.5	15.9	1.2	12.2
	30歳代	85	54.1	9.4	11.8	7.1	20.0	2.4	10.6
	40歳代	112	47.3	8.9	7.1	4.5	25.0	4.5	12.5
	50歳代	136	59.6	7.4	5.1	2.9	16.9	6.6	11.0
	60歳代	122	45.9	17.2	9.8	7.4	18.9	5.7	11.5
	70歳代	142	53.5	15.5	18.3	5.6	16.9	5.6	7.7
	80歳以上	56	42.9	14.3	8.9	8.9	25.0	3.6	14.3
統計的検定	性別					**			
	年齢別	**		**					

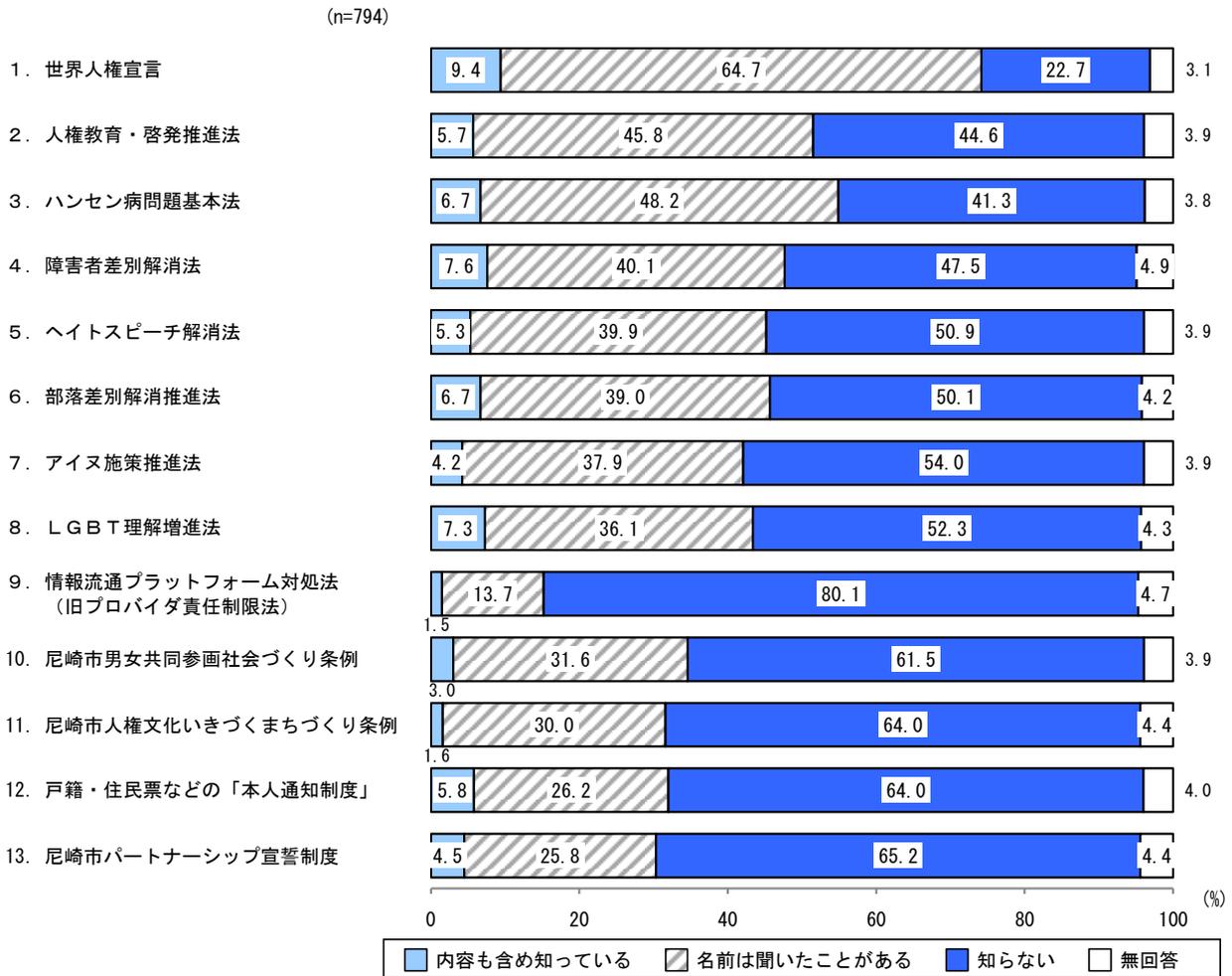
性別にみると、男性で「人権について、既に十分に理解しているため参加しなかった(読まなかった)」が8.3%と女性より4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10歳代で「イベントや講演会の開催、ポスターの作成や配布などについて知らなかった」が78.7%と他より10ポイント以上高くなっている。また、70歳代で「イベントや講演会が開催されることは知っていたが、関心のあるテーマではなかった」は18.3%と他より5ポイント以上高くなっている。

7. 人権に関する法律などの認知状況について

(1)人権に関する法律・条例などの認知状況

問20 あなたは次の人権に関する法律・条例などについてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



人権に関する法律・条例などについて、『知っている』(「内容も含め知っている」+「名前は聞いたことがある」)は、「1.世界人権宣言」が74.1%と最も高く、次いで「3.ハンセン病問題基本法」が54.9%、「2.人権教育・啓発推進法」が51.5%となっている。

一方、「知らない」は、「9.情報流通プラットフォーム対処法(旧プロバイダ責任制限法)」が80.1%と最も高い。

■性別・年齢別

1. 世界人権宣言 2. 人権教育・啓発推進法

区分		単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
		回答者数(件)	内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答				回答者数(件)	内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	
性別	男性	304	9.9	67.8	20.1	2.3									
	女性	469	8.5	64.0	24.3	3.2									
年齢別	10歳代	62	25.8	50.0	24.2	-	**								
	20歳代	85	15.3	67.1	15.3	2.4									
	30歳代	85	8.2	68.2	23.5	-									
	40歳代	113	10.6	60.2	29.2	-									
	50歳代	144	9.7	68.8	20.8	0.7									
	60歳代	134	11.2	67.2	20.9	0.7									
	70歳代	168	4.2	62.5	24.4	8.9									
	80歳以上	74	10.8	59.5	23.0	6.8									
		304	5.3	43.8	47.0	3.9									
		469	5.5	48.0	43.1	3.4									
		62	4.8	37.1	58.1	-									
		85	9.4	48.2	41.2	1.2									
		85	2.4	40.0	56.5	1.2									
		113	8.0	40.7	50.4	0.9									
		144	3.5	51.4	43.8	1.4									
		134	6.7	52.2	38.1	3.0									
		168	3.0	45.8	43.5	7.7									
		74	10.8	40.5	40.5	8.1									

3. ハンセン病問題基本法 4. 障害者差別解消法

区分		単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
		回答者数(件)	内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答				回答者数(件)	内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	
性別	男性	304	8.2	48.4	40.1	3.3									
	女性	469	5.5	48.4	42.4	3.6									
年齢別	10歳代	62	3.2	40.3	56.5	-	**								
	20歳代	85	5.9	44.7	48.2	1.2									
	30歳代	85	1.2	42.4	54.1	2.4									
	40歳代	113	6.2	40.7	53.1	-									
	50歳代	144	5.6	60.4	33.3	0.7									
	60歳代	134	8.2	58.2	29.9	3.7									
	70歳代	168	7.1	45.2	39.9	7.7									
	80歳以上	74	13.5	41.9	37.8	6.8									
		304	7.2	41.8	46.4	4.6									
		469	7.5	39.4	48.4	4.7									
		62	14.5	46.8	38.7	-									
		85	15.3	51.8	31.8	1.2									
		85	9.4	40.0	49.4	1.2									
		113	8.0	38.1	54.0	-									
		144	6.9	43.1	47.9	2.1									
		134	8.2	40.3	47.8	3.7									
		168	4.2	36.9	49.4	9.5									
		74	5.4	36.5	44.6	13.5									

5. ハイトスピーチ解消法

6. 部落差別解消推進法

区分		単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
		回答者数 (件)	内容も 含め知 っている	名前は 聞いた ことがある	知ら ない	無回 答				回答者数 (件)	内容も 含め知 っている	名前は 聞いた ことがある	知ら ない	無回 答	
性別	男性	304	5.3	44.4	47.4	3.0		304	7.6	43.4	44.4	4.6	*		
	女性	469	5.1	37.5	53.3	4.1		469	6.0	36.5	54.2	3.4			
年齢別	10歳代	62	9.7	32.3	58.1	-		62	9.7	32.3	56.5	1.6			
	20歳代	85	9.4	49.4	41.2	-		85	9.4	40.0	49.4	1.2			
	30歳代	85	7.1	38.8	54.1	-		85	4.7	28.2	67.1	-			
	40歳代	113	3.5	43.4	53.1	-		113	4.4	40.7	54.0	0.9			
	50歳代	144	2.8	47.2	49.3	0.7		144	5.6	41.7	51.4	1.4			
	60歳代	134	8.2	38.8	49.3	3.7		134	8.2	39.6	48.5	3.7			
	70歳代	168	3.0	35.1	52.4	9.5		168	5.4	42.3	44.6	7.7			
	80歳以上	74	5.4	37.8	48.6	8.1		74	10.8	40.5	37.8	10.8			

7. アイヌ施策推進法

8. LGBT理解増進法

区分		単位:%					統計的検定			単位:%					統計的検定
		回答者数 (件)	内容も 含め知 っている	名前は 聞いた ことがある	知ら ない	無回 答				回答者数 (件)	内容も 含め知 っている	名前は 聞いた ことがある	知ら ない	無回 答	
性別	男性	304	5.3	43.8	47.7	3.3	**	304	7.6	35.2	53.6	3.6			
	女性	469	3.2	34.5	58.4	3.8		469	6.6	37.5	51.6	4.3			
年齢別	10歳代	62	11.3	41.9	45.2	1.6	**	62	16.1	46.8	37.1	-	**		
	20歳代	85	11.8	49.4	37.6	1.2		85	22.4	51.8	25.9	-			
	30歳代	85	3.5	40.0	56.5	-		85	12.9	49.4	36.5	1.2			
	40歳代	113	3.5	34.5	61.9	-		113	10.6	43.4	46.0	-			
	50歳代	144	2.1	45.1	52.1	0.7		144	3.5	43.1	52.8	0.7			
	60歳代	134	4.5	41.0	51.5	3.0		134	5.2	35.8	55.2	3.7			
	70歳代	168	1.2	31.0	58.9	8.9		168	2.4	22.0	66.7	8.9			
	80歳以上	74	9.5	31.1	50.0	9.5		74	2.7	17.6	67.6	12.2			

9. 情報流通プラットフォーム対処法(旧プロバイダ責任制限法)

10. 尼崎市男女共同参画社会づくり条例

単位:%

区分		回答者数 (件)	内容も含め 知っている	名前は聞 いたことが ある	知らない	無回答	統計的 検定
性別	男性	304	1.3	16.8	78.3	3.6	
	女性	469	1.1	12.2	81.9	4.9	
年齢別	10歳代	62	1.6	17.7	80.6	-	
	20歳代	85	1.2	23.5	74.1	1.2	
	30歳代	85	1.2	17.6	81.2	-	
	40歳代	113	3.5	14.2	81.4	0.9	
	50歳代	144	1.4	14.6	81.9	2.1	
	60歳代	134	1.5	13.4	81.3	3.7	
	70歳代	168	0.6	10.7	79.2	9.5	
	80歳以上	74	1.4	12.2	75.7	10.8	

単位:%

区分		回答者数 (件)	内容も含め 知っている	名前は聞 いたことが ある	知らない	無回答	統計的 検定
性別	男性	304	3.9	25.3	66.4	4.3	**
	女性	469	2.3	36.0	58.6	3.0	
年齢別	10歳代	62	-	24.2	74.2	1.6	
	20歳代	85	7.1	30.6	61.2	1.2	
	30歳代	85	4.7	31.8	63.5	-	
	40歳代	113	1.8	27.4	69.9	0.9	
	50歳代	144	1.4	33.3	63.2	2.1	
	60歳代	134	3.7	34.3	60.4	1.5	
	70歳代	168	1.8	31.0	58.9	8.3	
	80歳以上	74	4.1	29.7	56.8	9.5	

11. 尼崎市人権文化いきづまちづくり条例

12. 戸籍・住民票などの「本人通知制度」

単位:%

区分		回答者数 (件)	内容も含め 知っている	名前は聞 いたことが ある	知らない	無回答	統計的 検定
性別	男性	304	1.6	25.0	68.8	4.6	*
	女性	469	1.5	33.5	61.2	3.8	
年齢別	10歳代	62	-	24.2	74.2	1.6	
	20歳代	85	2.4	28.2	68.2	1.2	
	30歳代	85	1.2	28.2	70.6	-	
	40歳代	113	0.9	28.3	70.8	-	
	50歳代	144	1.4	31.3	66.0	1.4	
	60歳代	134	2.2	29.9	64.2	3.7	
	70歳代	168	0.6	29.8	60.1	9.5	
	80歳以上	74	5.4	27.0	56.8	10.8	

単位:%

区分		回答者数 (件)	内容も含め 知っている	名前は聞 いたことが ある	知らない	無回答	統計的 検定
性別	男性	304	5.9	26.0	64.8	3.3	
	女性	469	5.3	26.9	63.8	4.1	
年齢別	10歳代	62	3.2	19.4	77.4	-	
	20歳代	85	9.4	31.8	57.6	1.2	
	30歳代	85	5.9	28.2	64.7	1.2	
	40歳代	113	5.3	17.7	77.0	-	
	50歳代	144	5.6	27.8	65.3	1.4	
	60歳代	134	8.2	24.6	64.9	2.2	
	70歳代	168	3.0	28.6	59.5	8.9	
	80歳以上	74	6.8	27.0	56.8	9.5	

13. 尼崎市パートナーシップ宣誓制度

単位:%

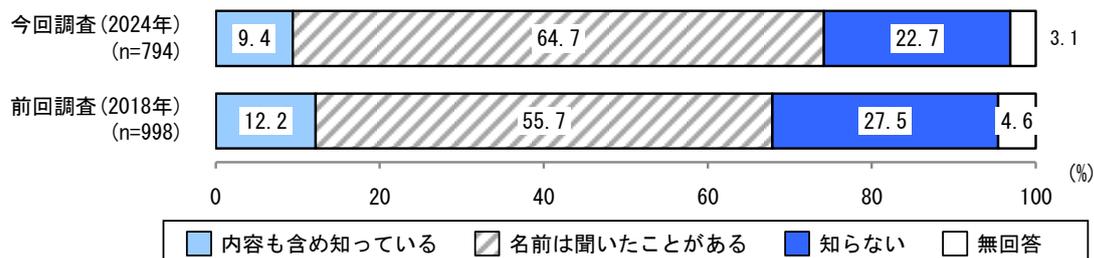
区分		回答者数 (件)	内容も含め 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない	無回答	統計的 検定
性別	男性	304	3.9	21.4	71.1	3.6	*
	女性	469	4.7	29.2	61.6	4.5	
年齢別	10歳代	62	6.5	11.3	82.3	-	
	20歳代	85	5.9	30.6	62.4	1.2	
	30歳代	85	4.7	24.7	70.6	-	
	40歳代	113	7.1	30.1	61.9	0.9	
	50歳代	144	4.9	28.5	65.3	1.4	
	60歳代	134	4.5	26.1	64.2	5.2	
	70歳代	168	1.2	24.4	66.1	8.3	
80歳以上	74	2.7	21.6	66.2	9.5		

性別にみると、「10. 尼崎市男女共同参画社会づくり条例」「11. 尼崎市人権文化いきづまづくり条例」「13. 尼崎市パートナーシップ宣誓制度」において「知らない」が女性に比べ、男性で高くなっている。

年齢別にみると、10歳代で「2. 人権教育・啓発推進法」「3. ハンセン病問題基本法」において「知らない」が高くなっている。

【経年比較】

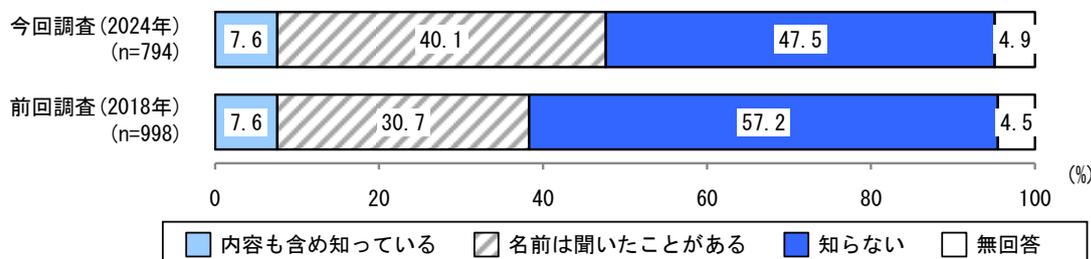
<1. 世界人権宣言>



※前回調査では、項目が「世界人権宣言(1948年)」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「名前は聞いたことがある」が64.7%と前回調査より9.0ポイント高くなっている。

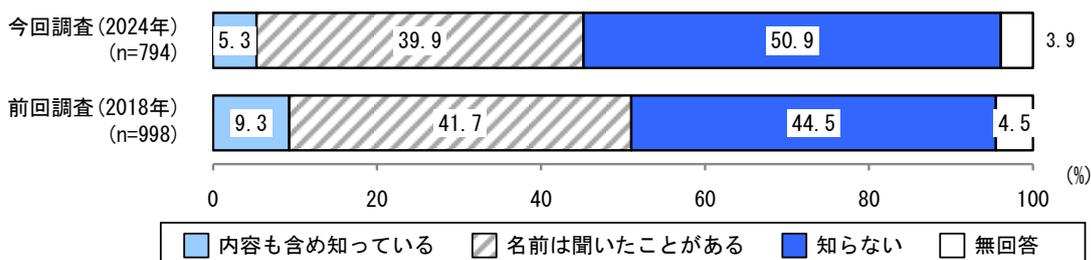
<4. 障害者差別解消法>



※前回調査では、項目が「障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)(2016年)」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「知らない」が47.5%と前回調査より9.7ポイント低くなっている。

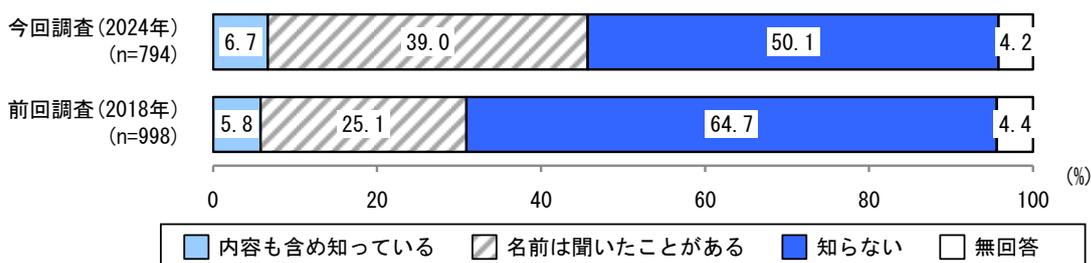
<5. ハイトスピーチ解消法>



※前回調査では、項目が「ハイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)(2016年)」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「知らない」が50.9%と前回調査より6.4ポイント高くなっている。

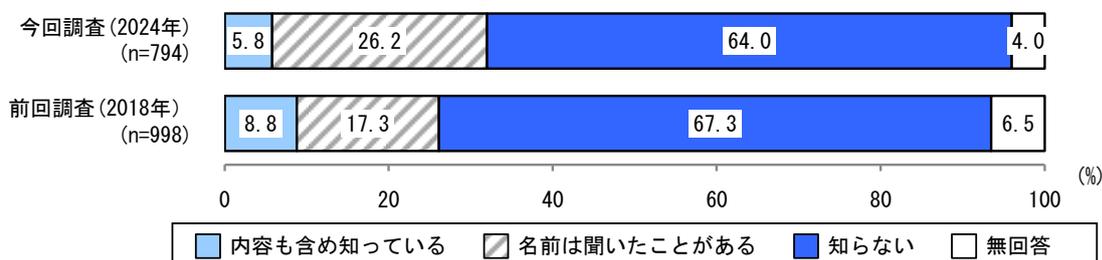
<6. 部落差別解消推進法>



※前回調査では、項目が「部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)(2016年)」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で『知っている』が45.7%と前回調査より14.8ポイント高くなっている。

<12. 戸籍・住民票などの「本人通知制度」>

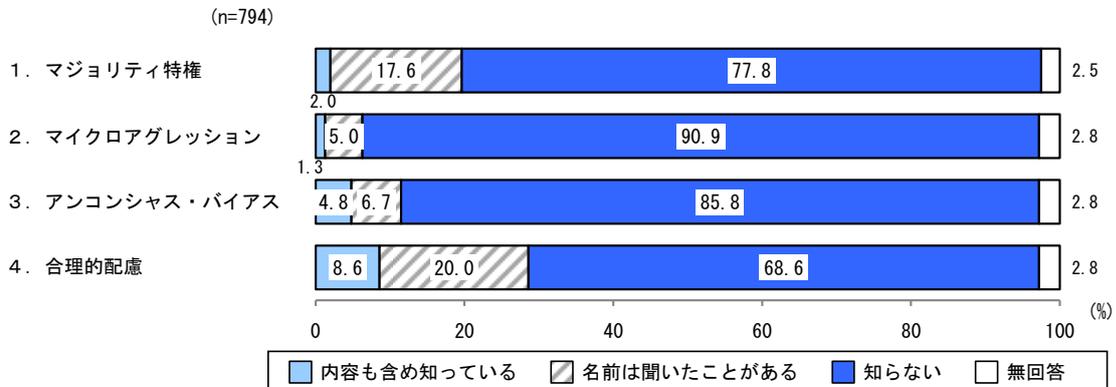


※前回調査では、設問文が「あなたは人権に関する次の制度についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。※戸籍・住民票などの『本人通知制度』…戸籍・住民票等の証明書を本人以外の人取得したときに通知する制度」となっており、やや異なる。

経年比較でみると、今回調査で「名前は聞いたことがある」が26.2%と前回調査より8.9ポイント高くなっている。

(2)人権に関する用語の認知状況

問20-1 あなたは次の人権に関する用語についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。<○はそれぞれ1つずつ>



人権に関する用語について、『知っている』(「内容も含め知っている」+「名前は聞いたことがある」)は、「4.合理的配慮」が28.6%と最も高く、次いで「1.マジョリティ特権」が19.6%となっている。

一方、「知らない」は、「2.マイクロアグレッション」が90.9%と最も高く、次いで「3.アンコンシャス・バイアス」が85.8%となっている。

■性別・年齢別

1. マジョリティ特権	2. マイクロアグレッション
-------------	----------------

区分		単位:%					統計的検定	回答者数(件)		単位:%					統計的検定
		内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答					内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答		
性別	男性	2.0	20.4	75.3	2.3		304	0.7	6.6	89.8	3.0				
	女性	2.1	16.0	79.7	2.1		469	1.5	3.8	92.5	2.1				
年齢別	10歳代	1.6	8.1	90.3	-		62	1.6	3.2	95.2	-				
	20歳代	2.4	17.6	80.0	-		85	4.7	10.6	83.5	1.2				
	30歳代	2.4	15.3	82.4	-		85	2.4	4.7	92.9	-				
	40歳代	3.5	18.6	77.0	0.9		113	0.9	6.2	92.9	-				
	50歳代	3.5	18.1	77.8	0.7		144	1.4	4.2	93.8	0.7				
	60歳代	3.0	18.7	78.4	-		134	1.5	6.7	90.3	1.5				
	70歳代	-	19.0	75.6	5.4		168	-	3.6	91.1	5.4				
	80歳以上	-	14.9	77.0	8.1		74	1.4	5.4	85.1	8.1				

3. アンコンシャス・バイアス	4. 合理的配慮
-----------------	----------

区分		単位:%					統計的検定	回答者数(件)		単位:%					統計的検定
		内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答					内容も含め知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答		
性別	男性	6.3	6.9	83.6	3.3		304	7.2	20.4	69.7	2.6				
	女性	3.8	6.4	87.8	1.9		469	9.4	20.5	68.0	2.1				
年齢別	10歳代	1.6	6.5	91.9	-		62	16.1	17.7	66.1	-				
	20歳代	15.3	9.4	75.3	-		85	25.9	23.5	50.6	-				
	30歳代	8.2	4.7	87.1	-		85	12.9	21.2	65.9	-				
	40歳代	5.3	9.7	84.1	0.9	**	113	9.7	25.7	64.6	-	**			
	50歳代	6.9	9.0	83.3	0.7		144	12.5	20.1	66.0	1.4				
	60歳代	2.2	8.2	88.8	0.7		134	5.2	21.6	72.4	0.7				
	70歳代	0.6	3.6	90.5	5.4		168	1.8	14.9	78.0	5.4				
	80歳以上	1.4	4.1	85.1	9.5		74	4.1	16.2	70.3	9.5				

性別にみても、大きな差はみられない。

年齢別にみると、20歳代で「3.アンコンシャス・バイアス」において『知っている』が24.7%と他より5ポイント以上高くなっている。また、20歳代で「4.合理的配慮」において『知っている』が49.4%と他より10ポイント以上高くなっている。

(3)人権や差別についてのご意見

問21 人権や差別について、ご意見があればご自由にお書きください。

人権や差別に対する意見を自由記述の形式でたずねたところ、109人の方から様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を分類した結果、意見総数は133件となりました。最も多い意見は「差別や人権全般について」で39件、次いで「外国籍住民」で17件、「部落差別(同和問題)」で14件となっています。以下に、意見内容を分類した表と、カテゴリーごとに様々な意見を抜粋して掲載しています。

寄せられたご意見・ご要望において、誤解や偏見に基づいたものなどは掲載していませんが、これらの誤解や偏見などを払拭していくことが本市の課題であるとあらためて認識しております。

今後も関係課と協議、連携しながら、本市の施策などを正しくご理解いただけるよう広報や啓発を進めていきたいと考えておりますので、市民の皆さまの一層のご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※意見総数は「特になし」のご意見を除外した件数

※1つの意見内で複数の項目に分類できる場合は各項目に分類し、分類できない場合は【再掲】と記載

※「12 その他」、「15 特になし」に振り分けた意見は非掲載

<意見グループ一覧>

No.	項目名	(件)
1	差別や人権全般について	39
2	外国籍住民	17
3	部落差別(同和問題)	14
4	障がいのある人	12
5	性的マイノリティ	8
6	子ども	8
7	ジェンダー	7
8	高齢者	3
9	あらゆるハラスメントについて	3
10	犯罪被害者など	1
11	インターネットを悪用した人権侵害	1
12	その他	2
13	アンケートについて	8
14	国、県、市の取組や広報について	10
15	特になし	3
合計(「特になし」を含む)		136
合計(「特になし」を除外)		133

<意見の一覧>

1. 差別や人権全般について

内容
もっと知識を高めないと…と反省しました
本当はお互いに相手の立場で考えられるような思いやりを皆が持てたらいいけど、現実的にこの国民の数で全てを同じにすることは難しい。少なくとも自分は、どんな人とも平等に接することのできる自分でありたいし、私と付き合っていく周りの人間もそうであって欲しいと願ってしまう
安易に人権、差別をことさら大声で叫ぶ一部の人のせいで言葉があまりにも軽く響くようになったように感じます。
人権は守られるべきであると思いますが、主張が強い人々によって、他人の人権が侵されている(普通の人々が委縮している)と思います
日常生活の中では、当事者以外から言われる一時的な優しい綺麗事で済まされない辛い事や逃れられない事も多々あります。自分自身も正しい情報を得て、各差別の意識を変えていかなくてはと思いました
人権とかで決めないで、法の秩序を守る大切さを理解する事が大事
普通にお互いを思いやり、生活出来る社会が良いと思う。ぜひ、そうしていきたいと思う
人権問題は非常に難しい問題です。解決するとは思いません。行政の方でももう少し細分化して目標を達成してください
さまざまな法案も聞いてはいるが(ニュースなどで)、詳細の内容には、興味を持っていなかったことは、自分の身のまわりに、とくに問題がなかったからだと思う。今後は人権問題に関心を持って理解しなければいけないと感じました
どんな人であっても、なりたくてそういう風になったのではないのでお互いみんなが助け合っていくべきだと思います
無知がまねく差別(無自覚)も多いと思います。差別される側にならないように過敏になっているのに、差別する側になってるかもしれないと想像できる人は少ないように思います。正しい知識を得て、むきあう機会がもっとあってもよいのでは?
一人一人が他人に尊重の気持ちを持つだけで世の中は変わると思う
どのような差別は決して許されるべきではないと考える。それらを解消するためにどうしたらいいのか、みんなで考え、行動しなくてはならないと思う
小・中学校でも敢えて人権問題・部落問題を取り上げられた授業もなく育ってきた。特別差別する事もなく、される事もない。ただ結婚に関してだけは自分だけの問題ではないので、家族の者と相談しないとイケないと思う
差別を解消しようと意識するほど差別は大きく多様になると思う
差別はするのは、反対です。人は生まれる土地や親を選んで生まれてくることができないので差別するのは間違っていると思います。差別する人が間違っています
人権は大切だが、今、人権と聞くと左翼のイヤなイメージがあり、引いてしまう
性格がよい人物を第一に考えること、人となり人間性が重要なと思います。相手のことを知る努力が必要と思っています
差別はない方が良いと思いますが難しい問題だと思います。知らない言葉が多くありました
人権を尊重することは極めて重要だが、人が存在する限りあらゆる差別は発生すると感じる

2. 外国籍住民

内容
人権は守られるべきですが、権利のみを主張する人がメディアや SNS で目立つようになったことで、人権という言葉自体が薄っぺらくなってきたと感じます。特に、外国籍の方がわざわざ日本に来て人権を主張し、本国文化の理解を周囲に押し付けることに強い違和感を感じます
多文化共生により、互いの人権、文化等を尊重し、人としての尊厳が守られる社会を望みます
外国籍の人については、文化や考え方の違いがあり、日本の常識を理解できていない人が多いと感じる。外国に住むのであれば、そのルールやマナーに則るべき。住居を与える前に講習を行うなどして、騒音や臭いトラブルへ配慮できる人であれば問題ないと思う
仕事上、人権について毎日考える機会があります。子ども、高齢者、外国人など、声をあげることがむずかしい人への権利擁護はとても大切にされるべきだと思います。ヤングケアラーは、権利侵害と言い換えられると思います。権利擁護、アドボケイト※がキーワードになればいいなと思っています
子供の頃より両親より部落のことが在日韓国人の事などを聞いていました。近くに部落などはなく在日の方とはよく遊んでいたもので差別は感じたこともなし。逆に大人になっての行事 etc の男女差別の方があったと思います

※アドボケイト(advocate)…代弁者、擁護者

<p>外国籍の人や、障害者など、それぞれ私たちと同じで、ひとりひとりの人間性だと思う。仕事で知りあった人でも、仲良くなれる人もあれば、急に都合が悪くなると集団で母国語を使い始めたり(たぶん悪口だったと思う)する人もいて、気分が悪くなったこともあった。健常者や日本人でもいろいろな人がいるのだから差別という言葉自体、差別のひとつだと思う</p>
<p>私は50代半ばですが、部落問題や在日の問題は、学校などで学んだ事はあるが、同世代で、これらを気にする人はいるのか？と思う。私たちより上の世代の方が、いつまでも言っている気がする。私たちの子供世代はその様な事はないのでは…と思う。いつまでも言っている方が、差別が続くのでは…？</p>

3. 部落差別(同和問題)

内容
<p>部落地域に住みたくないと思えるのは、差別の意識からではなく、治安の問題から。部落地域は治安が悪いことが多いイメージがあるので、女性は住む場所には選びにくいし、家族からも反対される</p>
<p>人権や差別はあってはならない。部落の住居等同じ場所にせず分散して支援を行うべきである</p>
<p>子供の頃より両親より部落のこ在日韓国人のこなどを聞いていました。近くに部落などはなく在日の方とはよく遊んでいたのだから差別は感じたこともなし。逆に大人になっての行事 etc の男女差別の方があったと思います 【再掲】</p>
<p>尼崎で部落の場所を少し知っている。関わる事が無いので特に想いはない。差別はよいことではないが、甘んじている人もいるように思う。相互に努力は必要だと思います</p>
<p>同和地区について、部落差別というより、その地域の治安が悪そうという印象が強いため、クリーンなイメージをもちにくいので、治安の安定したイメージが強くなると差別がなくなるのではないかと感じる</p>
<p>私は50代半ばですが、部落問題や在日の問題は、学校などで学んだ事はあるが、同世代で、これらを気にする人はいるのか？と思う。私たちより上の世代の方が、いつまでも言っている気がする。私たちの子供世代はその様な事はないのでは…と思う。いつまでも言っている方が、差別が続くのでは…？ 【再掲】</p>
<p>若い頃に仕事で部落について研修にも参加して学習しました。それからの生活には特に問題はなく、今日まで過ごして来ましたが、現実今はあまり差別とかなくなっていると思います</p>

4. 障がいのある人

内容
<p>男女差別、障害者差別、高齢者差別はこれから無くしていくべき。差別は無くすべきだと思うが、その人に合った環境をもっと整えていかないと差別は無くならないし、その人達が苦しみながら生活をしていかないといけなくなる。それを仕方がないで済ますのは人権侵害になると思う。家族に障害者がいて、介護の仕事をしていて、友達に LGBT が居て、父親は韓国人。女性が上に就くのはまだ 1~2 割と少ない職場。日々もつこうなればいいのに。と自分が市議会議員になってみんなが過ごしやすい環境にしていきたいと思ったりすることもあります。もっともみんなが生きやすい尼崎の街にしてほしいです</p>
<p>ハンディキャップを持っている方々そのものが障がいではなく、生活しづらい環境こそが障がいだと思うので、障がい者をゼロにすることは、人の支え合いや考え方によって可能だと思います。そんなだれもが住みやすい街になってほしいです</p>
<p>障害者など、立場の弱い人が、嫌な思いをしたり、不利益を受けないように私たちも、心に余裕をもって生活していかなければいけないと思う</p>
<p>外国籍の人や、障害者など、それぞれ私たちと同じで、ひとりひとりの人間性だと思う。仕事で知りあった人でも、仲良くなれる人もあれば、急に都合が悪くなると集団で母国語を使い始めたり(たぶん悪口だったと思う)する人もいて、気分が悪くなったこともあった。健常者や日本人でもいろいろな人がいるのだから差別という言葉自体、差別のひとつだと思う 【再掲】</p>
<p>人権侵害や差別がいけないことだというのは十分理解しています。ただそのようなきれい事や正論ばかりでは解決しない問題であるとも思います。小学校が人権活動が活発な学校でした。小学区内に同和地区があり、クラスに小児まひの障害者の子もいました。授業をつぶしてまで狭山事件の反対集会を行っていたのに違和感を感じた。毎年6年生は運動会で組体操を演じるのに、私たちの学年は障害者の子がいるためリズム体操だった。林間学校で私たちのクラスに障害者の子がいたため登山ができなかった。上記の様な体験から子どもの頃から人権や差別についてあまりいい印象を持っておらず、なるべく考えないようにして今まで生きてきました</p>
<p>身近に該当する人々がいないので、日々の生活の中で考える機会がないが、小学校の時、通っていた小学校のすぐ近くに特別支援学校があり、様々な行事で障害をもつ人々と触れ合えたことが、今の私の考え方(障害のある人も同じ人間であるということ)が形成されたと思っているので、幼い頃からそのような機会があることが良いと思います</p>

障がい(知的)の方が障がいのない人と同じように暮らすのは難しいと思う。学校では障がい児童の親の意思により一般クラスと生活するのは無理がある。一般の児童が我慢をしないとイケないのは違うと思う。実際小学校時代そうでした。又、教育の場以外でも、障がいのある方は周りへの配慮が難しい分、障がいの無い人が被害に合うのもおかしいと思う。ある程度の住み分けは必要だと思う

5. 性的マイノリティ

内容
LGBTQ 所謂、同性間での結婚は認められるべきだと思っています。パートナーシップ宣誓制度があるが、やはり婚姻とは違うものであると同時に、国民に理解をして貰えてない所がほとんどです。結婚となれば、制度や異性間での結婚と同じものとして認識できるのでパートナーシップ宣誓よりも理解を得やすいと思います
性別マイノリティを騙った性犯罪、性別マイノリティによるスポーツの優位性、それを容認して LGBT 法案をすぐに可決する政府、LGBT をきっかけに世界中で犯罪が起り、LGBT で儲かる人間がいる。LGBT にあたる人は利用されていると気づかないといけない。LGBT 法はよく読むと全くもって LGBT に優しくないとわかる。目を逸らしてはいけない世界の流れだと感じる
LGBTQ については、いつか「昔は生まれた時の生殖機能だけで決められる『性別』というものがあつたんだよ」と話せる時代がくると思います
友人が LGBTQ 当事者で、たくさんの悩みを聞いてきました。世のイメージ以上に本人はもっと深刻に悩んでいるのに軽々しくキモいとか言う人の神経が全く理解できません。「自分だったら」という意識をもてる教育が必要と感じます
自分が当事者や関係者でなければ無関心になってしまいがち。色々な差別を受けている人、LGBTの人達本人しかわからないと思うが、我々が出来る事があれば協力はしたい。差別されている気持ちは他人には伝わらないと思う。いくら「わかった」と言っても、当事者の本当の気持ちはわかっていないと思う
職業上、LGBTQの人と関わることがあるが、マイノリティであるということから、細かな配慮や声かけ、対応が必要だという考えがある(職場内で)。しかし、その特別扱いとか変に細かな配慮をすることが差別のひとつになるのではないかと思う時がある

6. 子ども

内容
仕事上、人権について毎日考える機会があります。子ども、高齢者、外国人など、声をあげることがむずかしい人への権利擁護はとても大切にされるべきだと思います。ヤングケアラーは、権利侵害と言い換えられると思います。権利擁護、アドボケイトがキーワードになればいいなと思っています【再掲】
いじめや差別で自死する人が後を絶たないのは社会全体の問題であり、人権教育等を通じてなくすべきだと思います
いじめなどが学校で発生した場合、いじめを受けた側が転校したり、別室指導を行ったりするのではなく、いじめを行った側に徹底的に指導を行う必要があると思う
このアンケートにより私は「女性」「子供」という自分(と娘)に当てはまる”人権”にしか興味がないとわかりました。講演会では、「子供」にまつわるテーマの際、託児所をつけてもらえると足を運びやすいです
私は学校が苦しかったです。ある一定の価値観で判断され、順位づけされる環境に 12 年以上の時間にさらされたこと。ものすごく劣等感が強くて、ひきこもりになってしまいました。早く、ギブアップして、学校での価値観に捉われるのをやめればよかったです。今は、のんびりと暮らしていますが、無意識までしみついた価値観はなかなか消えません。大きくなってからも、学校以外の学びは沢山あるし、できます。学校の価値観が子供の心の大半を占めるようなことのない、ゆるい学びの場ができるといいなと、思っています
差別が時代とともに少しずつ解消されていることは、間違い無いと思う。ただ、その一方で、差別が見えにくくなっているのも事実だと思う。その事が差別を無意識的に拡大、再生産しているのではないか。いじめ体罰、男女交際のように境界がはっきりしないものほど解決が難しいと思う
子供(特に中高生)は、社会の中でも地位が低い上、声を上げる機会も少ない為、特に人権において弱い立場にあるのにも関わらず大人も目を向けてくれないと感じる

7. ジェンダー

内容
男女差別、障害者差別、高齢者差別はこれから無くしていくべき。差別は無くすべきだと思うが、その人に合った環境をもっと整えていかないと差別は無くならないし、その人達が苦しみながら生活をしていかないといけなくなる。それを仕方がないで済ますのは人権侵害になると思う。家族に障害者がいて、介護の仕事をしていて、友達に LGBT が居て、父親は韓国人。女性が上に就くのはまだ 1~2 割と少ない職場。日々もっとこうなればいいのに。と自分が市議会議員になってみんなが過ごしやすい環境にしていきたいと思ったりすることもあります。もっともっとみんなが生きやすい尼崎の街にしてほしいです 【再掲】
問 6-7 女性という事で同じ勤務年数の男性よりも給料や昇給で低い評価を受ける事は問題だと思うし、それにより年金受給額にも影響されると思うので将来不安しかありません
子供の頃より両親より部落のことが在日韓国人の事などを聞いていました。近くに部落などはなく在日の方とはよく遊んでいたもので差別は感じたこともなし。逆に大人になっての行事 etc の男女差別の方があったと思います 【再掲】
差別はもちろんよくないことですが、男女平等は難しい問題だと思っています。”力”や”体”など、どうしても差はありますし、女性らしく生きることと尊重してほしいと思っています。男性の育休など、支え合うためのものは必要だとは思いますが、過剰に男女平等を目指してしまうと押しつけられる”平等”が生まれてしまうのではないかと不安になる時があります
このアンケートにより私は「女性」「子供」という自分(と娘)に当てはまる”人権”にしか興味がないとわかりました。講演会では、「子供」にまつわるテーマの際、託児所をつけてもらえると足を運びやすいです 【再掲】
差別が時代とともに少しずつ解消されていることは、間違い無いと思う。ただ、その一方で、差別が見えにくくなっているのも事実だと思う。その事が差別を無意識的に拡大、再生産しているのではないか。いじめ体罰、男女交際のように境界がはっきりしないものほど解決が難しいと思う 【再掲】

8. 高齢者

内容
男女差別、障害者差別、高齢者差別はこれから無くしていくべき。差別は無くすべきだと思うが、その人に合った環境をもっと整えていかないと差別は無くならないし、その人達が苦しみながら生活をしていかないといけなくなる。それを仕方がないで済ますのは人権侵害になると思う。家族に障害者がいて、介護の仕事をしていて、友達に LGBT が居て、父親は韓国人。女性が上に就くのはまだ 1~2 割と少ない職場。日々もっとこうなればいいのに。と自分が市議会議員になってみんなが過ごしやすい環境にしていきたいと思ったりすることもあります。もっともっとみんなが生きやすい尼崎の街にしてほしいです 【再掲】
仕事上、人権について毎日考える機会があります。子ども、高齢者、外国人など、声をあげることがむずかしい人への権利擁護はとても大切にされるべきだと思います。ヤングケアラーは、権利侵害と言い換えられると思います。権利擁護、アドボケイトがキーワードになればいいなと思っています 【再掲】

9. あらゆるハラスメントについて

内容
個々人が自分自身に誇りを持ち、毅然とした対応を行う必要があるように思います。この世の中から人権侵害、差別などがなくなることはないように思います。セクハラ、パワハラに関する事案が毎日のようにテレビなどで放送されています。言われても負けない心、いいかえすことのできる心、周囲の人も助けてあげる環境、こうした中で、差別などがなくなることを願っています
幼い子供はセクハラを仮に受けても、わからないことが多いです。学校などで早期から学んで知っておくこと、相談しやすい場をつくってあげてください

10. 犯罪被害者など

内容
犯罪被害者に対して国、県、市、はもっと考えるべき。犯罪被害者を守るべき

11. インターネットを悪用した人権侵害

内容
ここ数年で、SNS においての人権侵害、差別的発言、表現がかなり多くなっている。同事案による犯罪や、事件が起きた際は、もっと公の場で発信をしたり個々の目に付く場に発信し、抑止力にすべきである

13. アンケートについて

内容
このアンケートを通して人権について詳しくなりたいと思った(知らないが多すぎるので)
日本語が読めない方に対するこのアンケートの配慮が明記されていません。どうなっているのでしょうか?環境への配慮面においてプラスチックが問題になっています。クリアファイルは不要です
性別の選択肢の表記について、手間がかかるかも知れませんが「自由記載」にして欲しいです、人権がテーマのアンケートなので、せっかく個人が特定されないように工夫してくださっていて回答しやすいのに「あまさきコイン会員コード」記載があるのが残念です
問 20-1の1~4の用語と内容が一致しなかったが、このアンケートで用語を調べたので内容と一致したので良かった
知らないことが多かったので人権について学ぶ機会が必要だと感じた
このアンケートを書くにあたり人権について改めて向き合ってみたが、自分自身は日々の生活だけで人についてあまり考えたことがなかったんだと思った
人権や差別について、今まで目にしたり耳にしたりすることはありましたが、あまりにも用語や内容について深く知らなさ過ぎたことをこの機会に反省し、時間が許す限り学ぶ機会を持つようにしたいと思います
問 20、問 20-1 全然分からない言葉だらけでした。何となく分かっているつもりでしたが、分かっていなかった。もっと、広報誌などで分かりやすく説明してほしいです

14. 国、県、市の取組や広報について

内容
個人的に知らないが多すぎる。もっと市や県、国が発信したらいいと思う
私は大人になってから発達障害と診断されたが、病院以外相談できる場所がない。もっと相談ができる場所があれば、広報にも力を入れてほしい
知らないことも多いので、情報発信などの啓蒙活動が重要であり、行政の役割は大きいと考えます
意識して、イベントや講演会の開催などに関心を持っていなかった
社会福祉について、保護課は非常に大変だと思うが、相手によって対応のきびしさに差がありすぎる。保護費を安易に利用している、しているのを見逃している、必要な方には、おおいに利用してもらっていい
今回の調査を受けて、市がこのような取組みをされていると知りました。とても大切に意義のある事だと思います

<自由記述に関して>

尼崎市人権文化いきづくまちづくり審議会
(人権についての市民意識調査及び職員意識調査専門部会) 部長
関西大学名誉教授 石元 清英

自由記述欄に記入のあった 133 件は、今回の調査に関する感想や尼崎市の人権施策への批判、各人権課題に関して市民が普段、感じているさまざまなことからなど、その内容は非常に多岐にわたるものであった。このなかには、調査票への記入をとおして、自分が知らない人権問題が多くあることがわかり、学びになったという、調査が市民への啓発につながったことをうかがわせる記述や、市民の人権問題に対する関心や理解の高さが読み取れる記述などがみられた一方で、社会的少数者に関する誤解や偏見にもとづくような記述も多くみられた。以下、今後の人権啓発のあり方を考えるうえで参考になるとと思われる記述を取り上げることとする。

「差別や人権全般」については、「差別を解消しようと意識するほど、差別は大きく多様になる」という記述があった。「外国籍住民」に関して、「私たち 50 代の世代や私の子供世代は部落問題や在日の問題を気にすることはないのでは。いつまでも言っている方が差別が続くのでは」という記述があったが、これらの記述は、問 3 において「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しなくなる」という意見を肯定する回答が否定する回答よりも多かったように、差別問題に関して、いわゆる「寝た子を起こすな」という意識の根強さを示すものであるといえる。そして、「(自分自身は)特別差別することもなく、差別されることもない」という記述や、「人権と聞くと、左翼のイヤなイメージがあり、引いてしまう」という記述などもみられ、差別問題を自分とは直接かかわりのない他人事と考えたり、人権にマイナスイメージをもつ市民がいることがわかる。

人権啓発などを行うから差別がなくなると考える市民や、人権問題は自分とは関係がないと考える市民、そして人権にマイナスイメージをもっている市民には、これまでの人権啓発の声は届いていなかったのではないのか。私たちの社会におけるさまざまな人権問題については、差別の不当性を指摘する当事者たちの声と、それに共感する人たちとの共同の取り組みが人権問題の解決につながっていった事例を紹介するとともに、いまの社会で生起している人権問題は、その社会で生きる人たち全てに関わる問題であるということの気づきとなる啓発や、「深刻」「暗い」というイメージを払拭するような啓発を考えていく必要があるといえる。「寝た子を起こすな」「自分とは無関係」「マイナスイメージ」といった意識を変えていかない限り、人権啓発の効果はあがらない。重要なのは、これまで人権啓発の声が届かなかった市民に啓発の声をどう届けるのかということである。

「外国籍住民」については、「日本の常識を理解すべきだ」「ルールやマナーを守るべきだ」「優遇されすぎている」「権利を主張しすぎている」などの記述が目立った。問 3 において「人権には必ず義務がともなう」という意見を肯定する回答のほうが否定する回答よりもかなり多かったが、権利と義務との関係を誤解し、外国籍住民は義務を果たさないで、権利ばかりを主張していると考える市民が多いように思える。

このことは、「障がいのある人」についても同様で、障がいがある人が優遇されるあまり、障がいがある人以外の人たちに不利益をもたらしているという記述がいくつかみられた。障がいのある人にとって当然といえる合理的配慮を「行きすぎ」ととらえる見方である。なぜ外国籍住民や障がいのある人たちの人権が保障されなければならないのかを多くの市民に伝わるような啓発のあり方を考えていかなければならないであろう。

人権保障の取り組みが特定の人たちへの過度の優遇であり、それ以外の人々に不利益をもたらしているという主張は、これまで主として同和問題について指摘されてきたが、この「優遇論」が外国籍住民や障がいのある人たちにまで広がってきているのである。こうした主張は、社会的少数者とそれ以外の人たちの分断をもたらすも

のであり、両者の共生の妨げになる。したがって、この「優遇論」の誤りをわかりやすく説明できる啓発が必要である。

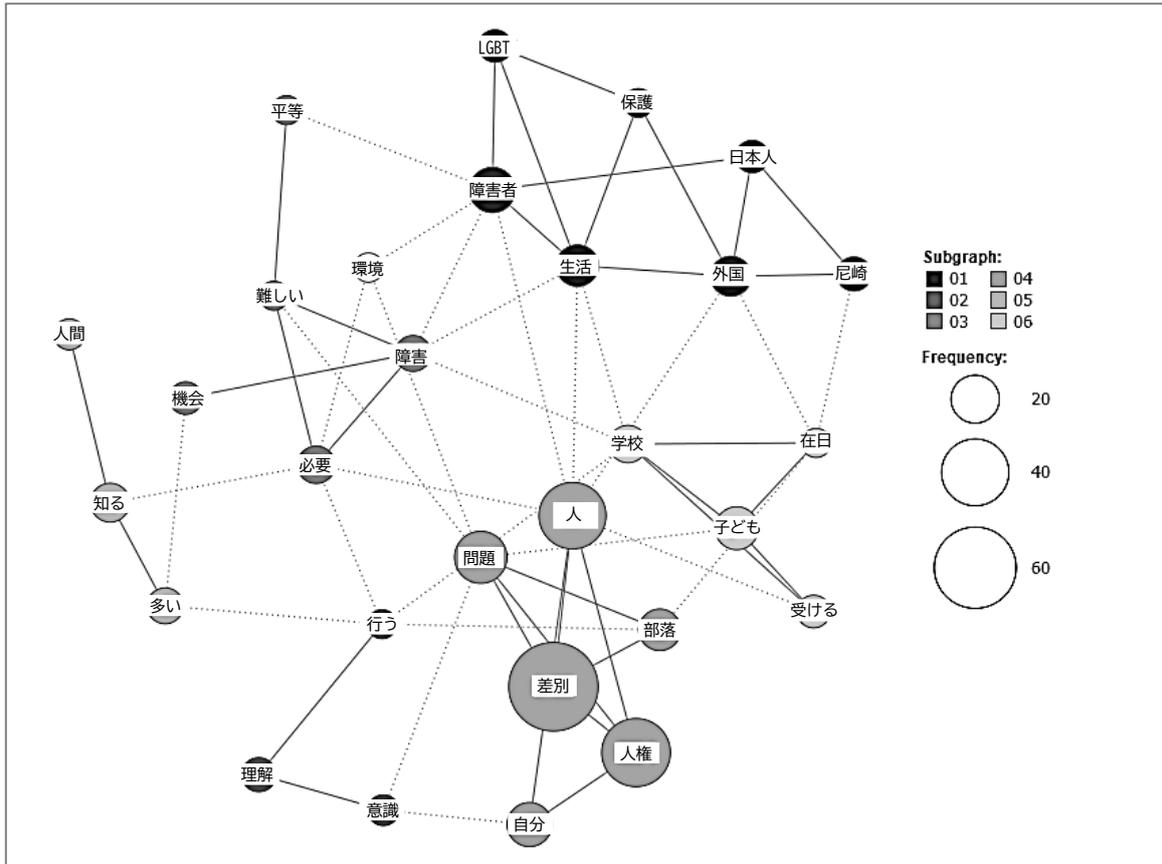
「同和問題」に関しては、「治安が悪い」という記述がみられた。職場や地域社会などで身近な人たちと同和問題について話し合ったり、議論することがなく、テレビや新聞などのマスメディアで同和問題が取り上げられることも非常に稀である。そのため、いったん持ってしまった同和問題に関する誤解は、身近な人からその誤りを指摘されることもなく、マスメディアの情報に接してその間違いに気づくこともない。その結果、その誤解を持ち続けることになる。同和問題に関する誤解については、その間違いを具体的に指摘する啓発が必要であるといえる。

性的マイノリティについては、性的マイノリティに関する人権擁護の諸施策が性的マイノリティの利権につながっているという記述がいくつかみられた。近年、インターネット上でこうした内容の書き込みがよくみられるようになってきたが、これらはいずれも客観的な裏付けがあるものではない。問 13 で「新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見を肯定する回答が 9.4% (10 歳代で 17.8%、20 歳代で 21.2%) あった。肯定回答はまだ多くないとはいえ、市民のメディアリテラシーを高める教育・啓発が重要であるといえよう。

<問 21 自由意見のテキストマイニング分析>

◇テキストマイニングとは

通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法です。分析には、日本語テキスト型データの分析に適したシステムとして作成されている「KH Coder」を使用して分析しています。「共起ネットワーク」の図は、出現パターンの似通った語(すなわち共起の程度が強い語)を線で結んだネットワークを描いたものです。強い共起関係ほど太い線で、出現数の多い語ほど大きい円で描画されています。



問 21 では、人権や差別に関する意見が多くなっています。特に、差別や人権と繋がりが強い要素としては「部落」や「人」、「問題」、「自分」などが見受けられます。具体的な意見としては、「子供の頃より両親より部落のことに在日韓国人のことも聞いていました。近くに部落などはなく在日の方とはよく遊んでいたのだから差別は感じたこともなし」や「部落地域に住みたくないと思えるのは、差別の意識からではなく、治安の問題から」、「人権や差別はあってはならない。部落の住居など同じ場所にせず分散して支援を行うべきである」などの意見があげられます。

また、障害者や外国、日本人、LGBT などの単語の繋がりも見受けられ、「家族に障害者がいて、介護の仕事をしていて、友達に LGBT が居て、父親は韓国人(中略)自分が市議会議員になってみんなが過ごしやすい環境にしていきたいと思ったりすることもあります。もっともっとみんなが生きやすい尼崎の街にしたいです」や「外国籍の人や、障害者など、それぞれ私たちと同じで、ひとりひとりの人間性だと思う」などの意見があります。

Ⅲ 多変量解析結果

尼崎市人権文化いきづくまちづくり審議会
 (人権についての市民意識調査及び職員意識調査専門部会) 委員
 関西大学社会学部社会学専攻教授 内田 龍史

本調査においては、問3で人権についての意識、問6で性別役割や男らしさ・女らしさ、問7で子どもの人権、問8で高齢者や障がいのある人の人権、問9で性的マイノリティの人権、問10で外国籍住民の人権について、いずれも「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」「3 どちらともいえない」「4 どちらかといえばそう思わない」「5 そう思わない」の5件法でさまざまな意識や考え方を把握しようとした。以下では、これら多数の意識や考え方を総合・要約して把握するための統計的分析手法である主成分分析を行った結果と、そこから見出された変数間の関係、属性との関連について分析を行う。

(1)人権全般について(問3)

人権全般については、2つの「主成分」に要約できた。表1はその結果を示している。

表1 人権全般についての主成分分析結果(N=807)

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	0.686	-0.030
2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである	0.163	0.510
3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある	0.603	0.140
4. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ	-0.306	0.663
5. 自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている	0.262	0.536
6. 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	0.202	0.482
7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ	0.652	0.351
8. 個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ	0.580	0.240
9. 人権には必ず義務がともなう	0.474	0.403
10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	0.722	0.075
固有値	3.017	1.146
寄与率(%)	30.2	11.5
累積寄与率(%)	30.2	41.6

※得点はバリマックス回転後のものである。

第1主成分は、「10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」(0.722)、「1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」(0.686)、「7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」(0.652)、「3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」(0.603)、「8. 個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ」(0.580)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「差別反対・人権尊重」スコアと名付ける。

第2主成分は、「4. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ」(0.663)、「5. 自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている」(0.536)、「2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである」(0.510)、「6. 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」(0.482)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「法・人権への無関心」スコアと名付ける。

これらの結果から人権については、「差別反対・人権尊重」と「法・人権への無関心」で説明できることが明らかとなった。

(2)性別役割や男らしさ・女らしさについて(問6)

性別役割や男らしさ・女らしさについては、2つの「主成分」に要約できた。表2はその結果を示している。

表2 性別役割や男らしさ・女らしさについての主成分分析結果(N=822)

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
1. 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ	-0.060	0.562
2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい	0.620	-0.120
3. 妊娠・出産などを理由に、女性が退職を迫られることがあっても仕方がない	0.551	-0.273
4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ	-0.033	0.820
5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも問題があるケースが多い	0.564	-0.088
6. 国会議員に占める女性の割合が低いことは問題だ	-0.079	0.794
7. 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けることは問題だ	-0.209	0.600
8. 男性は家族を養って一人前だ	0.756	0.020
9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい	0.754	0.027
10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない	0.689	-0.198
固有値	3.078	1.709
寄与率(%)	30.8	17.1
累積寄与率(%)	30.8	47.9

※得点はバリマックス回転後のものである。

第1主成分は、「8. 男性は家族を養って一人前だ」(0.756)、「9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい」(0.754)、「10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない」(0.689)、「2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい」(0.620)、「5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも問題があるケースが多い」(0.564)、「3. 妊娠・出産などを理由に、女性が退職を迫られることがあっても仕方がない」(0.551)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、第1主成分を「性別役割否定」スコアと名付ける。

第2主成分は、「4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ」(0.820)、「6. 国会議員に占める女性の割合が低いことは問題だ」(0.794)、「7. 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けることは問題だ」(0.600)、「1. 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ」(0.562)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「ジェンダー平等否定」スコアと名付ける。

これらの結果から性別役割や男らしさ・女らしさについては、「性別役割否定」と「ジェンダー平等否定」で説

明できることが明らかとなった。

(3)子どもの人権について(問7)

子どもの人権については、2つの「主成分」に要約できた。表3はその結果を示している。

表3 子どもの人権についての主成分分析(N=833)

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
1. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることは仕方がない	0.880	0.108
2. 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ	0.876	0.127
3. 学校のルールなどを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない	-0.174	-0.372
4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない	0.161	0.677
5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある	0.472	0.488
6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	0.235	0.658
7. 家族の世話のために、子どもが学校を休んだり、部活動に行けなかったりすることは問題だ	0.176	-0.608
8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる	0.373	0.460
9. 子どもは成長途上なので、人権が制限される	0.375	0.493
固有値	3.167	1.138
寄与率(%)	35.2	12.6
累積寄与率(%)	35.2	47.8

※得点はバリマックス回転後のものである。

第1主成分は、「1. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることは仕方がない」(0.880)、「2. 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ」(0.876)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、この得点を「体罰否定」スコアと名付ける。

第2主成分は、「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」(0.677)、「6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」(0.658)、「7. 家族の世話のために、子どもが学校を休んだり、部活動に行けなかったりすることは問題だ」(-0.608)で主成分負荷量が大きく、この得点が正の方向に高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「子どもの権利擁護」スコアと名付ける。

これらの結果から子どもの人権については、「体罰否定」と「子どもの権利擁護」で説明できることが明らかとなった。

(4)高年齢者や障がいのある人の人権について(問8)

高年齢者や障がいのある人の人権については、2つの「主成分」に要約できた。表4はその結果を示している。

表4 高年齢者や障がいのある人の人権についての主成分分析結果(N=838)

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高年齢者を断ることは仕方がない	0.803	0.054
2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない	0.830	0.177
3. 高年齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない	0.804	0.085
4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない	0.798	0.255
5. 障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる	0.375	0.509
6. 店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない	0.558	0.259
7. 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ	0.127	-0.649
8. 介護や介助を受ける高年齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない	0.223	0.662
9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい	0.350	0.526
固有値	3.757	1.068
寄与率(%)	41.8	11.9
累積寄与率(%)	41.8	53.6

※得点はバリマックス回転後のものである。

第1主成分は、「2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない」(0.830)、「3. 高年齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」(0.804)、「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高年齢者を断ることは仕方がない」(0.803)、「4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」(0.798)、「6. 店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない」(0.558)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、この得点を「高年齢者・障がい者権利擁護」スコアと名付ける。

第2主成分は、「8. 介護や介助を受ける高年齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない」(0.662)、「7. 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ」(-0.649)、「9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい」(0.526)、「5. 障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」(0.509)で主成分負荷量が大きく、この得点が高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、この得点を「高年齢者・障がい者差別反対」スコアと名付ける。

これらの結果から高年齢者や障がいのある人の人権については、「高年齢者・障がい者権利擁護」と「高年齢者・障がい者差別反対」で説明できることが明らかとなった。

(5)性的マイノリティの人権について(問9)

性的マイノリティの人権については、1つの「主成分」に要約できた。表5はその結果を示している。主成分負荷量が正の方向に高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、この得点を「性的マイノリティとの共生」スコアと名付ける。

表5 性的マイノリティの人権についての主成分分析結果(N=835)

主成分負荷量	第1主成分
1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない	0.816
2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ	-0.739
3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない	0.727
4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	0.801
5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしている性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である	-0.308
6. 日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	0.601
固有値	2.838
寄与率(%)	47.3

(6)外国籍住民の人権について(問10)

外国籍住民の人権については、2つの「主成分」に要約できた。表6はその結果を示している。

表6 外国籍住民の人権についての主成分分析結果(N=817)

主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ	0.153	0.762
2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ	0.598	-0.150
3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	-0.489	0.601
4. 景気の悪化が理由とはいえ、外国人労働者から解雇することは問題だ	0.581	-0.145
5. 外国人は考えなどが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい	-0.355	0.697
6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ	0.673	-0.277
7. 住民投票への参加や地方参政権が外国人に認められないことは問題だ	0.766	-0.042
8. 本名(民族名)では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないことは問題だ	0.583	-0.019
9. 外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ	0.754	-0.100
固有値	3.460	1.130
寄与率(%)	38.4	12.6
累積寄与率(%)	38.4	51.0

※得点はバリマックス回転後のものである。

第1主成分は、「7. 住民投票への参加や地方参政権が外国人に認められないことは問題だ」(0.766)、「9. 外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ」(0.754)、「6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ」(0.673)、「2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ」(0.598)、「8. 本名(民族名)では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないことは問題だ」(0.583)、「4. 景気の悪化が理由とはいえ、外国人労働者から解雇することは問題だ」(0.581)で主成分負荷量が大きく、この得点が正の方向に高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「外国人の人権制限」スコアと名付ける。

第2主成分は、「1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」(0.762)、「5. 外国人は考え方が日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい」(0.697)、「3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」(0.601)で主成分負荷量が大きく、この得点が正の方向に高いほどこれらの意見を否定する傾向があることから、「外国人への差別規制・共生」スコアと名付ける。

(7)変数間の関係

表7は、これまでに見出してきた変数スコア間の相関係数を示している。

「Q3 差別反対・人権尊重」に関してはいずれの変数とも有意な相関が見られ、これらの意識の高さがそれぞれの人権課題の克服に向けての肯定的な意識と関連があることが確認できる。

注目されるべきはとくに相関係数が高い「Q6 性別役割否定」であろう。一般的な「Q3 差別反対・人権尊重」とも0.423と高くなっているほか、「Q9 性的マイノリティとの共生」(0.582)、「Q7 子どもの権利擁護」(0.450)、「Q10 外国人への差別規制・共生」(0.363)などとの相関係数が高くなっており、性別役割にとらわれない意識は、とくに子どもの人権・性的マイノリティの人権の実現や、外国人との共生に向けた意識向上の鍵になるのではないかと考えられる。

表7 変数間の相関係数

	Q6 性別 役割否 定	Q6 ジェ ンダー 平等否 定	Q7 体罰 否定	Q7 子ど もの権 利擁護	Q8 高齢 者・障 がい者 権利擁 護	Q8 高齢 者・障 がい者 差別反 対	Q9 性的 マイノ リティ との共 生	Q10 外 国人の 人権制 限	Q10 外 国人へ の差別 規制・ 共生
Q3 差別反対・人権尊重	.423**	-.165**	.393**	.324**	.271**	.303**	.389**	-.196**	.390**
Q3 法・権利への無関心	.114**	.202**	0.033	-0.036	0.001	-0.011	.079*	0.064	-0.025
Q6 性別役割否定			.330**	.450**	.169**	.272**	.582**	-0.046	.363**
Q6 ジェンダー平等否定			-.165**	-.184**	-.159**	-.139**	-.141**	.332**	-.172**
Q7 体罰否定					.199**	.142**	.260**	-.101**	.253**
Q7 子どもの権利擁護					.298**	.305**	.394**	-.125**	.322**
Q8 高齢者・障がい者権利擁護							.101**	-.257**	.178**
Q8 高齢者・障がい者差別反対							.347**	-.233**	.306**
Q9 性的マイノリティとの共生								-.184**	.300**

**、相関係数は 1% 水準で有意、*、相関係数は 5% 水準で有意

(8)属性との関係

主成分分析によって算出された各スコアについて、性別・年齢階層別にその平均値を算出し、統計的に有意差が見られたものを図1、図2に示した。

図1は、性別に各スコアの平均値を示したものである。性別には「Q3 差別反対・人権尊重」、「Q3 法・権利への無関心」、「Q6 性別役割否定」、「Q6 ジェンダー平等否定」、「Q7 体罰否定」、「Q7 子どもの権利擁護」、「Q9 性的マイノリティとの共生」、「Q10 外国人の人権制限」とのあいだに有意差が見られた。これらの得点が高いほどこうした意識を強く持っているということである。

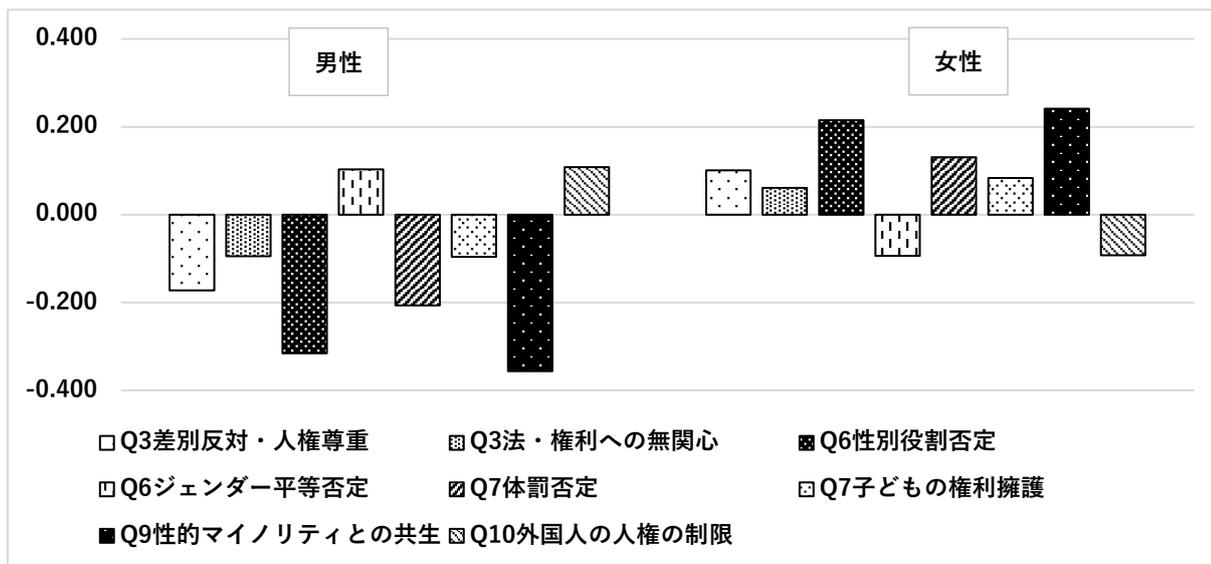


図1 性別各スコア平均値

男性よりも女性の方が意識を強く持っているものは、「Q3 差別反対・人権尊重」、「Q3 法・権利への無関心」、「Q6 性別役割否定」、「Q7 体罰否定」、「Q7 子どもの権利擁護」、「Q9 性的マイノリティとの共生」である。

女性よりも男性の方が意識を強く持っているものは、「Q6 ジェンダー平等否定」と「Q10 外国人の人権の制限」である。

以上の傾向から、性別に関しては、差別・人権問題に関する意識向上の働きかけは男性により強く求められると言えよう。

続いて図2は、年齢階層別に各スコアの平均値を示したものである。年齢階層別には「Q3 差別反対・人権尊重」、「Q6 性別役割否定」、「Q7 体罰否定」、「Q7 子どもの権利擁護」、「Q8 高齢者・障がい者権利擁護」、「Q9 性的マイノリティとの共生」とのあいだに有意差が見られた。これらの得点が高いほどこうした意識を強く持っているということである。

全般的な「Q3 差別反対・人権尊重」は、70 歳代でやや弱く、80 歳以上で顕著にその意識が弱い。

「Q6 性別役割否定」は、10 歳代を除けば、若年になるほどその意識が強く、高齢になるほど低い。

「Q7 体罰否定」は、20 歳代以下の若年層でその意識が強く、50 歳代で弱い。

「Q7 子どもの権利擁護」は、50 歳代・60 歳代でややその意識が強く、10 歳代と 80 歳以上でその意識が顕著に弱い。

「Q8 高齢者・障がい者権利擁護」は、40 歳代以下でその意識が弱く、60 歳代以上でその意識が強い。

「Q9 性的マイノリティとの共生」は、概ね若年になるほどその意識が強く、高齢になる程弱い。

以上の傾向から、年齢階層に関しては、全般的な差別反対や人権尊重、性別役割否定、性的マイノリティとの共生に関しては高齢層に、高齢者・障がい者権利擁護に関しては 40 歳代以下の層に、体罰に関しては 50 歳代に、子どもの権利擁護に関しては 10 歳代と 80 歳以上で課題が見られることが明らかになった。これら課題のある層への重点的な働きかけが必要であろう。

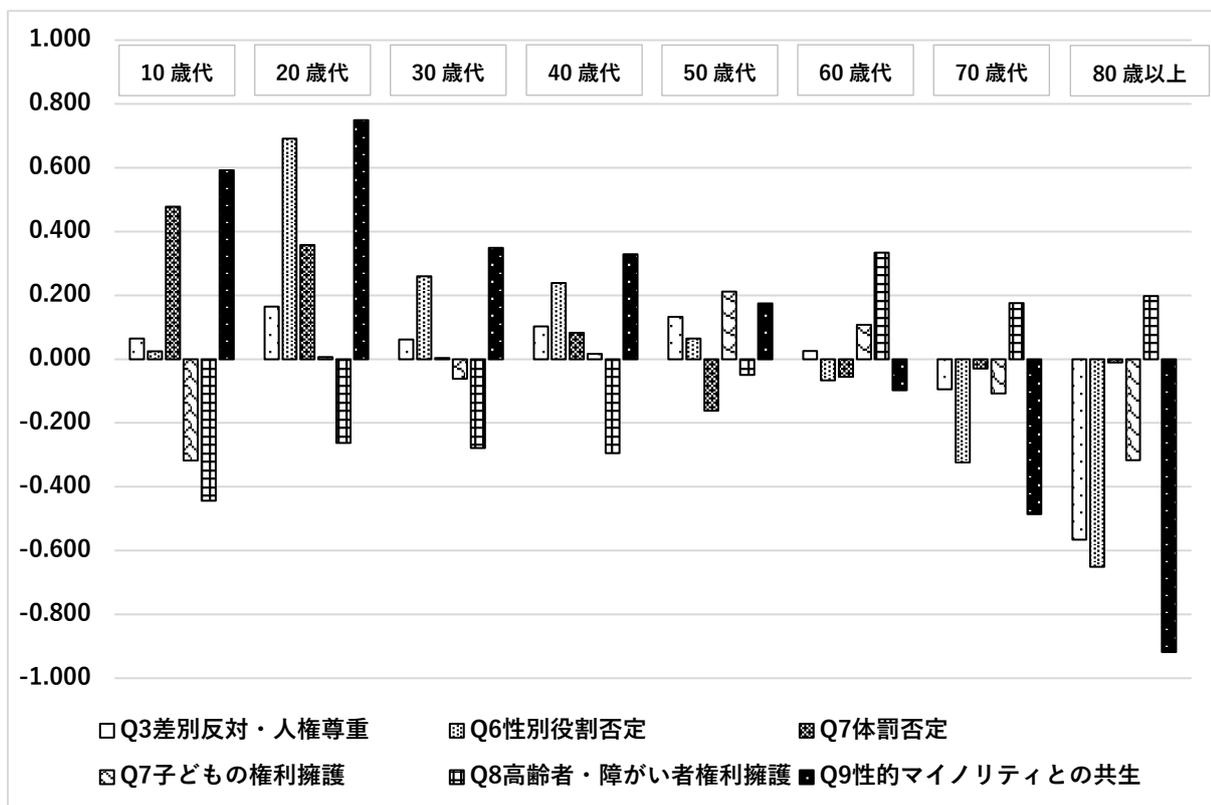


図2 年齢階層別各スコア平均値

IV スコア分析結果

(1)人権に関する法律・条例などの認知度スコアの算出方法

問 20 において、「1. 世界人権宣言」「2. 人権教育・啓発推進法」「3. ハンセン病問題基本法」「4. 障害者差別解消法」「5. ヘイトスピーチ解消法」「6. 部落差別解消推進法」「7. アイヌ施策推進法」「8. LGBT理解増進法」「9. 情報流通プラットフォーム対処法(旧プロバイダ責任制限法)」「10. 尼崎市男女共同参画社会づくり条例」「11. 尼崎市人権文化いきづくまちづくり条例」「12. 戸籍・住民票などの『本人通知制度』」「13. 尼崎市パートナーシップ宣誓制度」の 13 項目を設定し、人権に関する法律・条例などの認知度を聴取している。

これら 13 項目について、「内容も含め知っている」に3点、「名前は聞いたことがある」に2点、「知らない」に1点を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出した。13 項目すべて無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大 39 点から最小1点のスコアを得ることになる。このスコアを「人権に関する法律・条例などの認知度スコア」と規定した。

全回答者が得たスコア別の回答者数は表1に示す通りであるが、クロス集計を行うため、14 点以下を「L」、15 点以上 21 点以下を「M」、22 点以上を「H」と3グループに分けた。回答者の分布を示すと、「L」が 20.3%、「M」が 50.1%、「H」が 27.8%となっている。

表1 人権に関する法律・条例などの認知度スコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
2点	3	0.4%	161 20.3%	L
3点	1	0.1%		
4点	4	0.5%		
6点	5	0.6%		
7点	1	0.1%		
8点	2	0.3%		
9点	1	0.1%		
10点	1	0.1%		
12点	3	0.4%		
13点	86	10.8%		
14点	54	6.8%		
15点	56	7.1%		
16点	55	6.9%		
17点	56	7.1%		
18点	54	6.8%		
19点	59	7.4%		
20点	64	8.1%		
21点	54	6.8%		
22点	50	6.3%		
23点	26	3.3%		
24点	27	3.4%		
25点	23	2.9%		
26点	33	4.2%	221 27.8%	H
27点	18	2.3%		
28点	10	1.3%		
29点	8	1.0%		
30点	6	0.8%		
31点	6	0.8%		
32点	3	0.4%		
33点	8	1.0%		
36点	1	0.1%		
39点	2	0.3%		
無回答	14	1.8%	—	—
合計	794	100.0%		

(2)人権についての意識

「人権」ということをどの程度身近に感じるか〔問1〕について聴取した結果を、人権に関する法律・条例などの認知度スコア「L」「M」「H」の3グループ別にみたものが表2である。

「L」「M」グループでは、「非常に身近に感じている」が7.5%と1割に満たないのに対し、「H」グループでは18.6%と10ポイント以上の差がある。また、『身近に感じている』（「非常に身近に感じている」+「どちらかといえば身近に感じている」）は、「L」グループが31.1%、「M」グループが42.4%、「H」グループが59.3%となっており、人権に関する法律・条例などの認知度が高くなるにつれ人権を身近に感じている傾向にある。

表2 スコア別人権についての意識(問1)

		サンプル数	非常に身近に感じている	どちらかといえば身近に感じている	どちらともいえない	どちらかといえば身近に感じている	まったく身近に感じていない	無回答	
全体	実数	794	85	272	244	136	38	19	
	比率	100.0	10.7	34.3	30.7	17.1	4.8	2.4	
問20 人権に関する法律・条例などの認知度スコア	L	実数	161	12	38	62	30	12	7
		比率	100.0	7.5	23.6	38.5	18.6	7.5	4.3
	M	実数	398	30	139	122	78	22	7
		比率	100.0	7.5	34.9	30.7	19.6	5.5	1.8
	H	実数	221	41	90	57	26	3	4
		比率	100.0	18.6	40.7	25.8	11.8	1.4	1.8
	無回答	実数	14	2	5	3	2	1	1
		比率	100.0	14.3	35.7	21.4	14.3	7.1	7.1

(3)関心を持っている人権問題

関心を持っている人権問題〔問2〕について複数回答形式で聴取した結果を、人権に関する法律・条例などの認知度スコア「L」「M」「H」の3グループ別にみたものが表3である。

いずれのグループも上位5項目は変わらないが、最も高い項目は「L」グループで「高齢者に関する問題」が51.6%、「M」グループで「インターネットによる人権侵害の問題」が57.5%、「H」グループで「障がいのある人に関する問題」が64.3%となっている。また、「H」グループでは「インターネットによる人権侵害の問題」「女性に関する問題」も6割を占め、「L」「M」グループより高くなっている。

表3 関心を持っている人権問題(問2)

		サンプル数	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	外国籍住民に関する問題	部落差別(同和問題)	アイヌの人々に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	犯罪被害者に関する問題	HIV感染者・新型コロナウイルス感染症などに関する問題	ハンセン病患者・回復者やその家族に関する問題	インターネットによる人権侵害の問題	ホームレスに関する問題	性的マイノリティ(少数者)に関する問題	災害に伴う人権侵害の問題	その他	とくに関心をもっているものはない	無回答	
全体	実数	794	432	389	375	442	220	166	65	116	200	112	75	442	74	175	197	14	39	13	
	比率	100.0	54.4	49.0	47.2	55.7	27.7	20.9	8.2	14.6	25.2	14.1	9.4	55.7	9.3	22.0	24.8	1.8	4.9	1.6	
問20 人権に関する法律・条例などの認知度スコア	L	実数	161	72	71	83	71	34	32	11	24	37	23	15	66	12	22	35	3	15	5
		比率	100.0	44.7	44.1	51.6	44.1	21.1	19.9	6.8	14.9	23.0	14.3	9.3	41.0	7.5	13.7	21.7	1.9	9.3	3.1
	M	実数	398	222	199	179	224	100	69	22	47	92	44	28	229	29	87	98	6	19	4
		比率	100.0	55.8	50.0	45.0	56.3	25.1	17.3	5.5	11.8	23.1	11.1	7.0	57.5	7.3	21.9	24.6	1.5	4.8	1.0
	H	実数	221	133	115	107	142	84	64	31	43	68	42	30	141	31	65	62	5	3	2
		比率	100.0	60.2	52.0	48.4	64.3	38.0	29.0	14.0	19.5	30.8	19.0	13.6	63.8	14.0	29.4	28.1	2.3	1.4	0.9
	無回答	実数	14	5	4	6	5	2	1	1	2	3	3	2	6	2	1	2	-	2	2
		比率	100.0	35.7	28.6	42.9	35.7	14.3	7.1	7.1	14.3	21.4	21.4	14.3	42.9	14.3	7.1	14.3	-	14.3	14.3

(4)住宅選択における忌避意識

家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、「同和地区」や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか〔問 17〕について聴取した結果を、人権に関する法律・条例などの認知度スコア「L」「M」「H」の3グループ別にみたものが表4である。

「いずれにあってもこだわらない」は、「H」グループで 43.9%と「L」「M」グループより5ポイント以上高くなっている。

表4 スコア別住宅選択における忌避意識(問17)

		サンプル数	同和地区内 や、同和地 区を含む小 小学校区内 にある物件 は避けると思 う	同和地区内 にある物件 は避ける が、同和地 区を含む小 小学校区内の 物件は避け ないと思う	いずれに あってもこ だわらない	その他	無回答
全体		実数 794 比率 100.0	245 30.9	155 19.5	313 39.4	34 4.3	47 5.9
問20 人権に関する 法律・条例などの 認知度スコア	L	実数 161 比率 100.0	49 30.4	33 20.5	61 37.9	6 3.7	12 7.5
	M	実数 398 比率 100.0	122 30.7	83 20.9	149 37.4	22 5.5	22 5.5
	H	実数 221 比率 100.0	71 32.1	39 17.6	97 43.9	6 2.7	8 3.6
	無回答	実数 14 比率 100.0	3 21.4	- -	6 42.9	- -	5 35.7

(5)人権に関する学習経験

人権に関する学習経験〔問 18〕について聴取した結果を、人権に関する法律・条例などの認知度スコア「L」「M」「H」の3グループ別にみたものが表5である。

いずれの人権に関する問題も「これまでに学んだ経験はない」は、「H」グループが「L」「M」グループより10ポイント以上低くなっており、人権に関する法律・条例などの認知度が高くなるにつれ人権に関する学習経験があることがうかがえる。

表5 人権に関する学習経験(問18)

		サンプル数	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はっきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない	無回答	
全体	実数	794	390	140	53	24	63	120	125	34	
	比率	100.0	49.1	17.6	6.7	3.0	7.9	15.1	15.7	4.3	
問20 人権に関する 法律・条例などの 認知度スコア	問18-1 部落差別(同和問題)										
	L	実数	161	65	20	9	-	5	29	39	8
		比率	100.0	40.4	12.4	5.6	-	3.1	18.0	24.2	5.0
	M	実数	398	196	62	18	8	27	59	70	17
		比率	100.0	49.2	15.6	4.5	2.0	6.8	14.8	17.6	4.3
	H	実数	221	127	57	25	16	29	30	15	4
		比率	100.0	57.5	25.8	11.3	7.2	13.1	13.6	6.8	1.8
	無回答	実数	14	2	1	1	-	2	2	1	5
		比率	100.0	14.3	7.1	7.1	-	14.3	14.3	7.1	35.7
	問18-2 外国籍住民に関する問題										
	L	実数	161	47	6	4	1	2	27	66	14
		比率	100.0	29.2	3.7	2.5	0.6	1.2	16.8	41.0	8.7
	M	実数	398	136	24	12	8	11	69	145	21
		比率	100.0	34.2	6.0	3.0	2.0	2.8	17.3	36.4	5.3
	H	実数	221	91	35	17	8	21	30	48	4
		比率	100.0	41.2	15.8	7.7	3.6	9.5	13.6	21.7	1.8
	無回答	実数	14	-	-	-	-	-	2	8	4
		比率	100.0	-	-	-	-	-	14.3	57.1	28.6
	問18-3 性的マイノリティ(少数者)に関する問題										
	L	実数	161	44	3	3	1	3	16	82	13
		比率	100.0	27.3	1.9	1.9	0.6	1.9	9.9	50.9	8.1
	M	実数	398	125	16	4	4	11	49	183	19
		比率	100.0	31.4	4.0	1.0	1.0	2.8	12.3	46.0	4.8
	H	実数	221	82	17	13	6	18	33	68	5
		比率	100.0	37.1	7.7	5.9	2.7	8.1	14.9	30.8	2.3
	無回答	実数	14	-	-	-	-	-	2	7	5
		比率	100.0	-	-	-	-	-	14.3	50.0	35.7
	問18-4 障がいのある人に関する問題										
L	実数	161	52	10	4	2	3	22	67	13	
	比率	100.0	32.3	6.2	2.5	1.2	1.9	13.7	41.6	8.1	
M	実数	398	152	42	21	9	22	77	109	19	
	比率	100.0	38.2	10.6	5.3	2.3	5.5	19.3	27.4	4.8	
H	実数	221	109	53	27	15	29	26	36	4	
	比率	100.0	49.3	24.0	12.2	6.8	13.1	11.8	16.3	1.8	
無回答	実数	14	1	1	-	-	-	2	5	5	
	比率	100.0	7.1	7.1	-	-	-	14.3	35.7	35.7	

(6)回答者の属性別人権に関する法律・条例などの認知度スコア

表6は、回答者の属性別に人権に関する法律・条例などの認知度スコアの分布状況をまとめたものである。

全体では、「L」グループが 20.3%、「M」グループが 50.1%、「H」グループが 27.8%となっている。

性別×年齢別にみると、男性の 30 歳代以下と女性の 20 歳代で「H」グループの割合が4割を超え、全体より 10 ポイント以上高くなっている。

表6 回答者の属性別人権に関する法律・条例などの認知度スコア

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均
全体			実数 794	161	398	221	14	18.64
			比率 100.0	20.3	50.1	27.8	1.8	
性別 ×年齢別	男性	10歳代	実数 4	1	1	2	-	19.75
		比率 100.0	25.0	25.0	50.0	-		
		20歳代	実数 17	2	8	7	-	19.65
		比率 100.0	11.8	47.1	41.2	-		
		30歳代	実数 29	2	13	14	-	21.07
		比率 100.0	6.9	44.8	48.3	-		
		40歳代	実数 33	8	15	10	-	19.15
		比率 100.0	24.2	45.5	30.3	-		
	女性	50歳代	実数 53	8	27	17	1	19.09
		比率 100.0	15.1	50.9	32.1	1.9		
		60歳代	実数 52	12	30	10	-	18.29
		比率 100.0	23.1	57.7	19.2	-		
		70歳代	実数 75	16	39	18	2	18.16
		比率 100.0	21.3	52.0	24.0	2.7		
		80歳以上	実数 40	9	23	8	-	18.43
		比率 100.0	22.5	57.5	20.0	-		
	無回答	10歳代	実数 10	-	7	3	-	19.40
		比率 100.0	-	70.0	30.0	-		
		20歳代	実数 38	-	22	16	-	21.50
		比率 100.0	-	57.9	42.1	-		
		30歳代	実数 55	14	30	11	-	18.09
		比率 100.0	25.5	54.5	20.0	-		
		40歳代	実数 76	20	37	19	-	18.70
		比率 100.0	26.3	48.7	25.0	-		
	無回答	50歳代	実数 88	17	42	29	-	19.45
		比率 100.0	19.3	47.7	33.0	-		
		60歳代	実数 81	12	41	28	-	19.75
		比率 100.0	14.8	50.6	34.6	-		
70歳代		実数 91	30	43	14	4	16.19	
比率 100.0		33.0	47.3	15.4	4.4			
無回答	80歳以上	実数 30	6	13	8	3	16.83	
	比率 100.0	20.0	43.3	26.7	10.0			
	無回答	実数 22	4	7	7	4	16.73	
	比率 100.0	18.2	31.8	31.8	18.2			
	性別	男性	実数 304	58	156	86	4	18.81
		比率 100.0	19.1	51.3	28.3	1.3		
女性		実数 469	99	235	128	7	18.59	
比率 100.0		21.1	50.1	27.3	1.5			
その他		実数 1	-	1	-	-	18.00	
比率 100.0		-	100.0	-	-			
回答しない	無回答	実数 16	3	6	6	1	19.56	
	比率 100.0	18.8	37.5	37.5	6.3			
	無回答	実数 4	1	-	1	2	9.25	
	比率 100.0	25.0	-	25.0	50.0			
	年齢別	10歳代	実数 14	1	8	5	-	19.50
		比率 100.0	7.1	57.1	35.7	-		
20歳代		実数 58	2	32	24	-	20.81	
比率 100.0		3.4	55.2	41.4	-			
30歳代		実数 85	17	43	25	-	19.05	
比率 100.0		20.0	50.6	29.4	-			
40歳代		実数 113	29	53	31	-	19.02	
比率 100.0		25.7	46.9	27.4	-			
50歳代		実数 144	26	70	47	1	19.28	
比率 100.0		18.1	48.6	32.6	0.7			
60歳代		実数 134	24	71	39	-	19.21	
比率 100.0		17.9	53.0	29.1	-			
70歳代	実数 168	47	83	32	6	17.07		
比率 100.0	28.0	49.4	19.0	3.6				
80歳以上	実数 74	15	38	17	4	17.76		
比率 100.0	20.3	51.4	23.0	5.4				
無回答	実数 4	-	-	1	3	6.00		
比率 100.0	-	-	25.0	75.0				

部落(同和地区)出身者が身の周りにいるかについて、「自分自身がそうである」「親しくしている人にいる」と回答した人で「H」グループが6割と高い。また、「自分の周りにはいない」「わからない」と回答した人では「M」グループが過半数を占めている。

外国籍住民が身の周りにいるかについて、「親しくしている人にいる」と回答した人で「H」グループが50.8%と最も高くなっている。一方、「親しくしている人にいる」と回答した人以外では「M」グループが最も高い。

性的マイノリティが身の周りにいるかについて、「家族・親戚にいる」「親しくしている人にいる」「知っている人にいる」と回答した人で「H」グループが4割を占めている。

障がいのある人が身の周りにいるかについて、「親しくしている人にいる」と回答した人で「H」グループが53.1%と最も高くなっている。一方、「わからない」と回答した人で「L」グループが33.9%と全体より10ポイント以上高くなっている。

人権問題啓発との接触度別にみると、接触度が高い人ほど人権に関する法律・条例などの認知度スコアが高いグループに属している。

表6 回答者の属性別人権に関する法律・条例などの認知度スコア②

		サンプル数	L	M	H	無回答	平均
身の周りの部落(同和地区)出身者の状況	自分自身がそうである	実数 9 比率 100.0	1 11.1	2 22.2	6 66.7	-	24.44
	家族・親戚にいる	実数 8 比率 100.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	19.71
	親しくしている人にいる	実数 30 比率 100.0	3 10.0	8 26.7	18 60.0	1 3.3	22.38
	知っている人にいる	実数 79 比率 100.0	12 15.2	26 32.9	38 48.1	3 3.8	21.55
	自分の周りにはいない	実数 249 比率 100.0	50 20.1	140 56.2	58 23.3	1 0.4	18.84
	わからない	実数 378 比率 100.0	85 22.5	199 52.6	90 23.8	4 1.1	18.25
	無回答	実数 41 比率 100.0	8 19.5	21 51.2	8 19.5	4 9.8	17.86
	身の周りの外国籍住民の状況	自分自身がそうである	実数 8 比率 100.0	1 12.5	6 75.0	1 12.5	-
家族・親戚にいる	実数 17 比率 100.0	4 23.5	11 64.7	2 11.8	-	17.35	
親しくしている人にいる	実数 65 比率 100.0	9 13.8	22 33.8	33 50.8	1 1.5	21.30	
知っている人にいる	実数 185 比率 100.0	23 12.4	92 49.7	69 37.3	1 0.5	20.29	
自分の周りにはいない	実数 276 比率 100.0	59 21.4	153 55.4	61 22.1	3 1.1	18.53	
わからない	実数 203 比率 100.0	57 28.1	94 46.3	49 24.1	3 1.5	18.07	
無回答	実数 40 比率 100.0	8 20.0	20 50.0	6 15.0	6 15.0	17.32	
身の周りの性的マイノリティの状況	自分自身がそうである	実数 9 比率 100.0	-	7 77.8	2 22.2	-	19.22
	家族・親戚にいる	実数 12 比率 100.0	1 8.3	6 50.0	5 41.7	-	19.75
	親しくしている人にいる	実数 31 比率 100.0	4 12.9	12 38.7	15 48.4	-	21.97
	知っている人にいる	実数 79 比率 100.0	10 12.7	34 43.0	35 44.3	-	21.06
	自分の周りにはいない	実数 293 比率 100.0	67 22.9	153 52.2	70 23.9	3 1.0	18.77
	わからない	実数 325 比率 100.0	71 21.8	164 50.5	86 26.5	4 1.2	18.47
	無回答	実数 45 比率 100.0	8 17.8	22 48.9	8 17.8	7 15.6	17.82
	身の周りの障がいのある人の状況	自分自身がそうである	実数 28 比率 100.0	3 10.7	15 53.6	9 32.1	1 3.6
家族・親戚にいる	実数 138 比率 100.0	26 18.8	64 46.4	47 34.1	1 0.7	19.58	
親しくしている人にいる	実数 49 比率 100.0	7 14.3	15 30.6	26 53.1	1 2.0	21.67	
知っている人にいる	実数 221 比率 100.0	40 18.1	113 51.1	66 29.9	2 0.9	19.46	
自分の周りにはいない	実数 201 比率 100.0	40 19.9	118 58.7	41 20.4	2 1.0	18.32	
わからない	実数 124 比率 100.0	42 33.9	58 46.8	23 18.5	1 0.8	17.29	
無回答	実数 33 比率 100.0	3 9.1	15 45.5	9 27.3	6 18.2	18.96	
人権問題啓発との接触度別	L	実数 669 比率 100.0	145 21.7	353 52.8	168 25.1	3 0.4	18.61
	H	実数 89 比率 100.0	5 5.6	34 38.2	49 55.1	1 1.1	22.64

人権問題啓発との接触度別については、属性別スコアのために新しくスコア化しており、ここで簡単に算出方法を記載する。スコア化には問 19 の8項目を用いており、「講演会」や「研修会・学習会」などの人権問題啓発について、「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」「参加した(読んだ)ことがない」の選択肢で意見を聴取している。「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」を「人権問題啓発と接触あり」として2点、「参加した(読んだ)ことがない」を「人権問題啓発と接触なし」として1点を与え、合計点を算出した。全項目無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大16点から最小1点のスコアを得る。スコア別の回答者数は表7のとおりである。9点以下を「L」、10点以上を「H」と2グループに分け、属性別スコアに用いた。

表7 人権問題啓発との接触度スコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
1点	4	0.5%	669 84.3%	L
2点	7	0.9%		
4点	3	0.4%		
5点	39	4.9%		
6点	8	1.0%		
7点	271	34.1%		
8点	299	37.7%		
9点	38	4.8%		
10点	30	3.8%		
11点	16	2.0%		
12点	15	1.9%		
13点	9	1.1%		
14点	13	1.6%		
15点	1	0.1%		
16点	5	0.6%		
無回答	36	4.5%	—	—
合計	794	100.0%		

V 調査結果からみえてきたもの

尼崎市人権文化いきづくまちづくり審議会
(人権についての市民意識調査及び職員意識調査専門部会)

(1)人権や差別をめぐる考え方についての意識

問3では、人権に関するさまざまな意見や考え方を示して、それについてどう思うのかを問うているが、「2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである」という意見について、「そう思う」が48.4%、「どちらかといえばそう思う」が31.0%と、この意見を肯定する回答は8割を占め、『そう思わない』は5.9%にすぎない。つまり、大半の回答者が憲法は国民が守るべきルールであると考えているのである。しかし、「日本国憲法は国民が守るべきルールである」という意見は間違っている。強大な力をもつ国家が暴走し、国民の権利を侵害することがないように、国民が国家に対して、してはいけないこと、しなければならないことを示したものが憲法であり、憲法は国家権力を縛り、国家の権力行使をコントロールするものである。したがって、憲法を守るのは国民ではなく、国家である。現に日本国憲法第99条には、憲法を尊重し、擁護する義務は、天皇、摂政、国务大臣、国会議員、裁判官、その他の公務員にあると明記されている。「日本国憲法は国民が守るべきルールである」という間違った意見を肯定する回答が8割を占めたことは、憲法を誤解している市民がそれだけ多いということであり、大きな問題である。

「9. 人権には必ず義務がともなう」という意見については、「そう思う」が21.2%、「どちらかといえばそう思う」が25.1%で、この意見を肯定する回答は46.3%である。そして、「どちらともいえない」が38.3%あるので、否定回答である『そう思わない』は13.5%にすぎない。人権はすべての人が生まれながらにもっている権利なので、何らかの義務を果たした人にだけ与えられるというものではない。したがって、「人権には必ず義務がともなう」という意見は間違っている。人権は無条件に、何らの前提もなく、すべての人がもっている権利なのである。

人権には義務がともなうという誤解は、義務を果たさないで権利を主張してはいけないというように、権利の行使を制約することになる。とりわけ、この誤解は、社会的弱者・少数者が自分の権利行使を抑制してしまうことにつながる。この点については、「7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」という意見を肯定する回答(36.7%)が否定する回答(19.6%)を大きく上回っていることについても同様である。権利についての理解が権利の正当な行使につながるものであり、権利の理解を高めることは人権教育・啓発の課題であるといえる。なお、権利の行使に責任がともなうことは、いうまでもない。責任と義務を混同している市民が少なくないのではないかと。

「10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」という意見については、『そう思う』が31.2%、『そう思わない』が29.7%と、賛否が分かれ、「どちらともいえない」が4割近くとなっている。差別に反対する活動が差別をなくすことにはならないという考え方は、部落問題について教育や啓発をしなければ、部落差別は自然になくなっていくという「寝た子を起すな」という主張と重なるものである。人権問題については、その不当性を指摘する当事者をはじめとする人たちによるさまざまな取り組みが問題解決につながってきたことは事実であり、この事実を教育・啓発を通じて伝えていくことが大事である。

問6の「2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい」という意見については、『そう思う』が28.6%、『そう思わない』が27.2%と、賛否ほぼ同数であるが、ともに3割に達していない。これは判断を保留する「どちらともいえない」という回答が42.2%あったためである。「夫の姓を名乗る方がよい」という意見は、「家族の代表は

夫(男)である」という家父長制的な主張であるといえる。

問 7 の「9. 子どもは成長途上なので、人権が制限される」という意見については、『そう思う』が 13.0%と、低い値であるが、「どちらともいえない」が 29.0%あるために、『そう思わない』の回答割合が 6 割に達していない。子どもを「権利の主体」としてとらえる考え方が広がるような教育・啓発が必要である。

問 8 の「9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい」という意見については、『そう思う』27.0%、『そう思わない』20.4%で、賛否ともに低い割合となっているが、これは判断を保留する回答である「どちらともいえない」が 51.1%あるためである。「生活する地域社会において、インクルーシブで質の高い無償の初等教育及び中等教育にアクセスすることができる」という障害者権利条約の規定の意義を伝える教育・啓発が必要である。

問 13 の「4. 部落差別を受ける人が一定の地域にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい」という意見については、『そう思う』30.5%、「どちらともいえない」49.4%、『そう思わない』16.8%と、肯定回答が否定回答を上回り、「どちらともいえない」がほぼ半数を占めている。しかし、この意見は部落差別の原因を差別される側に求めるものであり、同和地区は部落出身者が固まって住んでいる閉鎖的などころであるという誤解を根拠としている。

以上みてきたように、賛否が分かれる意見については「どちらともいえない」という回答の多いことが目立っていた。「どちらともいえない」は賛否を判断するには情報が少ない場合に多くなるといえる。それゆえ、市民が正しく判断できる情報提供につながる教育・啓発の推進が重要である。

問 15 で、現在、部落差別がどのように起きているのかを問うと、「わからない」という回答が 4 割台と、多くみられた。また、問 16 で部落差別(同和問題)について初めて知ったきっかけを問うと、10 歳代、20 歳代で「知らない」という回答が 2~3 割あった。部落差別についてリアリティをもつことができ、基本的な理解を促す教育・啓発が必要であるといえる。

(2)年齢別比較からみえてきた特徴

これまで全国各地で実施されてきた人権意識調査では、年齢が若くなるほど人権意識が高いという傾向がみられることが多かった。つまり、中高年層よりも若年層のほうが人権意識が高いという傾向である。これは年齢が若いほど学校で人権教育を受けたという経験をもつ人が多く、さまざまな人権課題に関する情報に接する機会も多いことによるといえる。

今回の調査でも、こうした傾向がみられた。例えば、問 9 の性的マイノリティに関する設問では、「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」という意見に対して『そう思わない』と回答した割合は、80 歳以上で 12.2%、70 歳代で 25.6%と低かったが、年齢が若くなるにしたがって上昇し、20 歳代では 73.0%となっている。このように、年齢が若くなるほど同性愛者に対する忌避意識が弱くなっているのである。

しかし、21 世紀に入って以降、若い年齢層の回答結果に人権意識の高さがうかがわれないうような新たな傾向が目立ってきている。年齢別比較において有意差が認められた項目について、その新たな傾向をあげると、以下のようである。

問 7 の「8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる」という意見について、『そう思う』が最も多かったのは 10 歳代で、その割合(22.6%)は全体の 10.4%を大きく上回っている。不登校を社会の問題ではなく、個人の問題に帰する回答が 10 歳代で多いのである。

問 8 の「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」という意見について、『そう思

う』が最も多かったのは 30 歳代である(35.3%)。そして、10 歳代から 40 歳代でも 25%を上回り、20%を下回っている 60 歳以上とは対照的である。また「2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない」について、『そう思う』が最も多かったのは 40 歳代であったが(28.4%)、10 歳代から 30 歳代でも 20%を上回っている(50 歳以上の年齢層では 20%未満)。そして、「3. 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」と「4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」という意見について、『そう思う』が最も多いのは、ともに 20 歳代で(51.7%、42.3%)、10 歳代から 40 歳代でも高い値を示している。

さらに問 8 の「5. 障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」「6. 店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない」「9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい」について、『そう思う』が最も多いのは、いずれも 10 歳代となっている。そして、問 13 の「6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない」という意見について、『そう思う』が最も多いのは 10 歳代で、その割合(25.8%)は全体の 8.9%を大きく上回っている。

このように、障がい者や高齢者の入居や就職について、自己責任論に依拠したような回答が 10 歳代から 40 歳代で多くみられるのであり、障がいのある人に対する忌避意識が強く、障がいのある人のさまざまな社会参加に対する寛容さに欠けるという傾向などが 10 歳代でとくに顕著である。

以上にみえてきた若年層の回答傾向は、これからの人権教育・啓発の課題が非常に大きいことを示しているといえよう。

つぎに、性別比較について、とくに大きな差がみとめられた項目についてみておきたい。問 6 の「8. 男性は家族を養って一人前だ」「9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい」という意見について、『そう思う』の割合は、前者で男性 34.9%、女性 16.2%、後者では男性 16.7%、女性 1.7%と、男女差が非常に大きい。また、問9の性的マイノリティに関する設問でも、男性のほうが性的マイノリティへの忌避意識が強く、同性婚を容認しない回答が多いなどの結果がみられた。

(3)設問間のクロス集計からみえてきた特徴

設問間のクロス集計を行い、そのなかで有意差がみとめられたものについては、「設問間クロス」として報告書に表を示したが、そのなかで差がとくに大きかったものをあげると、以下のようである。

問 13 の「14. 新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見に対して、『そう思う』と回答した人(肯定派)と『そう思わない』と回答した人(否定派)を比較すると、問 3 の「1. 差別する人だけではなく、差別される人にも問題がある」に『そう思う』と回答した割合は、肯定派 33.8%、否定派 20.7%であった。つまり、「マスメディアからの情報よりも SNS の情報のほうが信頼できる」という意見を肯定する人のほうが「差別する人だけではなく、差別される人にも問題がある」という意見を肯定する傾向がみられるのである。同様に他の意見について『そう思う』の回答割合をみていくと、問 7 の「5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある」では肯定派 25.7%、否定派 8.4%、問 10 の「1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」では肯定派 24.3%、否定派 11.1%、問 10 の「3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」では肯定派 31.1%、否定派 6.9%、問 10 の「5. 外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい」では肯定派 44.6%、否定派 15.5%、問 13 の「6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない」では、肯定派 23.0%、否定派 6.7%、問 13 の「8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ」では肯

定派 23.0%、否定派 49.3%となっている。このように、マスメディアの情報よりも SNS の情報のほうを信頼できると考える人のほうが自己責任論に依拠したような回答傾向が目立ち、外国人に対する忌避意識が強く、ヘイトスピーチを容認し、反差別の取り組みに対して否定的であるという傾向が強くみられた。この結果は、メディアリテラシー教育の重要性を強く示唆している。

問 3 の「9. 人権には必ず義務がともなう」という意見に対して『そう思う』と回答した人(肯定派)と『そう思わない』と回答した人(否定派)を比べると、問 7 の「4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない」に『そう思う』と回答した割合は、肯定派 11.7%、否定派 3.7%、同様に『そう思う』の回答割合をみていくと、問 8 の「1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない」では肯定派 28.1%、否定派 16.8%、問 8 の「2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない」では肯定派 25.6%、否定派 14.0%、問 8 の「4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない」では肯定派 34.6%、否定派 24.3%、問 9 の「2. 男どうし女どうしの結婚も認めるべきだ」では肯定派 48.0%、否定派 61.7%、問 10 の「6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ」では肯定派 52.0%、否定派 67.3%となっている。このように、人権には必ず義務がともなうと誤解している人のほうが人権の視点から問題のあるとみなされる回答を多くしているといえる。権利の理解を高める教育・啓発が必要である。

問 9 の「6. 日本では性的マイノリティの人口は 1%未満である」という意見に対し、『そう思う』と回答した人(肯定派)と『そう思わない』と回答した人(否定派)を比較すると、「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」という意見について『そう思う』と回答した割合は、肯定派 61.8%、否定派 19.9%であった。以下、同様に『そう思う』の回答割合を示すと、「2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」肯定派 33.3%、否定派 70.7%、「3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない」肯定派 42.2%、否定派 17.0%、「4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」肯定派 23.5%、否定派 2.9%である。いうまでもなく、性的マイノリティの人口比は 2%弱から 10%まで、さまざまな指摘があるが、1%未満は明らかに間違いといえる。つまり、肯定派は誤解をしている人、否定派は誤解をしていない人となるが、誤解をしている人のほうが性的マイノリティへの忌避意識が強く、同性婚を容認しない傾向にある。したがって、性的マイノリティへの誤解を解き、理解を高める教育・啓発が重要であるといえる。

問 12 では、「あなたの周りには次のような人はいますか」と、「部落(同和地区)出身者」「外国籍住民」「性的マイノリティ」「障がいのある人」をあげて問うているが、その回答別にクロス集計を取り、有意差がみられたものをあげると、以下のようになる。

問 9 の「1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」という意見に対して『そう思う』と回答した割合は、性的マイノリティが「親しくしている人」にいるという人で 16.1%、「知っている人」にいるという人で 16.5%、「自分の周りにはいない」という人で 36.2%であった。同様に『そう思う』の回答割合をみると、問 9 の「2. 男どうし女どうしの結婚も認めるべきだ」では「親しくしている人」にいる 83.9%、「知っている人」にいる 75.9%、「自分の周りにはいない」46.4%、問 9 の「3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない」では「親しくしている人」にいる 6.5%、「知っている人」にいる 10.1%、「自分の周りにはいない」33.4%と、このように、性的マイノリティと親しくしているという人ほど、性的マイノリティに対して忌避意識が弱く、理解が高いといえる。

社会的少数者との接触程度が高いほど、その社会的少数者に対する忌避意識が弱く、偏見をもたないという傾向は、性的マイノリティにみとめられたが、障がいのある人や外国籍住民ではみられなかった。部落(同和地

区)出身者に関しては、問 14-1 の結婚に関する設問で、「迷わず結婚する」と「家族や親戚の反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」を合わせた『結婚する』の割合が「親しくしている人」に「いる」76.7%、「知っている人」に「いる」64.6%、「自分の周りにはいない」54.2%と、違いが出ていた程度であった。

VI 調査票

尼崎市 人権についての市民意識調査

◎この調査はパソコン・スマートフォンからも回答することができます。
右記二次元コードまたは下記 URL よりご回答ください。
URL:<https://src.webcas.net/form/pub/src2/a282022si>



◇ID

◇パスワード

※上記の ID・パスワードは、二重回答を防ぐためのものです。この番号から個人を特定することはできません。

問1 あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じられますか。あなたのお気持ちに最も近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 非常に身近に感じている | 2. どちらかといえば身近に感じている |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば身近に感じていない |
| 5. まったく身近に感じていない | |

問2 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題がありますが、あなたが、関心を持っているもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 女性に関する問題 |
| 2. 子どもに関する問題 |
| 3. 高齢者に関する問題 |
| 4. 障がいのある人に関する問題 |
| 5. 外国籍住民に関する問題 |
| 6. 部落差別(同和問題) |
| 7. アイヌの人々に関する問題 |
| 8. 刑を終えて出所した人に関する問題 |
| 9. 犯罪被害者に関する問題 |
| 10. HIV 感染者・新型コロナウイルス感染者などに関する問題 |
| 11. ハンセン病元患者・回復者やその家族に関する問題 |
| 12. インターネットによる人権侵害の問題 |
| 13. ホームレスに関する問題 |
| 14. 性的マイノリティ(少数者)に関する問題 |
| 15. 災害に伴う人権侵害の問題 |
| 16. その他(具体的に: _____) |
| 17. とくに関心をもっているものはない |

問3 人権についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	1	2	3	4	5
2. 日本国憲法は国民が守るべきルールである	1	2	3	4	5
3. 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある	1	2	3	4	5
4. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ	1	2	3	4	5
5. 自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている	1	2	3	4	5
6. 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	1	2	3	4	5
7. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ	1	2	3	4	5
8. 個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ	1	2	3	4	5
9. 人権には必ず義務がともなう	1	2	3	4	5
10. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5

問4 人権についての相談先について、ご存知のもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 国の機関(法務局、労働局など)の相談窓口 2. 県の機関(兵庫県人権啓発協会、兵庫県LGBT相談窓口、ひょうごっ子悩み相談センターなど)の相談窓口 3. 市の機関(市民相談窓口、じんけんなんでも相談隊、尼崎人権啓発協会、女性・勤労婦人センター)の相談窓口 4. NPO などの民間(インターネット上で展開しているものを含む)の相談窓口 5. 人権擁護委員 6. 民生・児童委員 7. 法テラス 8. 警察 9. その他(具体的に: _____) 10. いずれも知らない |
|--|

問5 あなたは、ここ5年以内に、自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。(○は1つだけ)

1. ある →問5-1、問5-2へ 2. ない →問6へ 3. わからない →問6へ

問5で「2. ない」あるいは「3. わからない」とお答えいただいた方は問6へお進みください。

問5-1 と問5-2 は、問5で「1. ある」とお答えいただいた方におたずねします。

問5-1 どのような人権侵害でしたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)

1. あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害
2. 公的機関や学校・企業・団体による不当な扱い
3. 地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ
4. 職場でのいじめや嫌がらせ
5. 家庭での暴力や虐待
6. 学校でのいじめや体罰
7. 信条・性別・性的指向・性自認・年齢・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い
8. パワーハラスメント(職場で職務権限を用いて行う、いやがらせやいじめなど)
9. カスタマーハラスメント(顧客などからの著しい迷惑行為)
10. セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
11. DV(配偶者やパートナーからの暴力)
12. インターネット(SNSなど)による人権侵害
13. その他(具体的に: _____)

問5-2 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. 友達、同僚などに相談した | 2. 家族、親戚に相談した |
| 3. 警察に相談した | 4. 弁護士に相談した |
| 5. 県や市町村に相談した | 6. 法務局や人権擁護委員などの国の機関に相談した |
| 7. 職場の相談窓口で相談した | 8. 民間団体などに相談した |
| 9. 民生・児童委員などの地域の人に相談した | 10. 新聞などのマスコミに訴えた |
| 11. 自分で相手に抗議した | 12. とくに何もしなかった |
| 13. その他(具体的に: _____) | |

問6 「性別役割や男らしさ・女らしさ」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはど
う思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1. 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ	1	2	3	4	5
2. 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい	1	2	3	4	5
3. 妊娠・出産などを理由に、女性が退職を迫られることがあつても仕方がない	1	2	3	4	5
4. 職場などで女性の管理職が男性に比べて少ないことは問題だ	1	2	3	4	5
5. 性的被害については、それを受ける女性のほうにも問題があるケースが多い	1	2	3	4	5
6. 国会議員に占める女性の割合が低いことは問題だ	1	2	3	4	5
7. 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けることは問題だ	1	2	3	4	5
8. 男性は家族を養って一人前だ	1	2	3	4	5
9. 男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしい	1	2	3	4	5
10. 特段の事情がない限り、男性は育児休暇を取るべきではない	1	2	3	4	5

問7 「子どもの人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはど
う思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることは仕方がない	1	2	3	4	5
2. 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ	1	2	3	4	5
3. 学校のルールなどを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない	1	2	3	4	5
4. 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは仕方がない	1	2	3	4	5
5. いじめは、いじめを受ける子どもにも問題がある	1	2	3	4	5
6. 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	1	2	3	4	5
7. 家族の世話のために、子どもが学校を休んだり、部活動に行けなかったりすることは問題だ	1	2	3	4	5
8. 不登校は本人が努力すれば登校できるようになる	1	2	3	4	5
9. 子どもは成長途上なので、人権が制限される	1	2	3	4	5

問8 「高齢者や障がいのある人の人権」についていろいろな考え方がります。次のことについてあなたは
どう思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	どちらか といえば そう 思う	どちら とも いえ ない	どちらか といえば そう 思わ ない	そう 思わ ない
1. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が高齢者を断ることは仕方がない	1	2	3	4	5
2. 賃貸住宅の入居にあたって、家主が障がいのある人を断ることは仕方がない	1	2	3	4	5
3. 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない	1	2	3	4	5
4. 障がいのある人の就職が困難であったり、労働条件が低くなるのは仕方がない	1	2	3	4	5
5. 障がいのある人に対して、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる	1	2	3	4	5
6. 店の立地や構造、規模などを理由に、障がいのある人の入店を断ることは仕方がない	1	2	3	4	5
7. 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは問題だ	1	2	3	4	5
8. 介護や介助を受ける高齢者や障がいのある人があまり自己主張するのはよくない	1	2	3	4	5
9. 障がいのある子どもは、特別支援学校に通うほうが本人にとってもよい	1	2	3	4	5

問9 「性的マイノリティの人権」についていろいろな考え方がります。次のことについてあなたは
どう思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	どちらか といえば そう 思う	どちら とも いえ ない	どちらか といえば そう 思わ ない	そう 思わ ない
1. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない	1	2	3	4	5
2. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ	1	2	3	4	5
3. 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきか、わからない	1	2	3	4	5
4. 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	1	2	3	4	5
5. アウティング(本人の了承を得ずに本人が公にしている性的指向や性自認を他の人に伝えること)は重大な人権侵害である	1	2	3	4	5
6. 日本では性的マイノリティは人口の1%未満である	1	2	3	4	5

問10 「外国籍住民の人権」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ	1	2	3	4	5
2. 日本の学校に通う外国人の子どもに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障すべきだ	1	2	3	4	5
3. 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	1	2	3	4	5
4. 景気の悪化が理由とはいえ、外国人労働者から解雇することは問題だ	1	2	3	4	5
5. 外国人は考え方などが日本人と違うので、日本社会に受け入れることはむずかしい	1	2	3	4	5
6. 外国人であることを理由に、賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ	1	2	3	4	5
7. 住民投票への参加や地方参政権が外国人に認められないことは問題だ	1	2	3	4	5
8. 本名(民族名)では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないことは問題だ	1	2	3	4	5
9. 外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ(※下欄参照)	1	2	3	4	5

解説

「外国人学校・民族学校」について

外国人学校や民族学校は、義務教育課程に相当する教育を実施しているとみなされているものの、学校教育法第1条に規定されている学校ではない(各種学校扱い)ことから、私立学校と同等の補助を受けられていない現状があります。

問11 地域社会で、外国籍住民と共に暮らすことについてどう思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. 多様性が豊かな社会になる | 2. 地域経済の活性化、発展につながる |
| 3. 外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える | 4. 地域の国際化に貢献する |
| 5. 習慣や文化の違いから、外国籍住民とトラブルが起こるおそれがある | |
| 6. 日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある | |
| 7. 治安が悪化するおそれがある | 8. 日本固有の文化がそこなわれる |
| 9. その他(具体的に:) | 10. 当てはまるものはない |

問12 あなたの周りには次のような人はいますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	自分自身が そうである	家族・親戚に いる	親しくしている 人にいる	知っている人に いる	自分の周りには いない	わからない
1. 部落(同和地区)出身者	1	2	3	4	5	6
2. 外国籍住民	1	2	3	4	5	6
3. 性的マイノリティ	1	2	3	4	5	6
4. 障がいのある人	1	2	3	4	5	6

問13 「様々な人権問題」についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. ホームレスになるのは、本人の責任が大きい	1	2	3	4	5
2. 罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない	1	2	3	4	5
3. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく	1	2	3	4	5
4. 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまっ生活しないで、分散して住むようにすればよい	1	2	3	4	5
5. ハンセン病患者が強制隔離されたことについては仕方のない側面もあった	1	2	3	4	5
6. 災害などの緊急時に外国人などに特別な配慮ができなくても仕方がない	1	2	3	4	5
7. 凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ	1	2	3	4	5
8. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないことは問題だ	1	2	3	4	5
9. 犯罪被害者が名前や住所や顔写真などを報道されることは問題だ	1	2	3	4	5
10. インターネット上の書込みは、差別的なものであっても、表現の自由に関わる問題なので安易に情報の規制は行うべきではない	1	2	3	4	5
11. 宅地の購入に際して、その場所が同和地区であるかどうか、市役所などに問い合わせることは問題だ	1	2	3	4	5
12. 就職の面接で人事担当者が就職希望者に家族構成を聞くことは問題だ	1	2	3	4	5
13. 出生前診断で胎児に障がいがあると分かった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない	1	2	3	4	5
14. 新聞やテレビなどのマスメディアからの情報よりも、SNSで得られる情報のほうが信頼できる	1	2	3	4	5

問14 あなたがもし結婚するとして、結婚相手にはどのような条件を重視しますか。相手が女性・男性それぞれの場合を想像して、特に重要だと思うものをそれぞれ3つずつ選んで、()内に番号をご記入ください。

1. 職業	2. 性格	3. 家庭環境	4. 収入・財産
5. 家柄	6. 容姿・身なり	7. 教養・センス	8. 思想・信条
9. 行動力・実行力	10. 趣味・特技	11. 健康状況	12. 学歴
13. 家事能力	14. 年齢	15. 宗教	

相手が女性の場合 → () () ()

相手が男性の場合 → () () ()

問14-1 問14で選んだ条件を満たしている人が現れたとして、次のような人であった場合、あなたはどうかされますか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	迷わず結婚する	家族や親戚の反対があれば、 できるだけ理解を得て結婚する	家族や親戚の反対があれば、 結婚しない	結婚しない
1. 部落(同和地区)出身者	1	2	3	4
2. 在日コリアン	1	2	3	4
3. 障がいのある人	1	2	3	4

問15 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	あきらかな 差別がある	どちらか と い え ば 差 別 が あ る	ほとんど 差別はない	差別はない	わからない
1. 日常の交流や交際について	1	2	3	4	5
2. 学校生活における教員の対応や子どもの交流について	1	2	3	4	5
3. 就職について	1	2	3	4	5
4. 結婚について	1	2	3	4	5
5. 同和地区内への引っ越しや同和地区内の住宅の購入について	1	2	3	4	5
6. インターネット上の書き込みについて	1	2	3	4	5

問16 部落差別(同和問題)について、初めて知ったきっかけは、何からですか。次の中から1つ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 家族や親戚から聞いた | |
| 2. 近所の人から聞いた | |
| 3. 職場の人から聞いた | |
| 4. 友人から聞いた | |
| 5. 学校の授業で教わった | |
| 6. インターネットやテレビなどで知った | |
| 7. 研修や講演会で知った | |
| 8. 県や市の広報紙などで知った | |
| 9. その他(具体的に: _____) | |
| 10. 部落差別(同和問題)を知らない | |

問17 もし、あなたが家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|--|--|
| 1. 同和地区内や、同和地区を含む小学校区内にある物件は避けると思う | |
| 2. 同和地区内にある物件は避けるが、同和地区を含む小学校区内の物件は避けたいと思う | |
| 3. いずれにあってもこだわらない | |
| 4. その他(具体的に: _____) | |

問18 あなたは、これまでに次のことについて学習したことがありますか。あてはまるもの全部に○をおつけください。(○はそれぞれいくつでも)

	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・大学院・専門学校で学んだ	職場研修で学んだ	はつきりと覚えていない	これまでに学んだ経験はない
1. 部落差別(同和問題)	1	2	3	4	5	6	7
2. 外国籍住民に関する問題	1	2	3	4	5	6	7
3. 性的マイノリティ(少数者)に関する問題	1	2	3	4	5	6	7
4. 障がいのある人に関する問題	1	2	3	4	5	6	7

問19 尼崎市では、人権問題について市民の理解を深めるために、「じんけんを考える市民のつどい」など、さまざまな形で催し物や広報紙などによる啓発を行っていますが、ここ数年の間に、あなたは参加した(読んだ)ことがありますか。参加したものについて意見をお聞かせください。あてはまるものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	参加した(読んだ)			参加した(読んだ)ことがない
	とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	
1. 講演会	1	2	3	4
2. 研修会・学習会	1	2	3	4
3. 映画上映会	1	2	3	4
4. パネル展示会	1	2	3	4
5. 地域交流の夏まつりなど	1	2	3	4
6. 広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布	1	2	3	4
7. ホームページ、インターネットなどを活用した啓発	1	2	3	4
8. その他(具体的に:)	1	2	3	4

→ 問19-1は、問19の1~8で「とても役に立った」~「役に立たなかった」とお答えいただいた方におたずねします。問19-1 参加されて、良かったと思う点や逆に良くなかった点があればご自由にお書きください。

問19-2は、問19の1~5で1つでも「参加した(読んだ)ことがない」とお答えいただいた方におたずねします。問19-2 一度も参加された(読んだ)ことがない理由をお選びください。(○はいくつでも)

1. イベントや講演会の開催、ポスターの作成や配布などについて知らなかった
 2. イベントや講演会が開催されることは知っていたが、時間や場所の都合で参加できなかった
 3. イベントや講演会が開催されることは知っていたが、関心のあるテーマではなかった
 4. 人権について、既に十分に理解しているため参加しなかった(読まなかった)
 5. 人権に関心がないので、参加しなかった(読まなかった)
 6. その他()

問20 あなたは次の人権に関する法律・条例などについてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	知っている	内容も含め 名前が聞いた ことがある	知らない
1. 世界人権宣言	1	2	3
2. 人権教育・啓発推進法	1	2	3
3. ハンセン病問題基本法	1	2	3
4. 障害者差別解消法	1	2	3
5. ヘイトスピーチ解消法	1	2	3
6. 部落差別解消推進法	1	2	3
7. アイヌ施策推進法	1	2	3
8. LGBT理解増進法	1	2	3
9. 情報流通プラットフォーム対処法(旧プロバイダ責任制限法)	1	2	3
10. 尼崎市男女共同参画社会づくり条例	1	2	3
11. 尼崎市人権文化いきづくまちづくり条例	1	2	3
12. 戸籍・住民票などの「本人通知制度」	1	2	3
13. 尼崎市パートナーシップ宣誓制度	1	2	3

問20-1 あなたは次の人権に関する用語についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

	知っている	内容も含め 名前が聞いた ことがある	知らない
1. マジョリティ特権	1	2	3
2. マイクロアグレッション	1	2	3
3. アンコンシャス・バイアス	1	2	3
4. 合理的配慮	1	2	3

問21 人権や差別について、ご意見があればご自由にお書きください。

※下記問 A、問 B はこれまでお聞きしたことを統計的に分析するための設問です。他の設問と合わせて集計を行い、今後の人権教育や人権啓発に役立てるために性別・年代別の傾向を読み取る必要がありますので、ご協力をお願いいたします。

A あなたの性別について、あてはまるところに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

B あなたの年齢について、あてはまるものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|----------|----------|----------|------------|
| 1. 10 歳代 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代 | 4. 40 歳代 |
| 5. 50 歳代 | 6. 60 歳代 | 7. 70 歳代 | 8. 80 歳代以上 |

あま咲きコインについて

- ・最後までご回答いただいた方へ、あま咲きコイン300ポイントを差し上げます。(※)
 - ・あま咲きコインの会員コードが誤っていた場合、ポイントの付与ができませんのでご注意ください。
- ※ポイントの付与は年内を予定しています。

◎枠内にあま咲きコインの会員コード(数字8桁)をご記入ください

◇あま咲きコイン会員コード



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。ご多忙の中、誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて10月18日(金)までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)